

令和5年度 福島県幼児教育に係る実態調査

1 調査の目的について

- 本県において0歳児から就学前の6歳児を預かる幼児教育施設の実態を把握するとともに、乳幼児期の教育や幼小連携の現状・課題等を幅広く収集し、現状を踏まえた幼児教育振興指針策定に資する基礎資料とする。

2 実施期間について

- 令和5年11月22日(水)～12月12日(火) ※ 本調査は悉皆調査ではない

3 対象施設及び調査内容について

- 国・県・市町村立、私立の認可されている幼児教育施設(幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育事業、特別支援学校幼稚部)
 - ・ 園の状況に関する事
 - ・ 自然災害や感染症等による影響に関する事
 - ・ 乳幼児の育ちに関する事
 - ・ 幼児教育の質の向上に関する事
 - ・ 幼小連携に関する事
 - ・ 家庭・地域との連携に関する事
- 国・県・市町村立、私立の小学校(義務教育学校含む)・特別支援学校小学部
 - ・ 幼小連携に関する事

4 回答者について

- 各幼児教育施設・学校において、学級担任をしていない管理職等の代表者1名

5 回答率等について(詳細は、P.1【資料1】、P.2【資料2】を参照)

- 幼児教育施設(特別支援学校幼稚部含む)・・・約58%(420園/723園)
- 小学校(特別支援学校小学部含む)……………約82%(320校/390校)

6 集計・分析について

- 設問ごとに、入力ミスや誤回答と思われるデータを確認の上、削除し、集計・分析を実施。(各設問ごとに、サンプル数「n」の値は異なる。)
- 幼児教育施設または小学校を大きなまとまりとして捉え、全体としての傾向をグラフで示す。
- 選択肢において「その他」を選択し、その内容の記述部分については、抜粋した形で示す。

< 目 次 >

「福島県幼児教育に係る実態調査」回答率	P. 1
回答園の設置主体、回答園の種類	P. 2

令和5年度 福島県幼児教育に係る実態調査【結果】

I 園の状況について	P. 3
II 自然災害や感染症による影響について	P. 5
III 乳幼児の育ちについて	P.13
IV 乳幼児の教育の質の向上について	P.17
V 幼小連携について(幼児教育施設からの回答結果)	P.33
幼小連携について(小学校からの回答結果)	P.38
VI 家庭・地域との連携について	P.45

【資料 1】

「福島県幼児教育に係る実態調査」回答率

幼児教育施設（特別支援学校幼稚部含む）全体の回答率 約58.1%
420/723

（単位：園・学校）

認可保育所 166				
市町村立	社会福祉法人	学校法人	個人	その他の法人
85	65	2	3	11

小規模保育事業施設 51				
市町村立	社会福祉法人	学校法人	個人	その他の法人
8	6	3	15	19

事業所内保育事業施設 4
その他の法人
4

家庭内保育事業施設 1
個人
1

幼保連携型認定こども園 68			
学校法人	市町村立	社会福祉法人	個人
29	26	12	1

保育所型認定こども園 2
市町村立
2

幼稚園型認定こども園 7	
学校法人	宗教法人
6	1

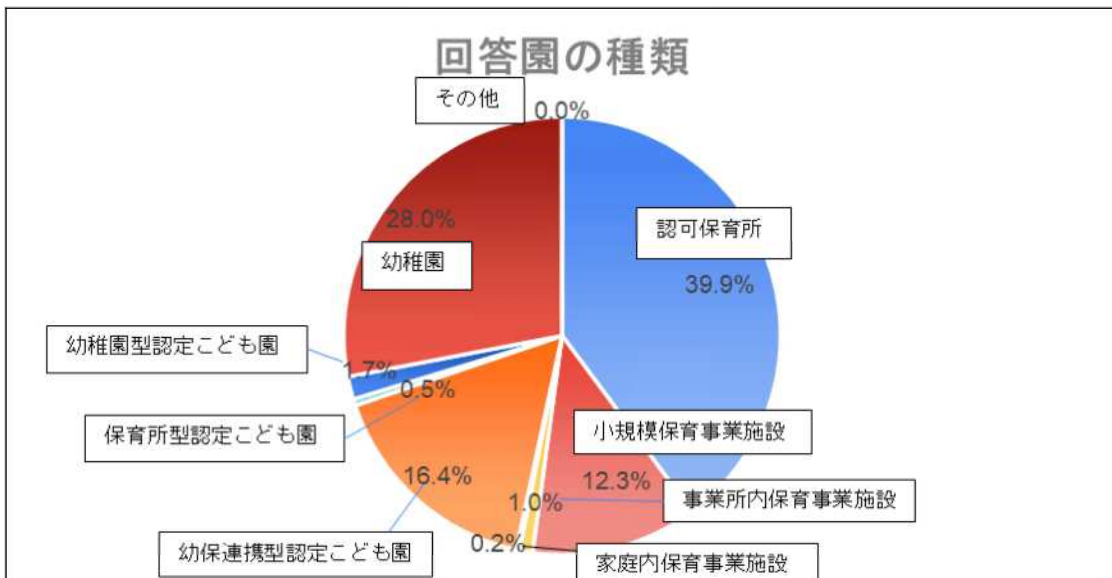
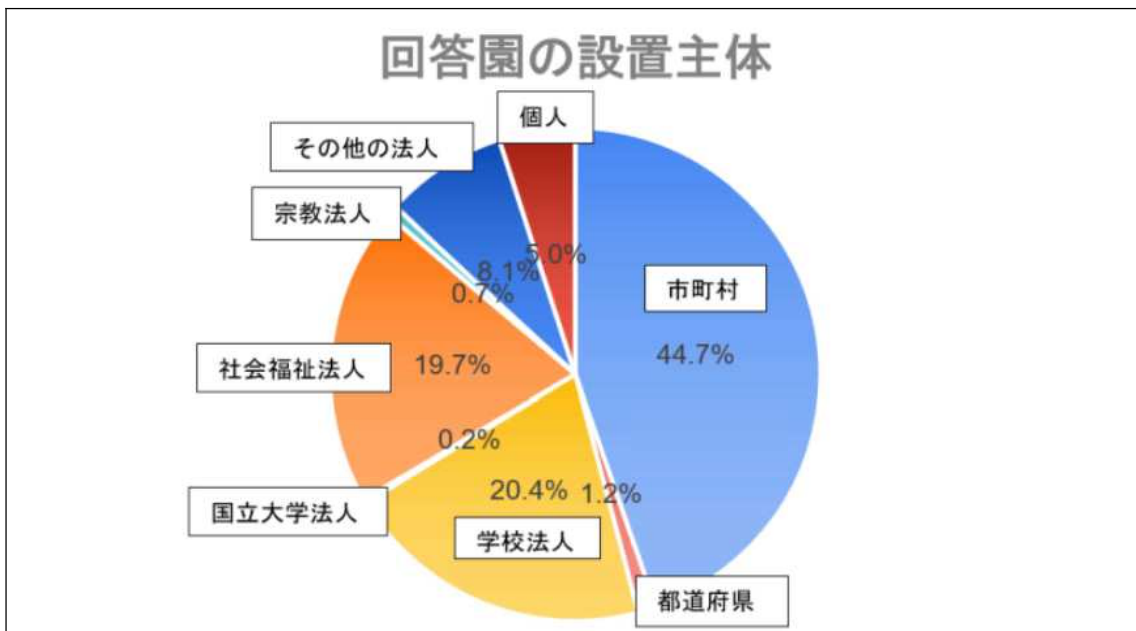
幼稚園 114				
市町村立	学校法人	宗教法人	国立	個人
65	45	2	1	1

幼稚部 5
県立
5

総合施設 2
市町村立
2

小学校（特別支援学校小学部含む）全体の回答率 約82.0 %
320/390

市町村立	県立	国立	学校法人
292	21	2	5

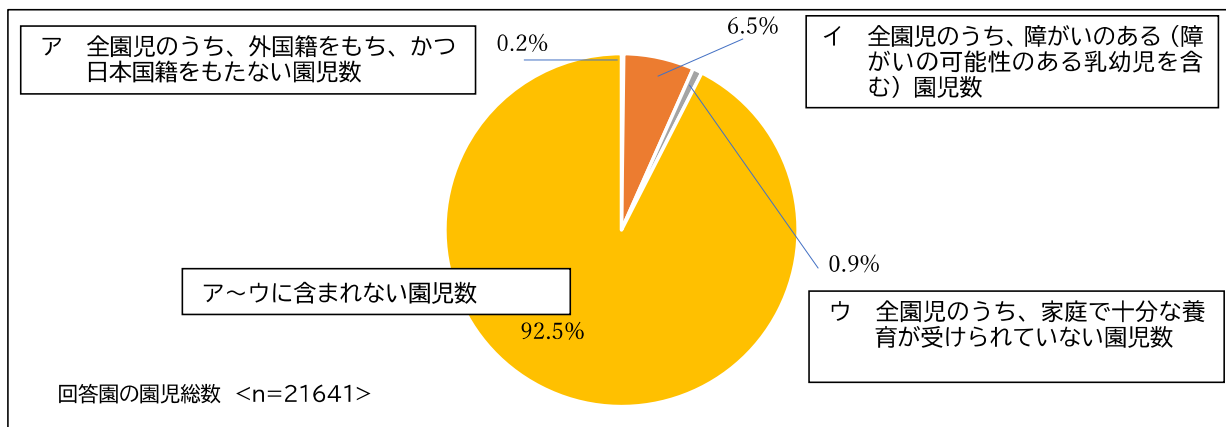


令和5年度 福島県幼児教育に係る実態調査【結果】

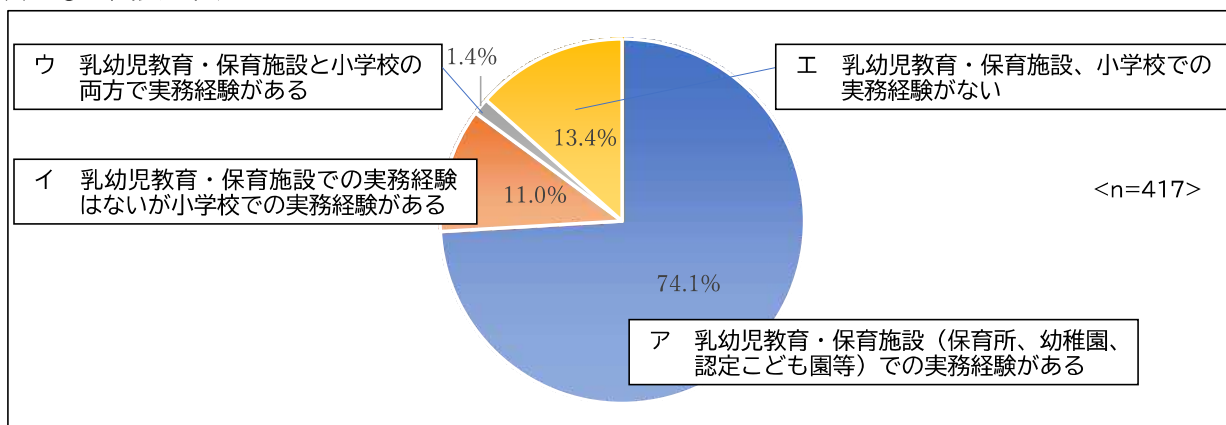
I 園の状況について

(1) 特別な配慮が必要な園児の割合

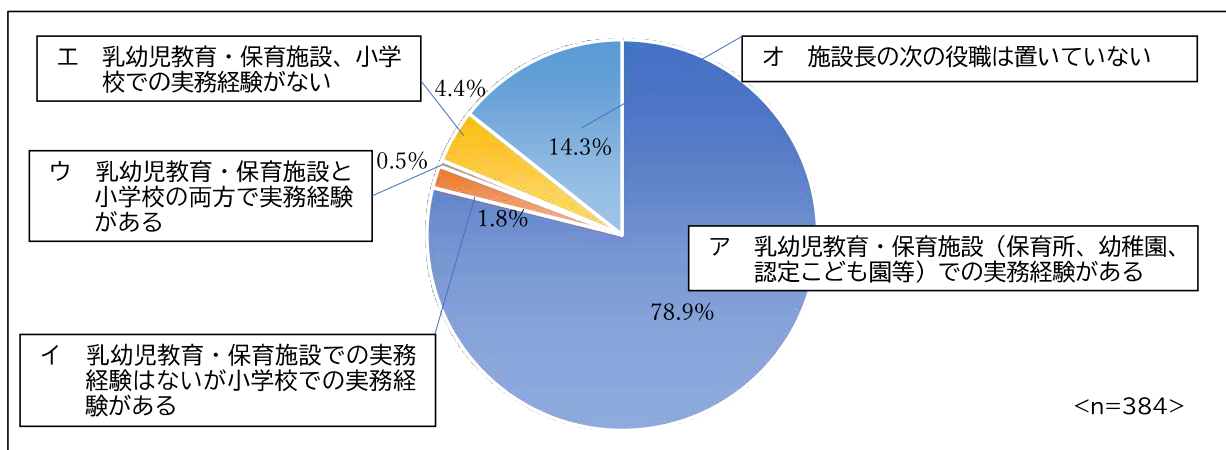
幼児教育振興指針 P.19【図3】



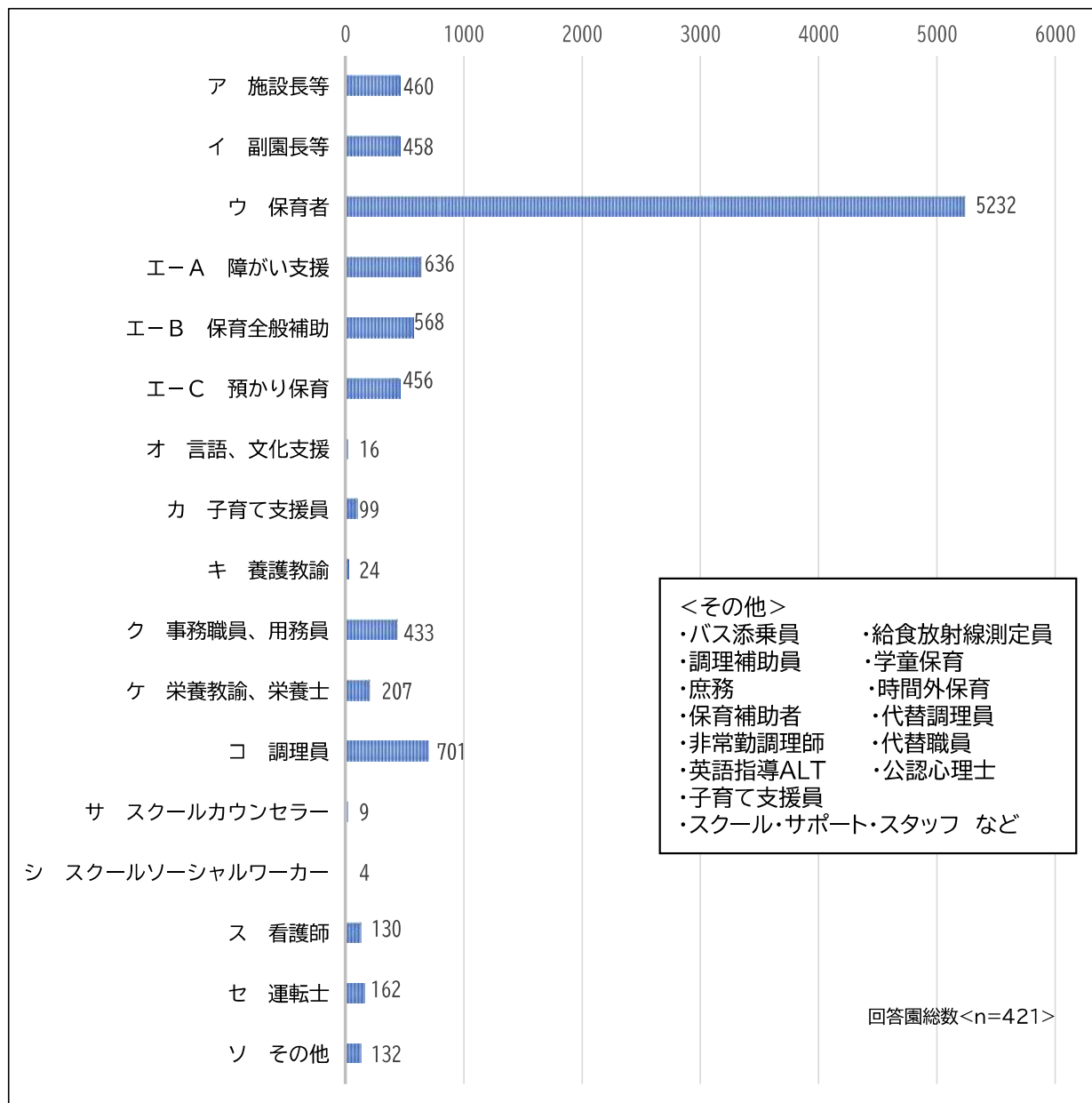
(2)―① 園長の経歴



(2)―② 副園長等の経歴

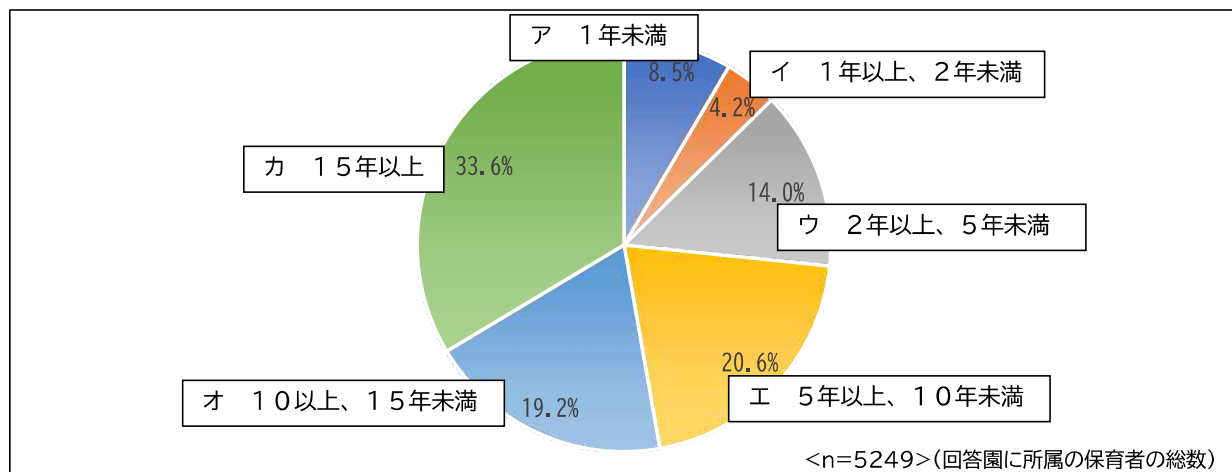


(2)一③ 業務内容別職員数（重複あり）



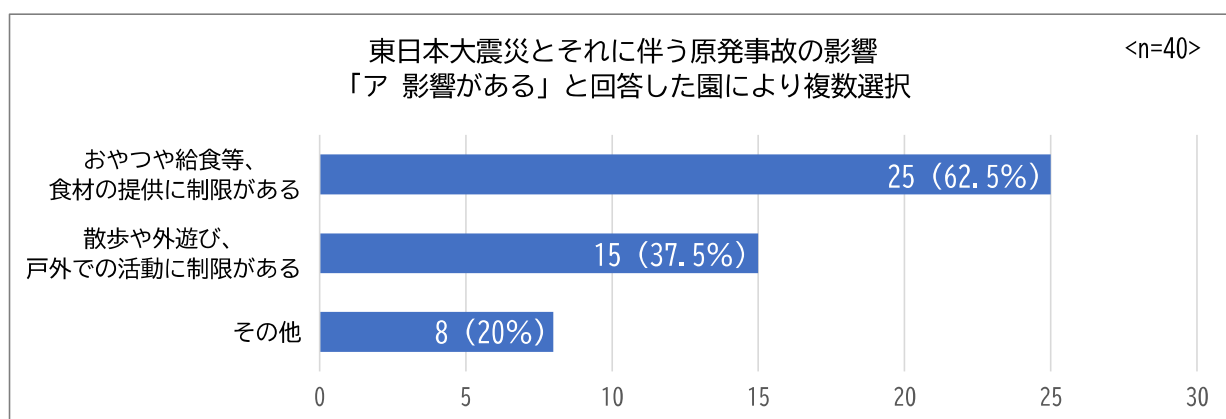
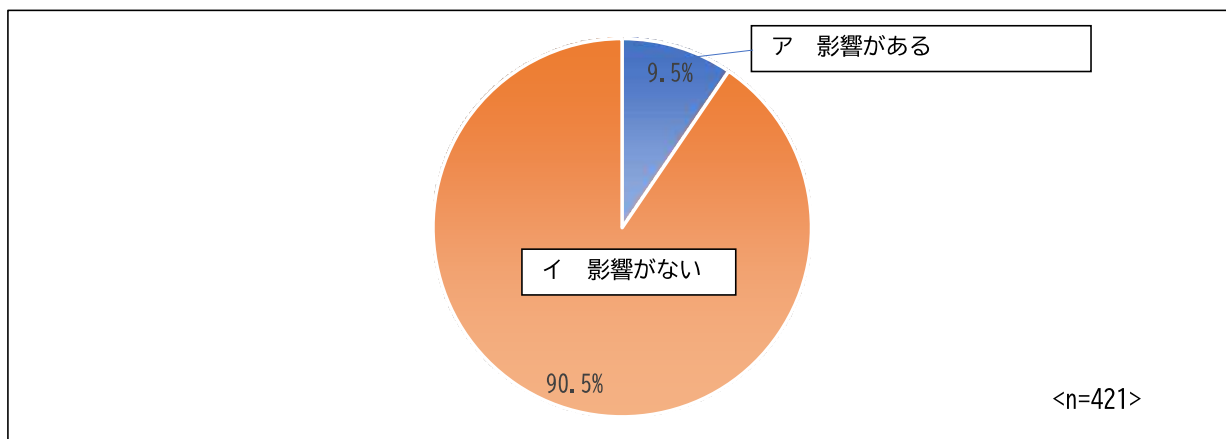
(2)一④ 保育者の経験年数ごとの割合

幼児教育振興指針 P.33【図 11】



Ⅱ 自然災害や感染症による影響について

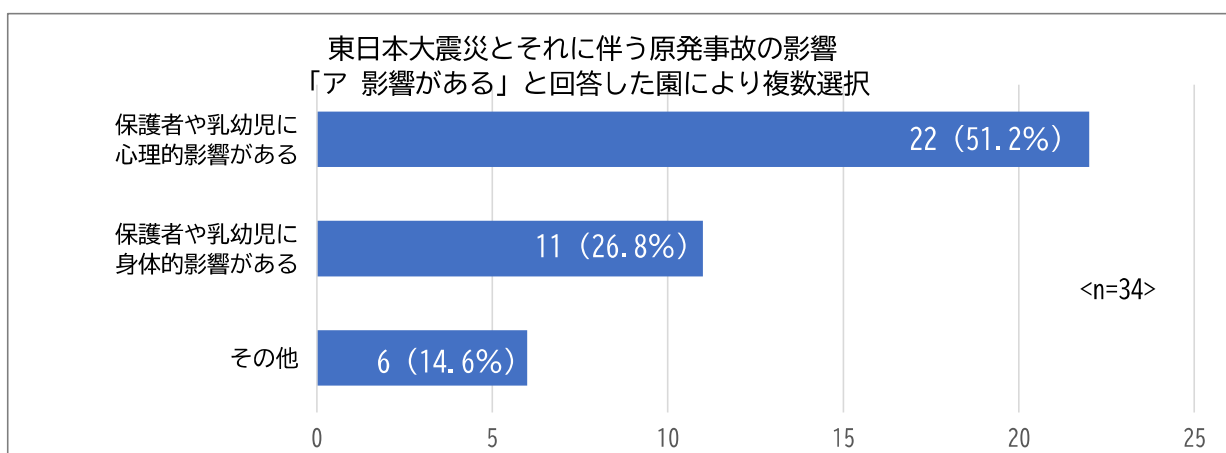
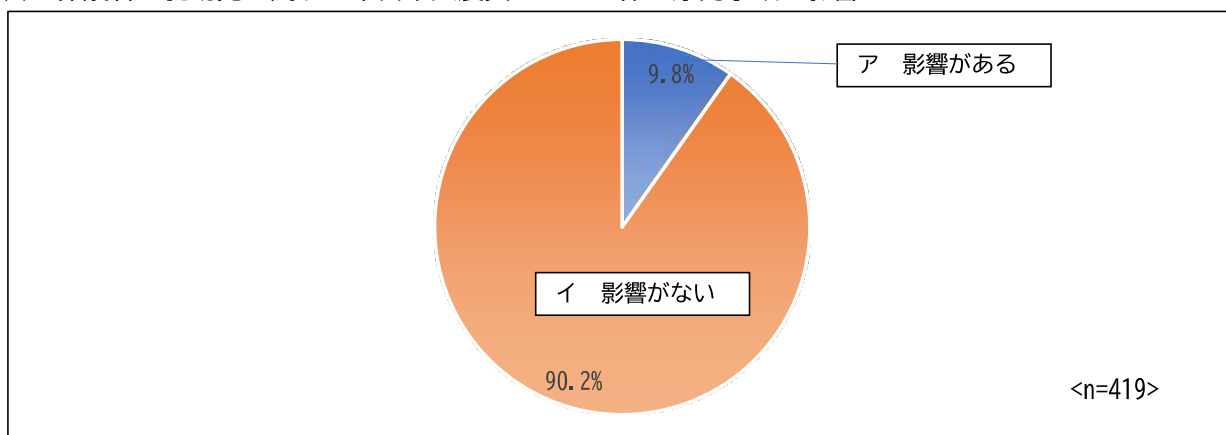
(1) 東日本大震災とそれに伴う原発事故の影響



【その他】

- ・栽培した野菜などの放射線測定検査の実施
- ・震災後、園庭の土を入れ替えた後、雑草の伸びがひどく、冬季以外は草刈り作業を頻繁に行わなければならなくなった。場合によっては園児の園庭での活動制限を出すことがある
- ・避難生活から通園距離が長くなった子どももいる など

(2) 保護者や乳幼児に関する東日本大震災とそれに伴う原発事故の影響



【ア 保護者や乳幼児に心理的影響がある場合の具体】

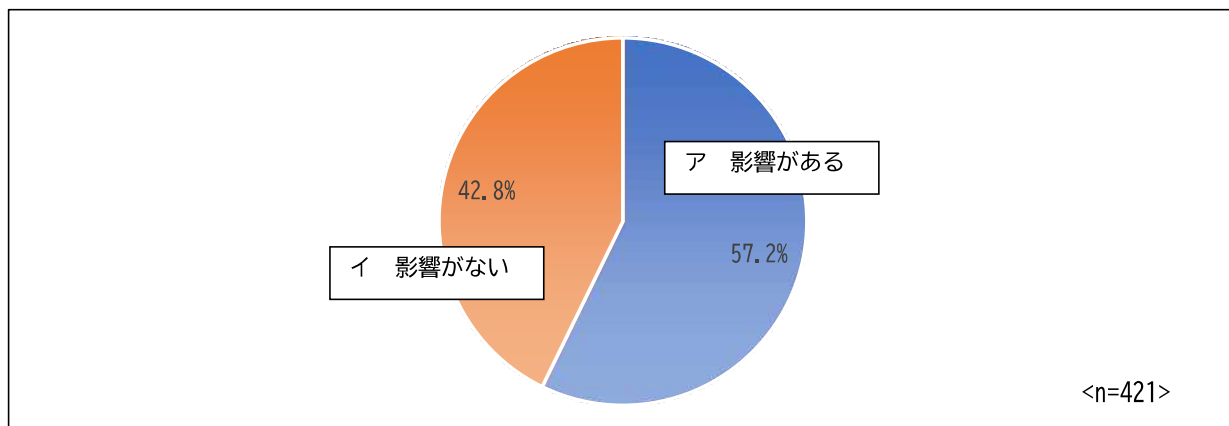
- ・コミュニケーション能力の不足
- ・過度にマスクをつける傾向
- ・ふるさとの喪失、家族形態の変化 (3世代同居から単身世帯への変化)
- ・震災時のことを思い出すと地震の恐怖がよみがえる
- ・緊急速報の音を聞くと震える
- ・地震 (低震度でも) が起きた際に過度に心配する保護者
- ・幼児がいる
- ・外遊びに敏感な保護者がいる
- ・食材や戸外での遊び場に対する不安
- ・外に出られない時期があった分ストレスが多くなった
- ・避難先での不安 など
- ・避難区域からの転入園での不安

【イ 保護者や乳幼児に身体的影響がある場合の具体】

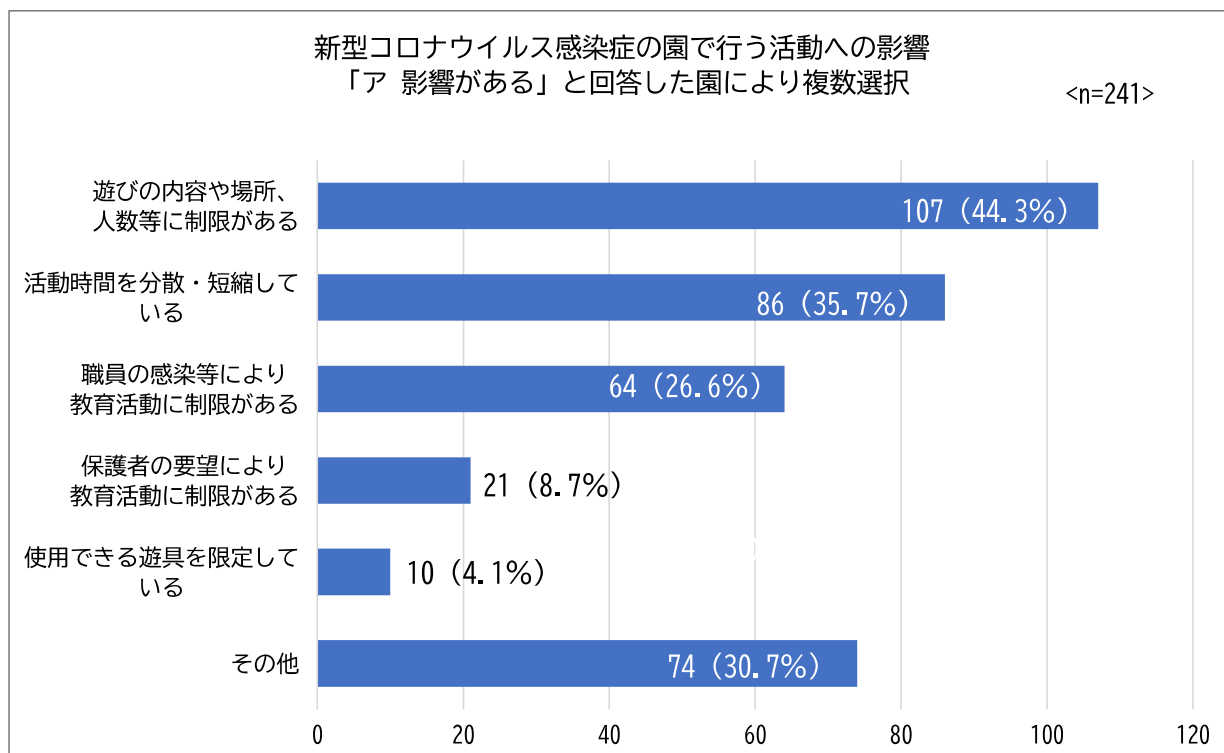
- ・肥満度や柔軟性、視力の低下、虫歯増
- ・クラスの中でのトラブルが増えた (噛みつき等)
- ・子どもも外で遊ぶことが苦手
- ・落ち着きがない
- ・集中力不足 など

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響

幼児教育振興指針 P.10 【図 3】



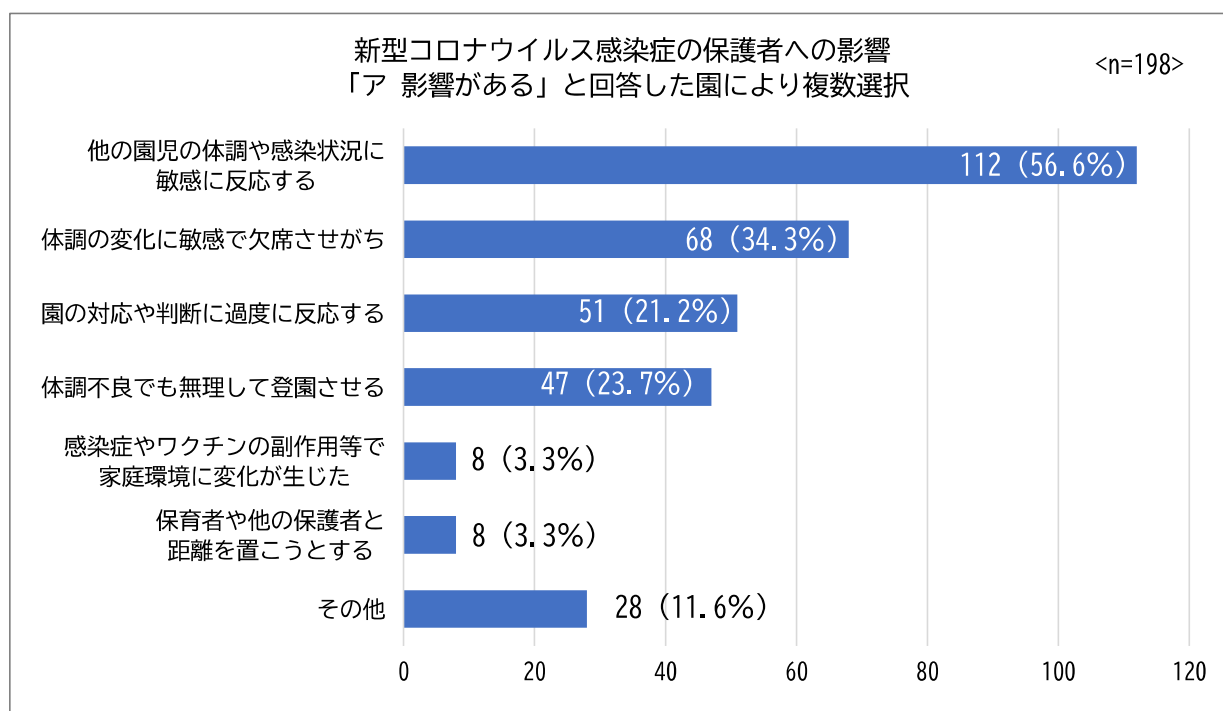
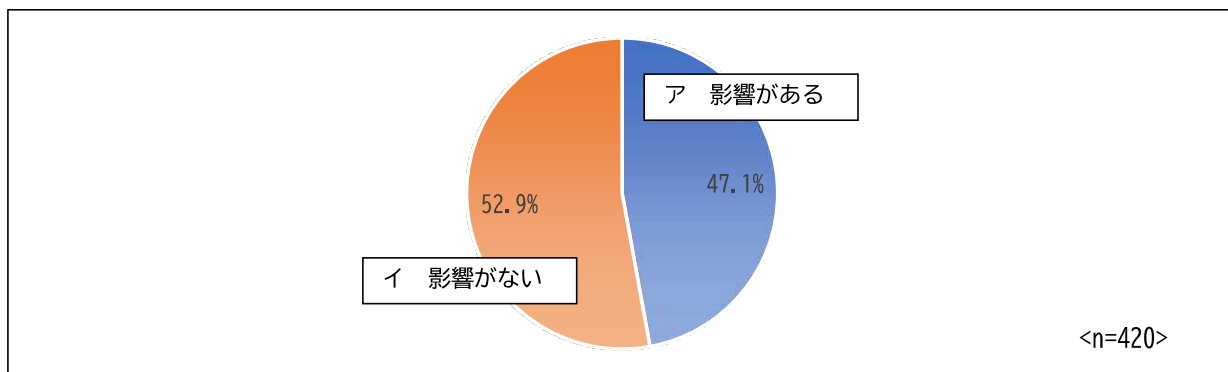
幼児教育振興指針 P.11 【図 4】



【その他】

- ・行事の持ち方、進め方の工夫を必要とする
- ・ICTの活用、オンラインによる職員の研修参加の増加
- ・保護者参加の行事等の規模縮小・人数制限
- ・食事をする際の席配置の工夫や昼食時のパーテーション使用
- ・職員の毎日の消毒作業
- ・様々な感染症拡大防止の保護者への周知
- ・換気 手洗い、消毒の徹底
- ・食育など、栽培物を園児が調理して食べる活動のしにくさ
- ・他集団との関わりを避ける ・マスク着用 など

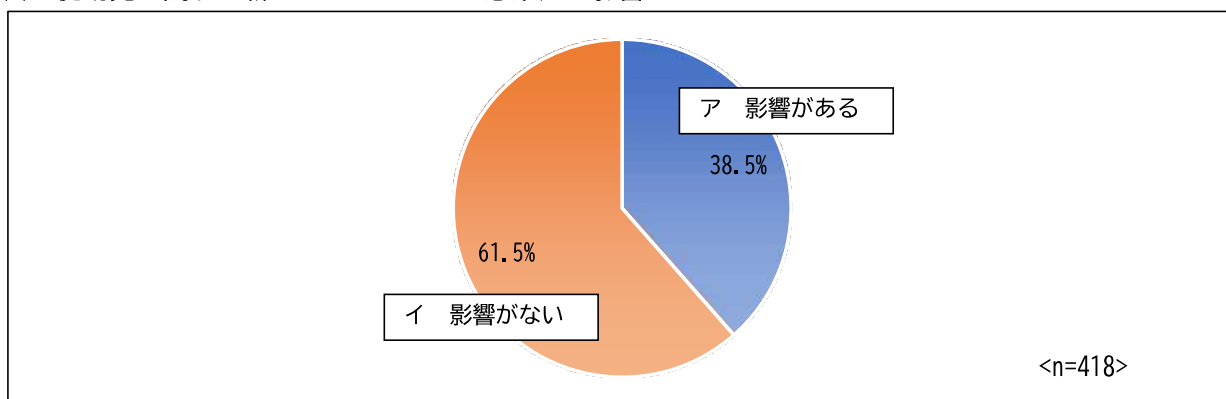
(4) 保護者に関する新型コロナウイルス感染症の影響



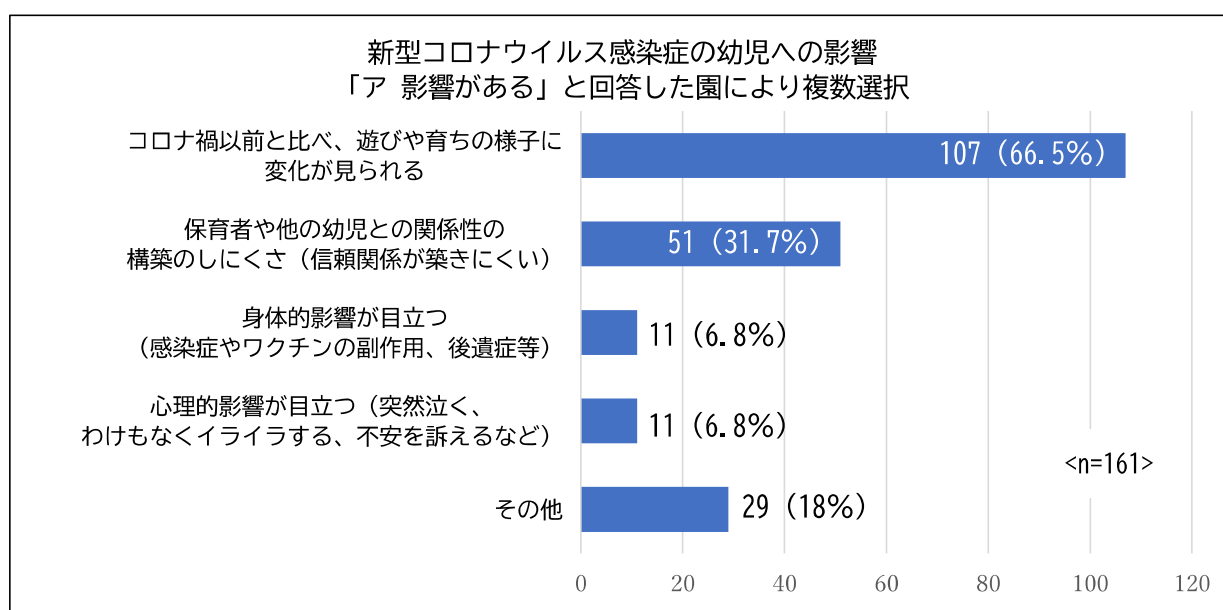
【その他】

- ・ 行事を行う場合の保護者への予防対応の周知
- ・ 感染状況による欠席や閉鎖対応に対する負担感
- ・ 保護者同士の関わりが希薄化
- ・ 感染対策により保護者との信頼関係を築きにくい など

(5) 乳幼児に関する新型コロナウイルス感染症の影響



幼児教育振興指針 P.11 【図 5】



【イ 心理的影響の具体的な状況】

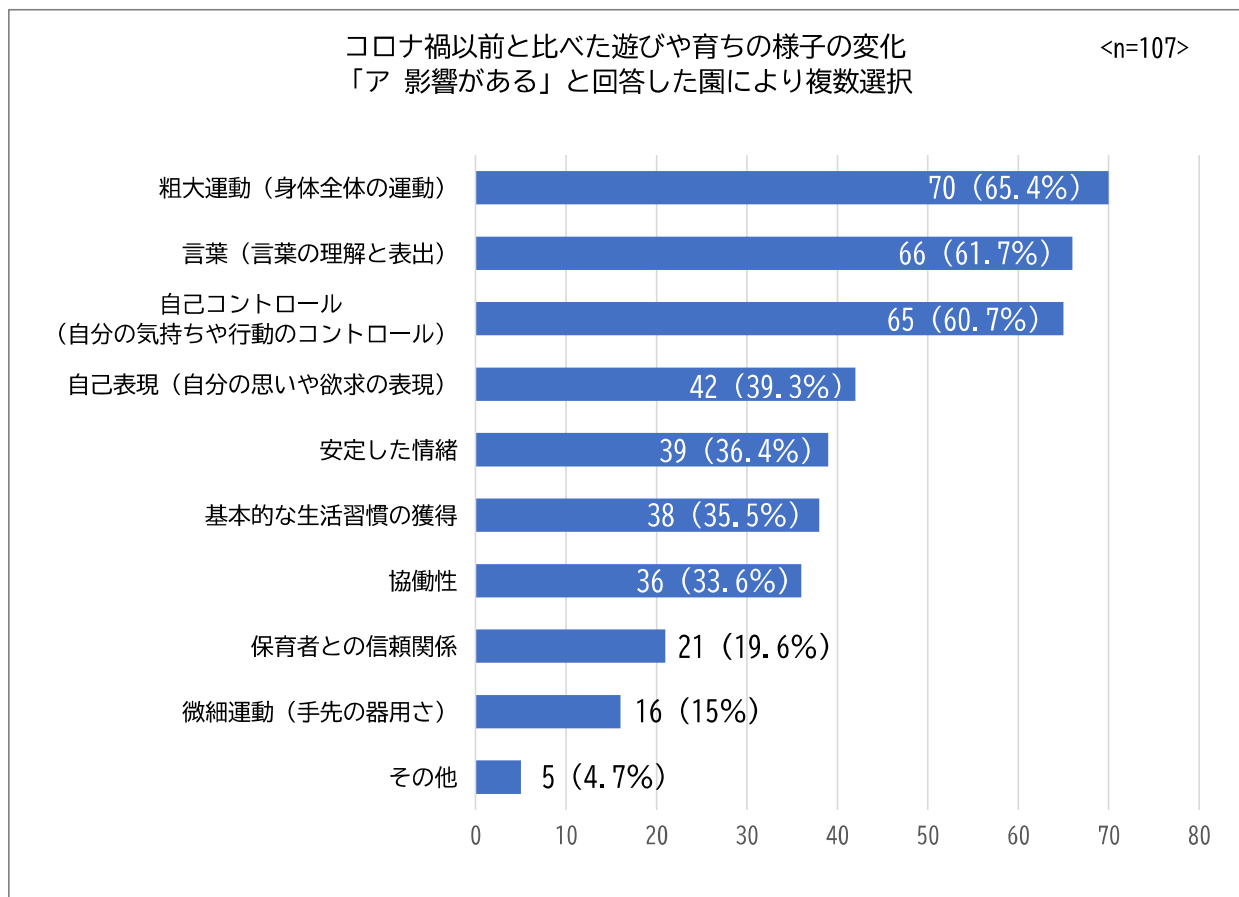
- ・ 癇癪と奇声が多い
 - ・ 自己抑制が苦手
 - ・ 1人遊びが多い
 - ・ 登園しぶり
 - ・ 同年代の他幼児との接触が少なく、家族（母親）も外部社会とのコミュニケーションが絶たれていたため、ストレスをためがち、解消法が分からない
 - ・ 子ども同士のコミュニケーション能力が以前と比べ低い子が増加
 - ・ 情緒的に不安定さが見られる幼児が増加
- など

【その他】

- ・ 過度にマスクをつける傾向にある
 - ・ マスクをした職員に人見知りする姿がある
 - ・ 発音（不明瞭）、言語獲得、コミュニケーション能力の不足
 - ・ 保育者のマスク顔に慣れており、マスクを外すと違和感を抱く
- など

(6) (5)において【エ コロナ禍以前と比べ、遊びや育ちの様子に変化が見られる】と
 答えた場合の変化の具体について

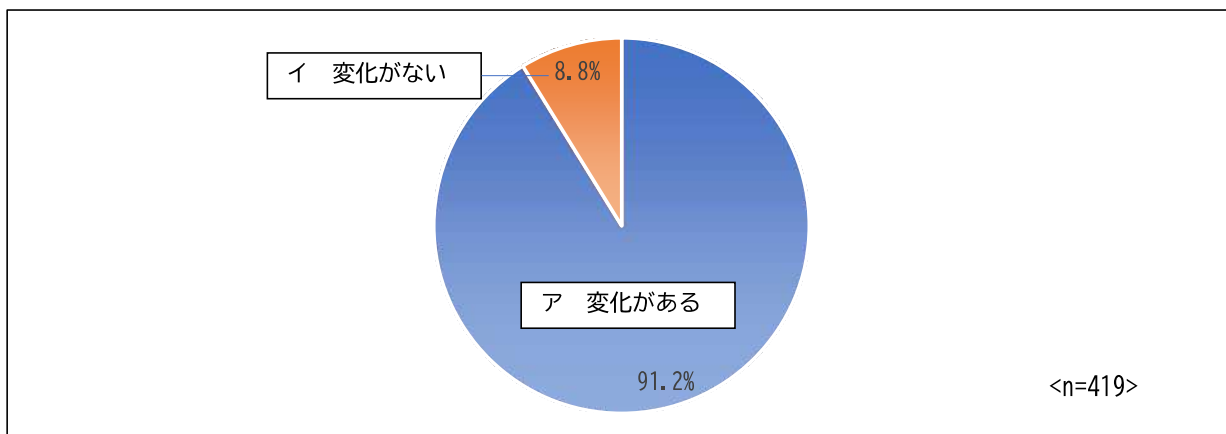
幼児教育振興指針 P.11 【図6】



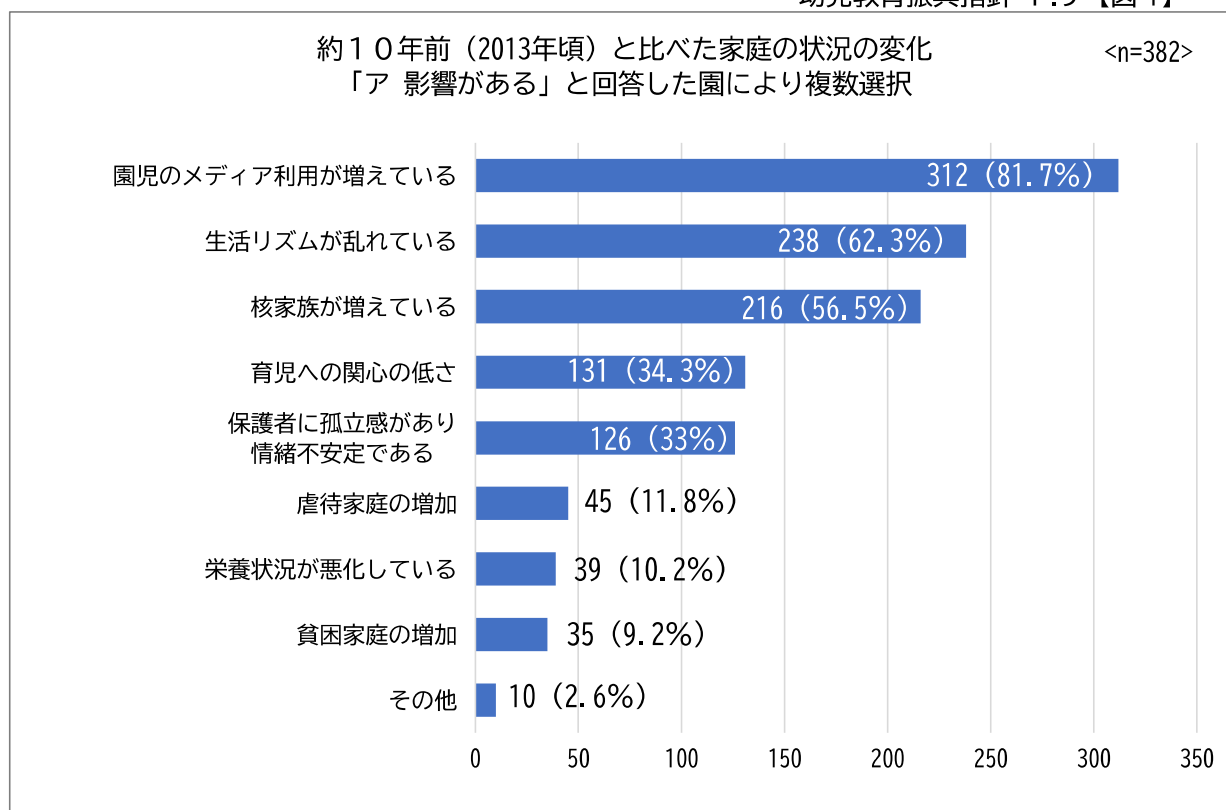
【その他】

- ・外出制限による様々な経験不足
 - ・協調性不足、コミュニケーション力の不足
 - ・話すときの口の使い方の幼さ
- など

(7) 約10年前と比べ、家庭の状況において感じている変化

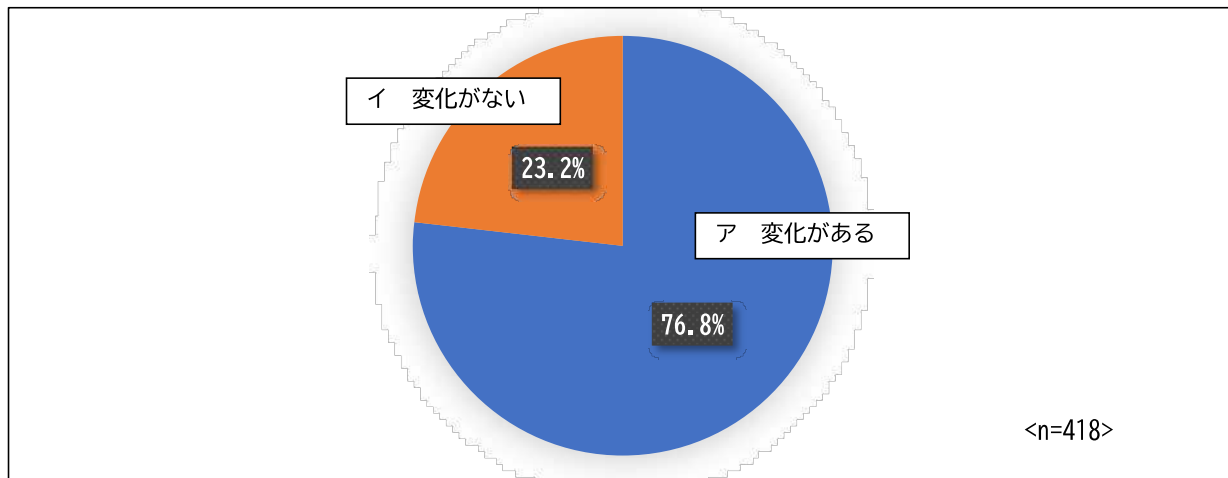


幼児教育振興指針 P.9 【図1】

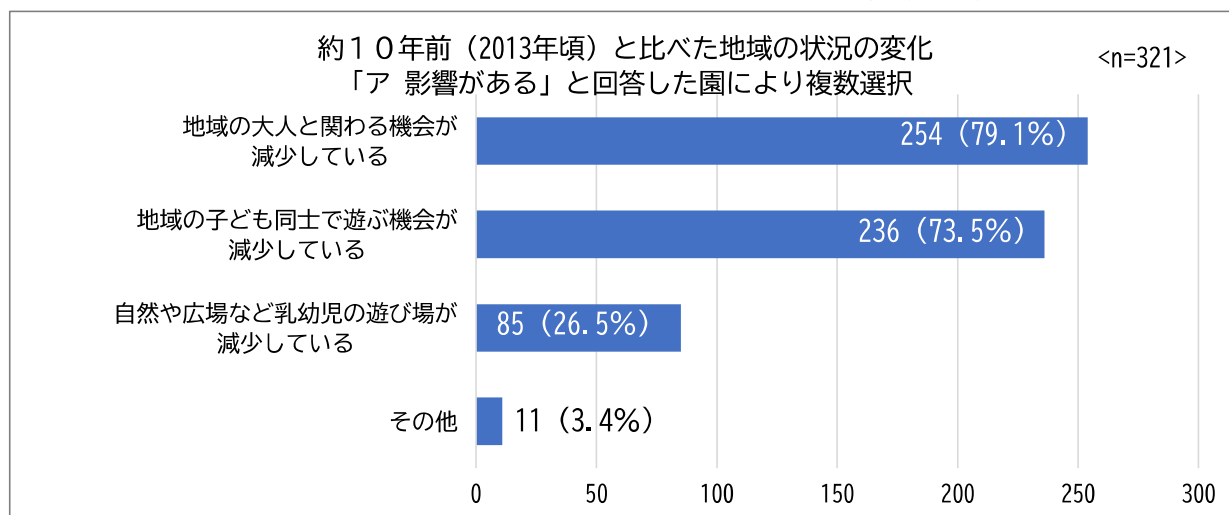


【その他】
 ・人間関係の希薄さ ・共働きの増加 ・長時間保育 など

(8) 約10年前と比べ、地域の状況において感じている変化

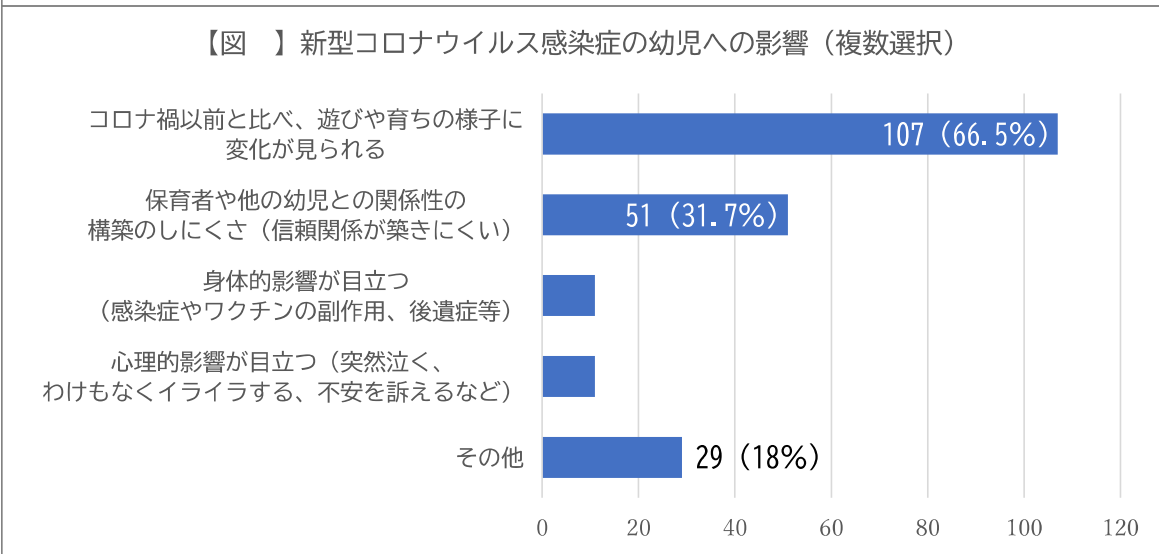
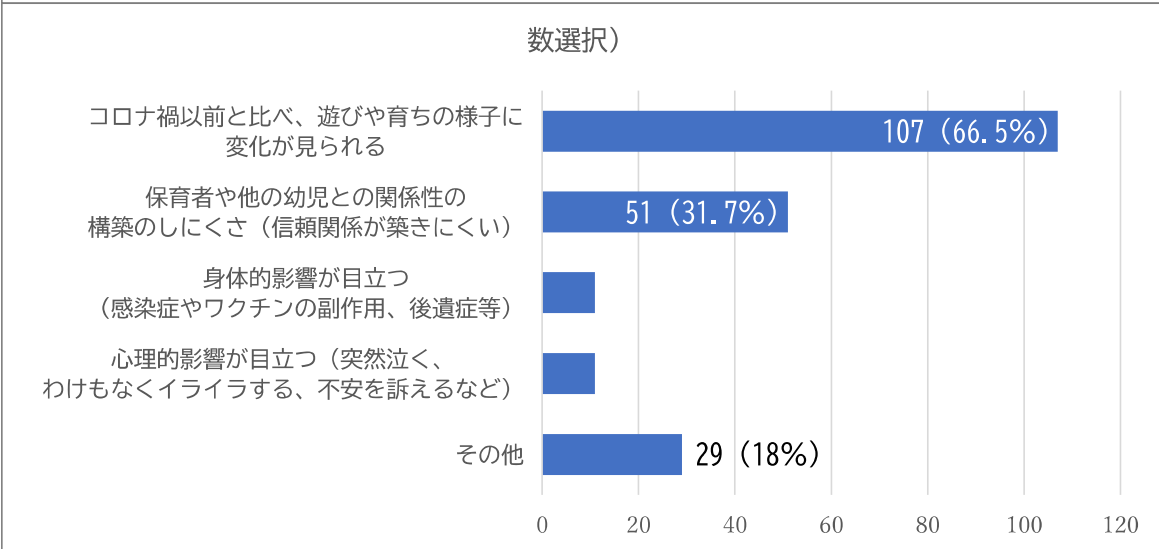
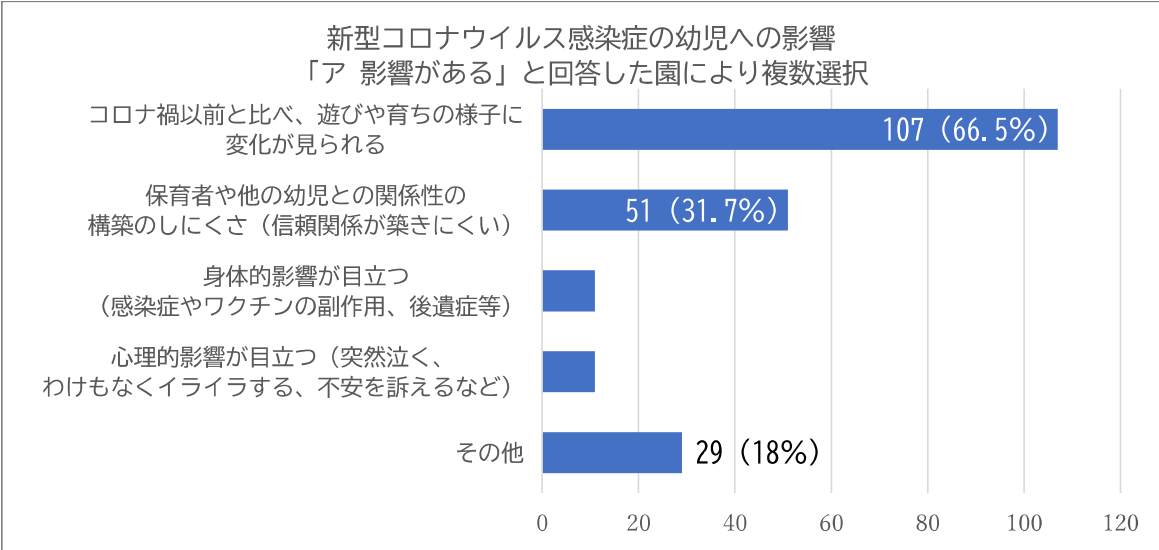


幼児教育振興指針 P.10 【図2】



【その他】

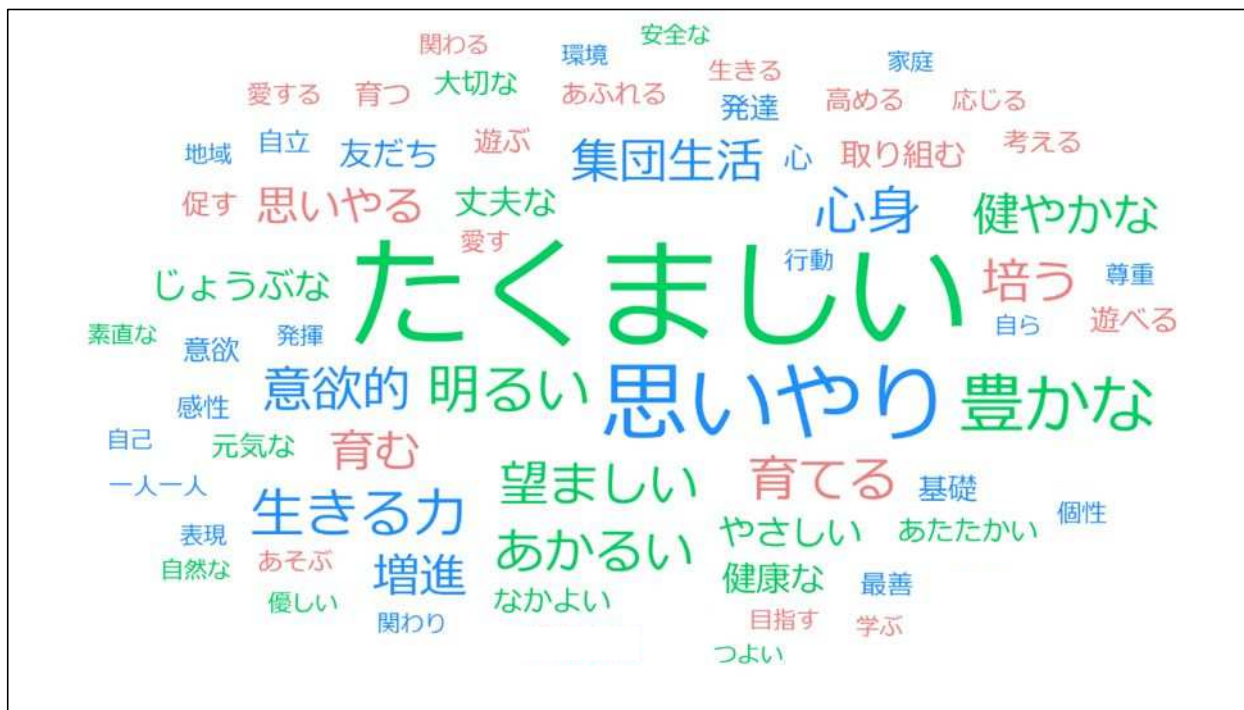
- ・子どもの数が減ってきている
- ・少子高齢化のため、入園する子どもがいない
- ・孤立化、地域に無関心
- ・子育て世代に対する支援が増加傾向
- ・既存の公園などが整備され、安全に使用できるように管理されている など



Ⅲ 乳幼児の育ちについて

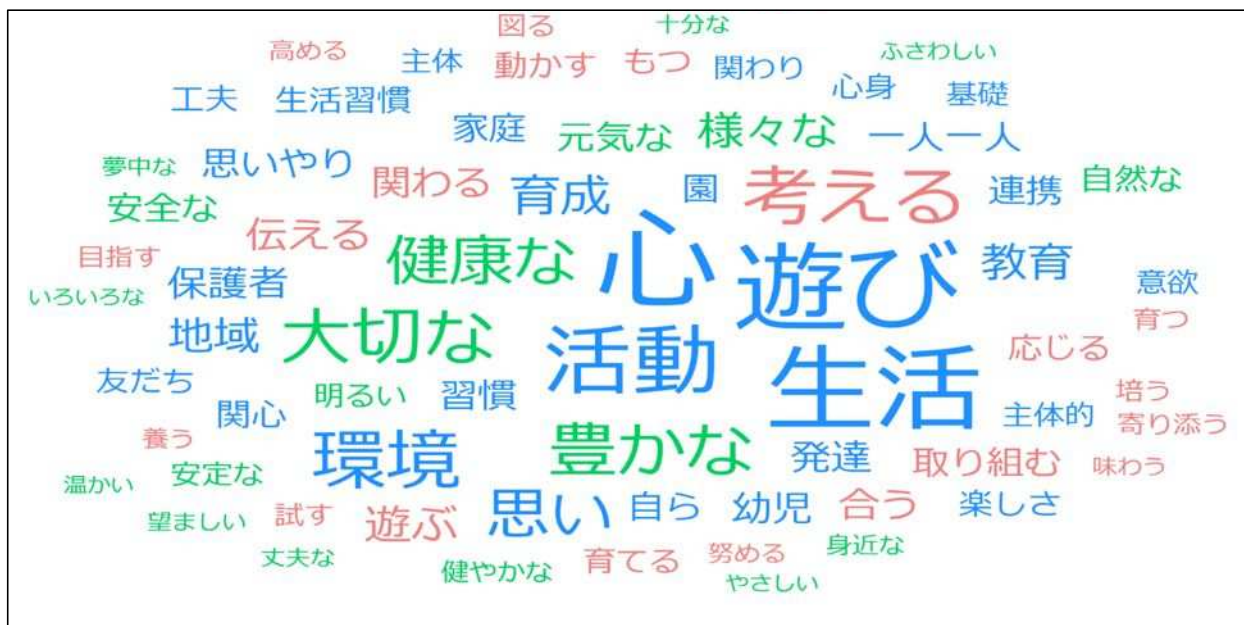
(1) 教育・保育目標

各幼児教育施設からあがってきた教育・保育目標から、単語を抽出して示している。文字が大きいほど、数多く取り入れられていることになる。

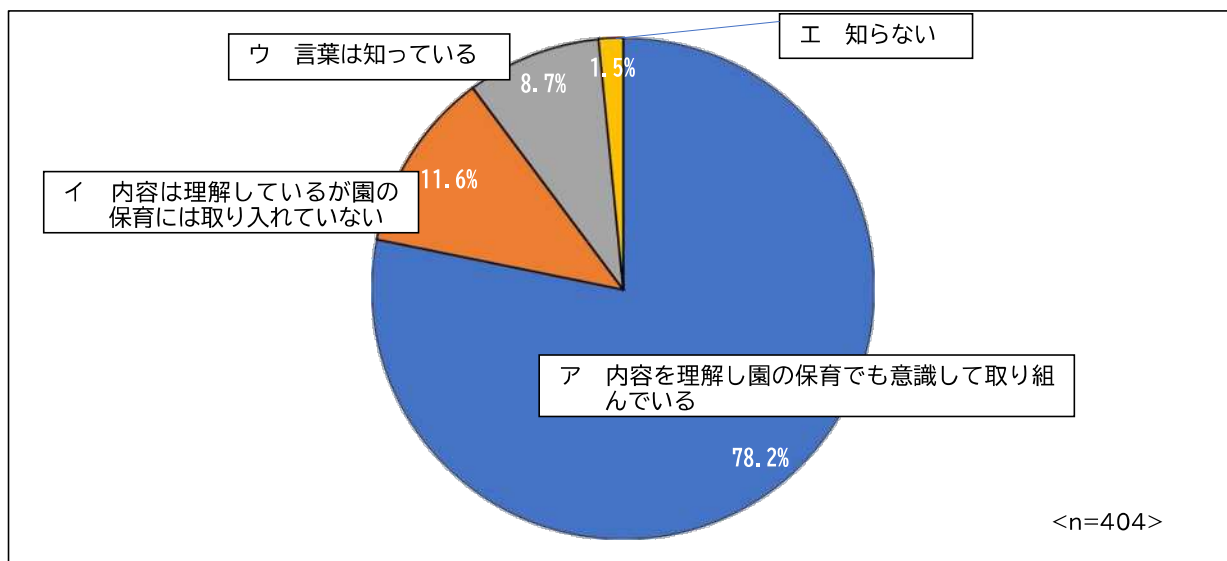


(2) 重点目標

各幼児教育施設からあがってきた今年度の重点目標から、単語を抽出して示している。文字が大きいほど、数多く取り入れられていることになる。

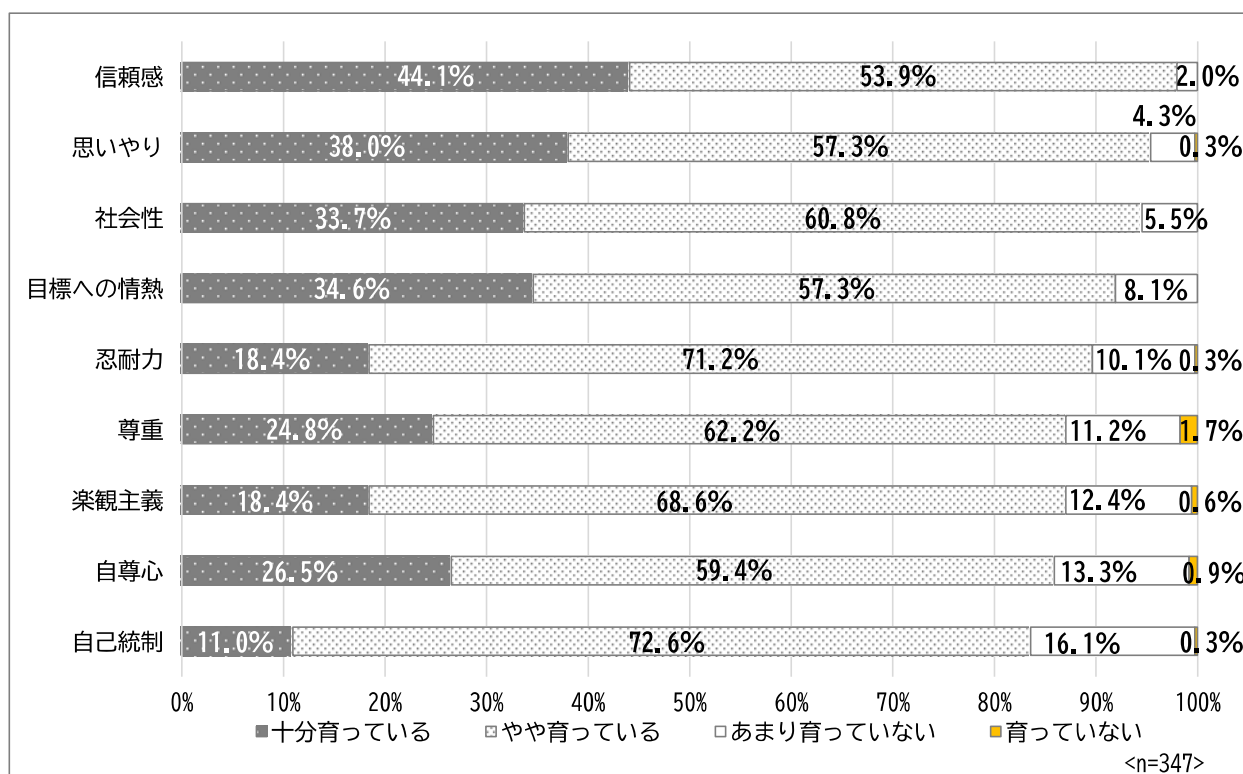


(3) 非認知能力に関する認識

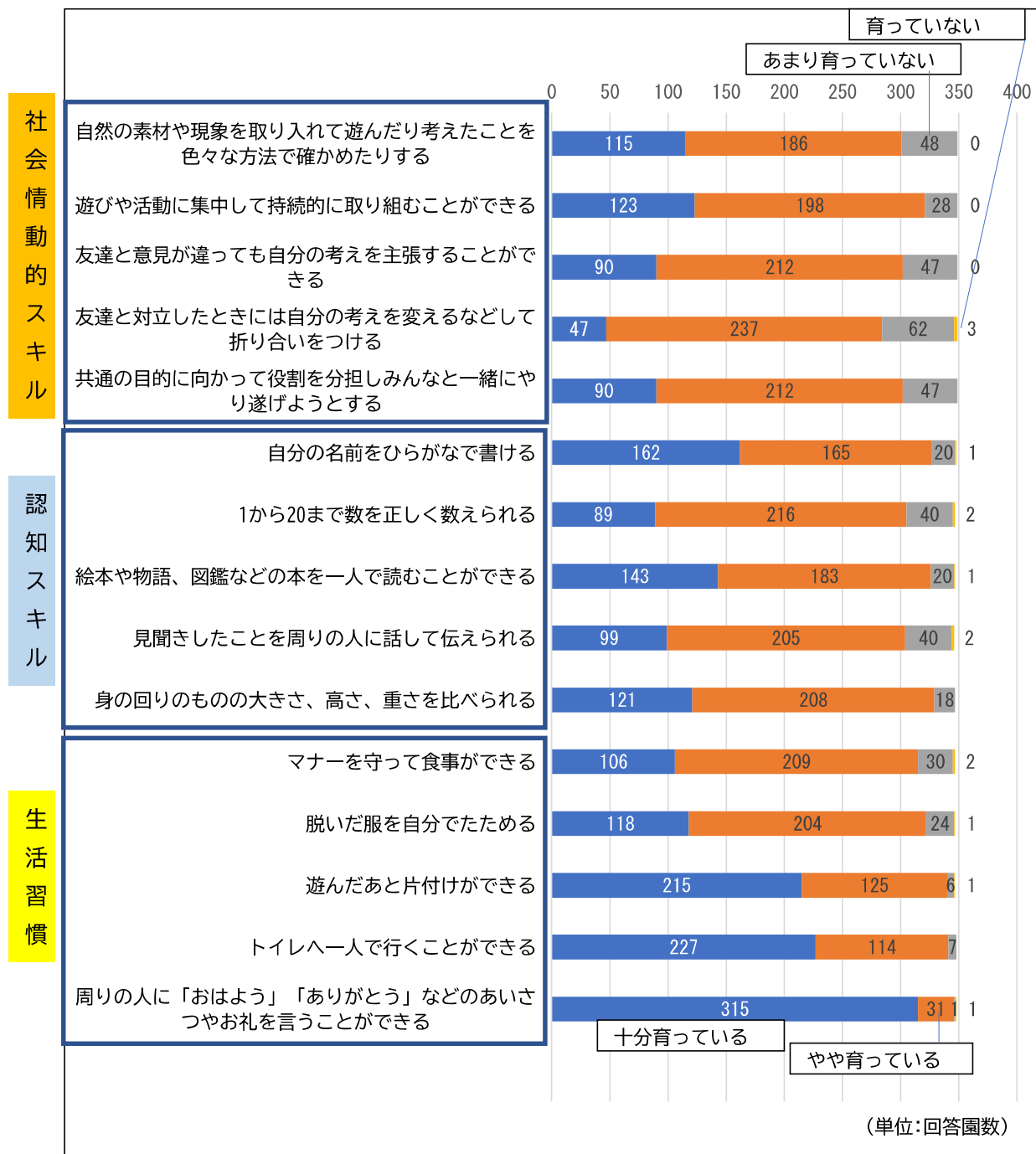


(4) 5歳児における非認知能力の育ち具合

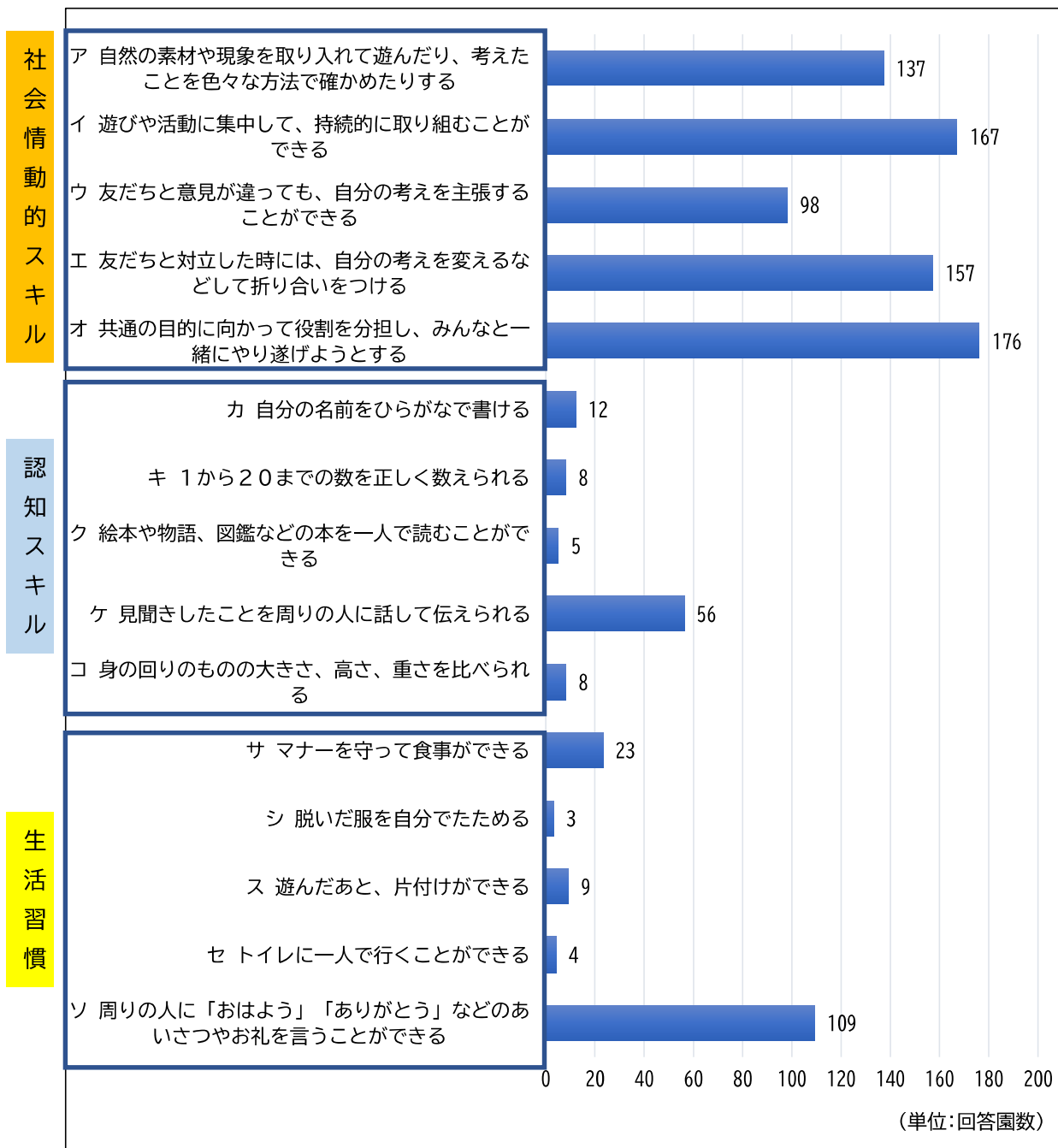
幼児教育振興指針 P.13 【図7】



(5) 5歳児における育ちの度合い

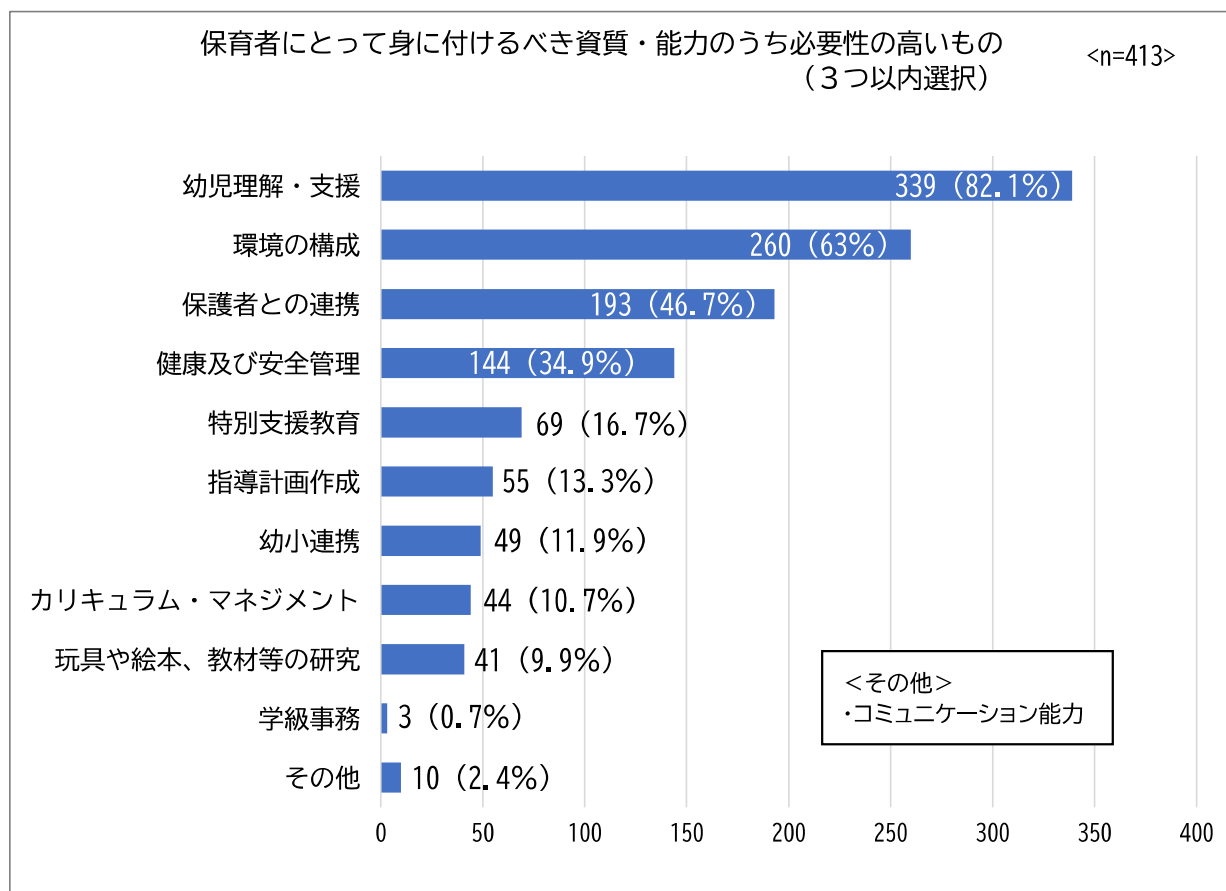


(6) 5歳児に育てほしいと思うもの（3つまで選択）

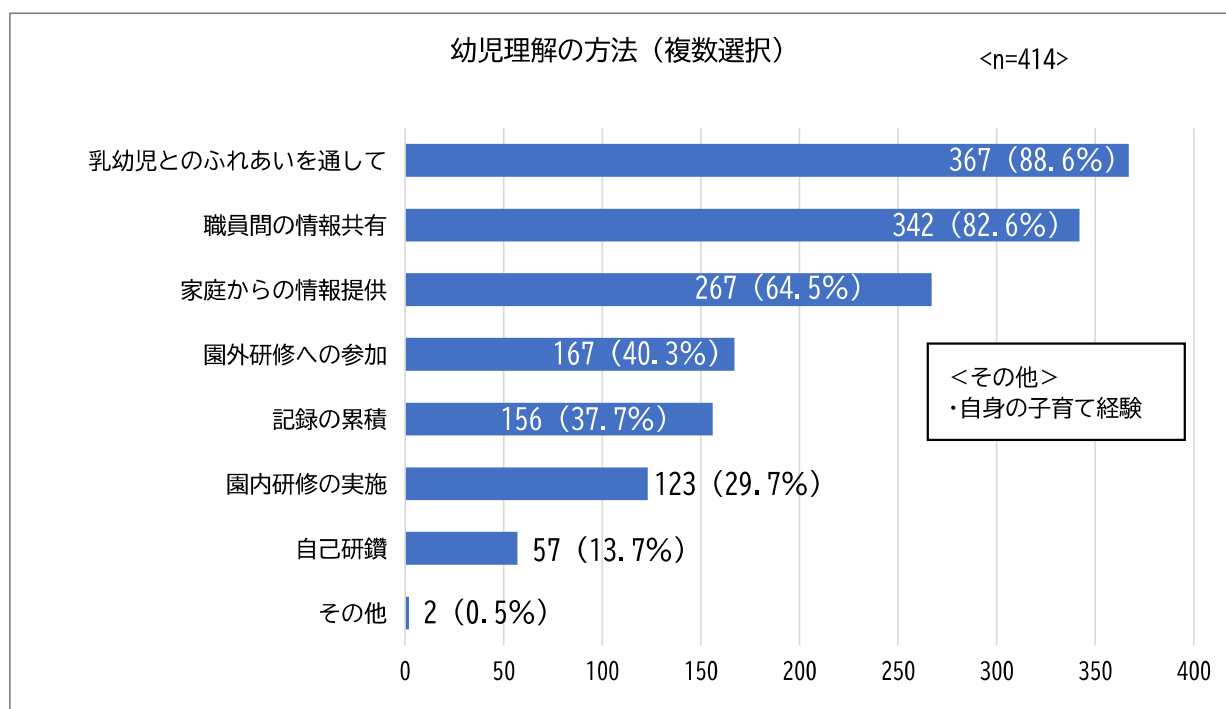


IV 乳幼児期の教育の質の向上について

(1) 保育者にとって身に付けるべき資質・能力のうち必要性の高いもの（三つ以内選択）

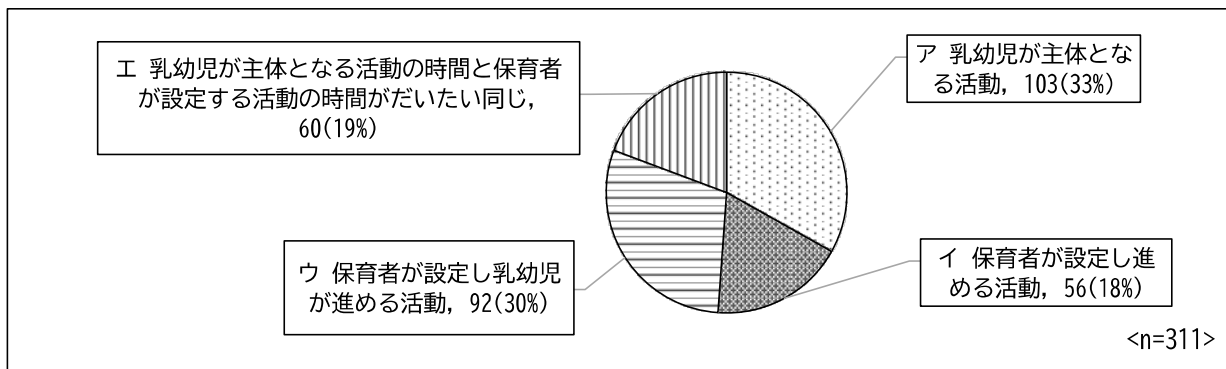


(2) 乳幼児理解の方法（複数選択）

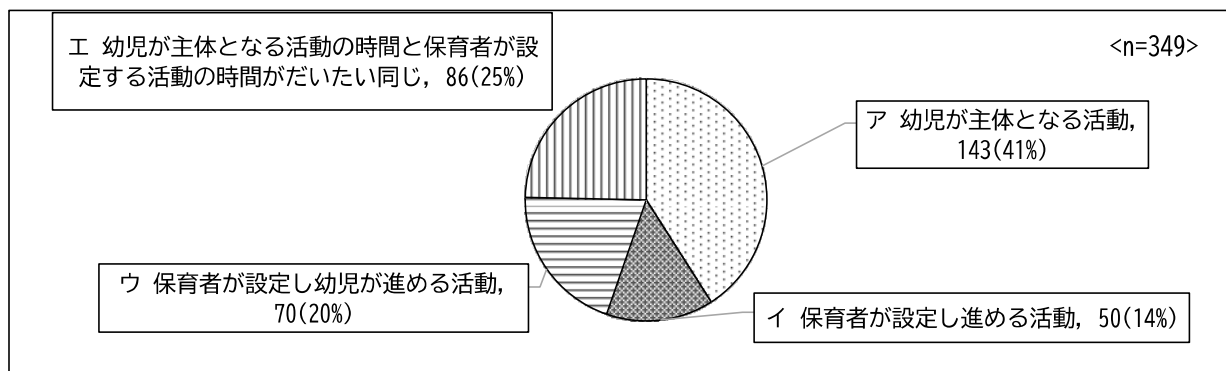


(3) 午前中の教育・保育時間における最も多く時間を確保している活動（一つ選択）

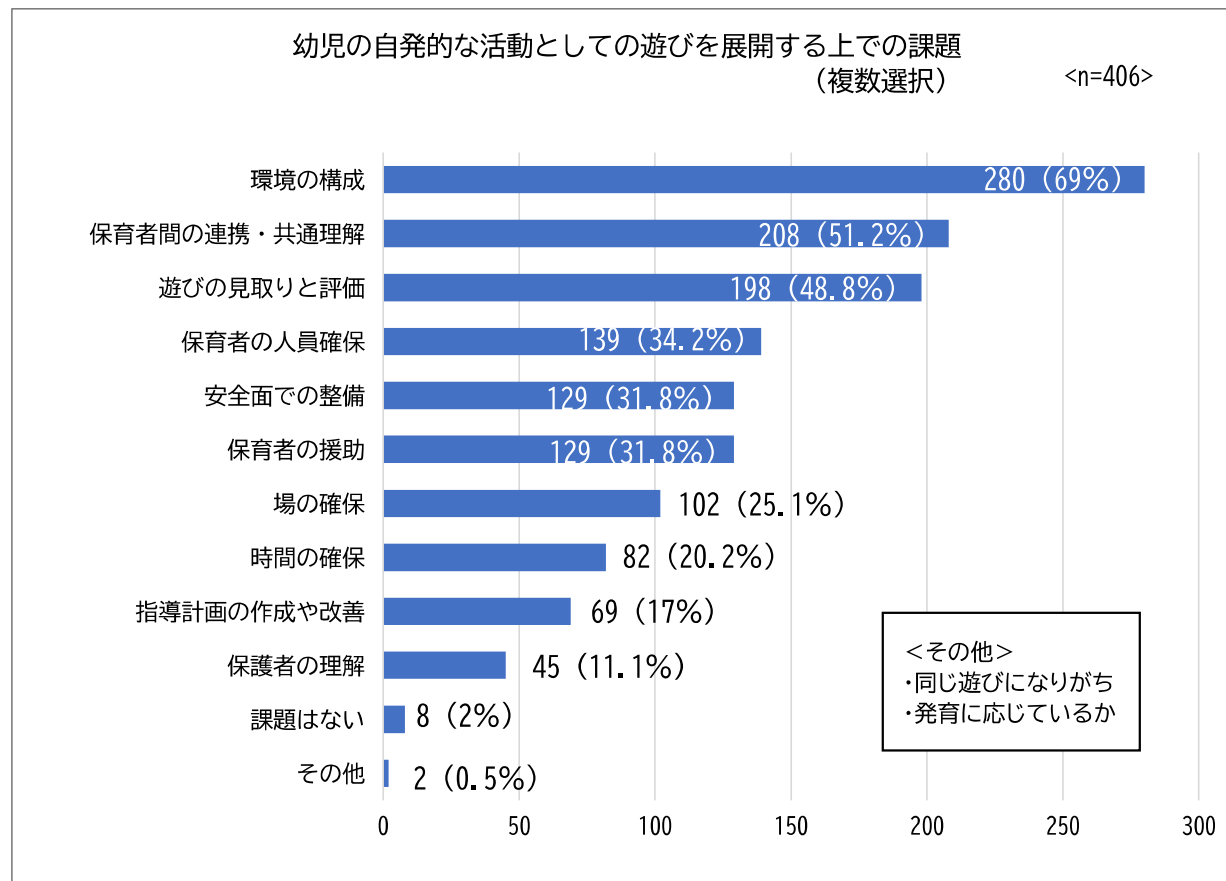
① 0～2歳児について



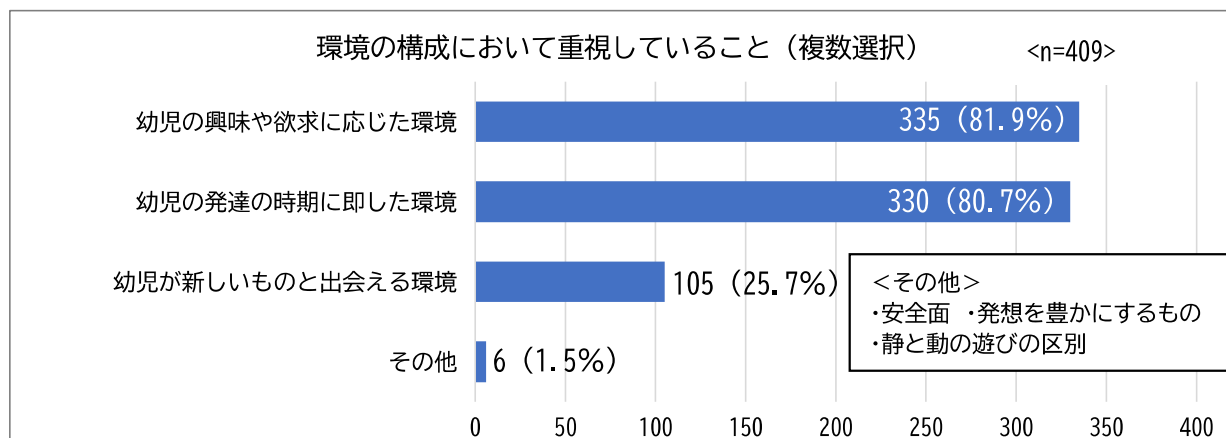
② 3～5歳児について



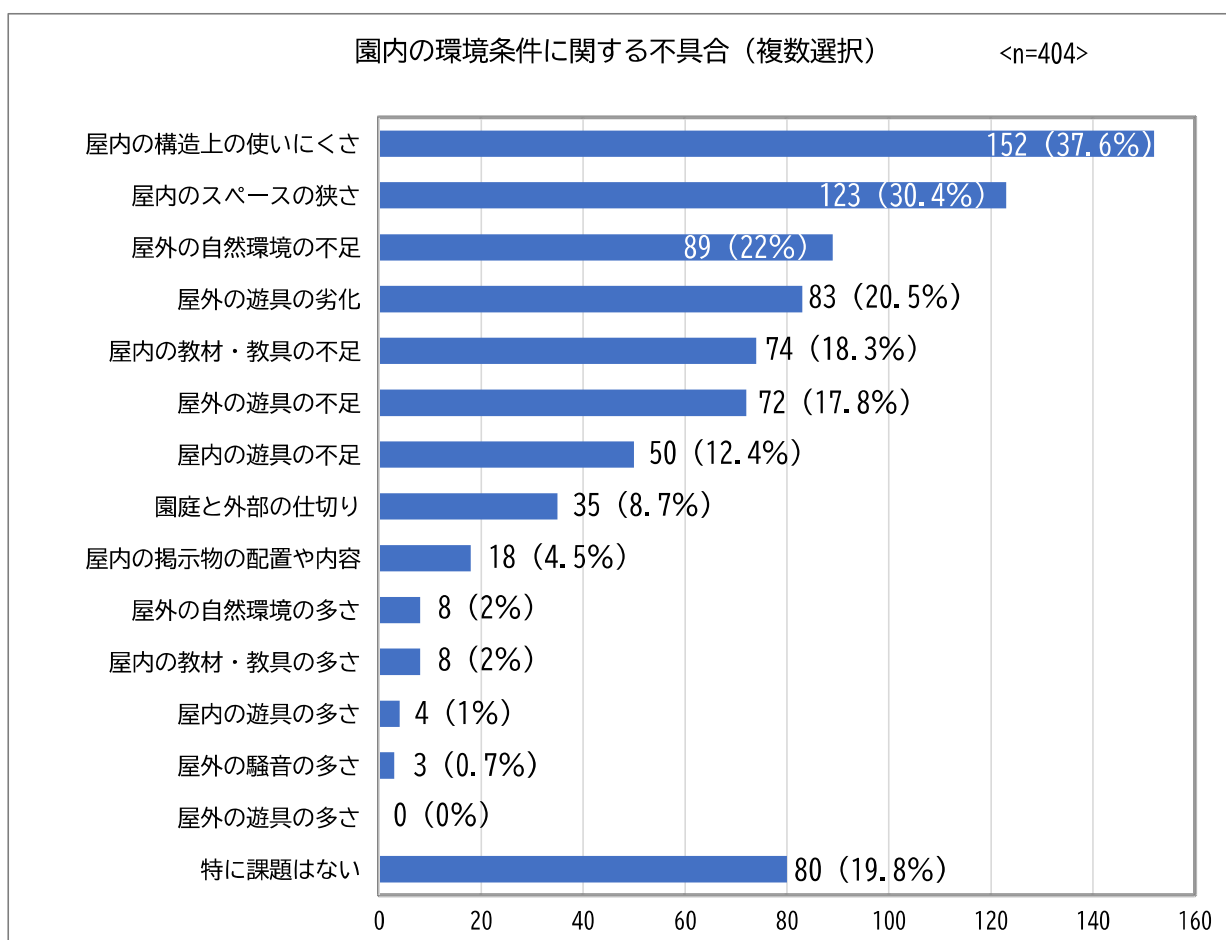
(4) 「乳幼児の自発的な活動としての遊び（自由遊び）」を展開する上での課題（複数選択）



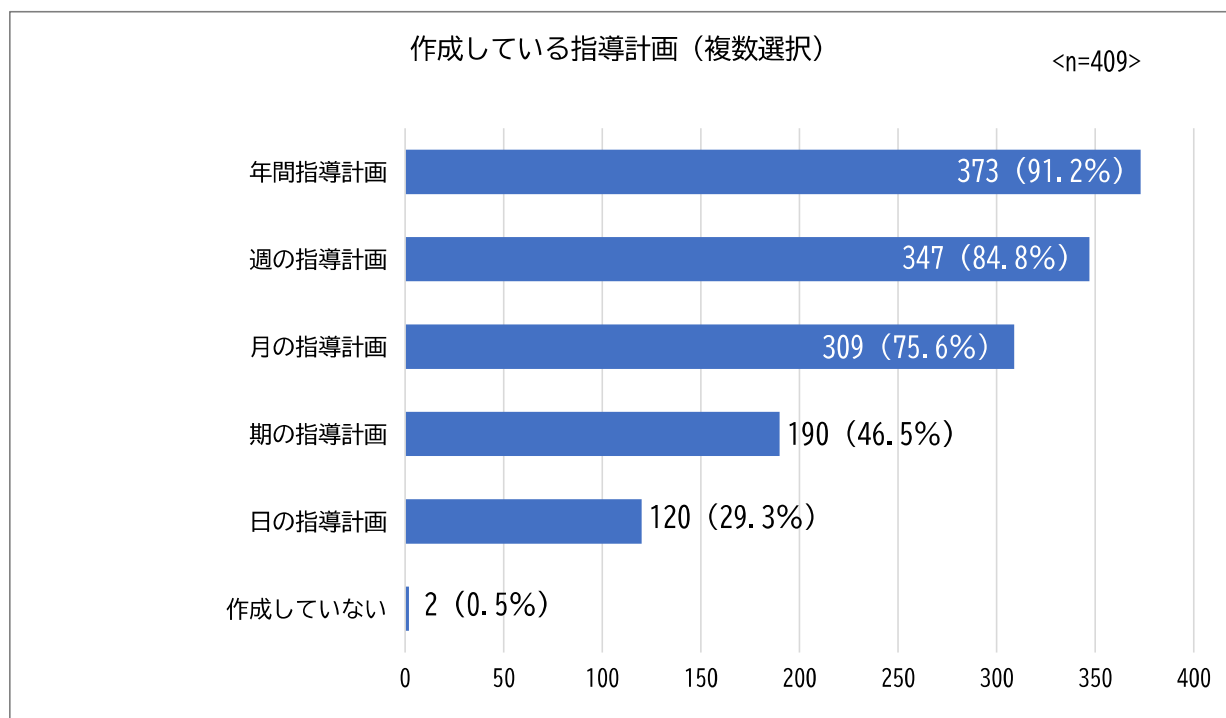
(5) 環境の構成において重視していること（複数選択）



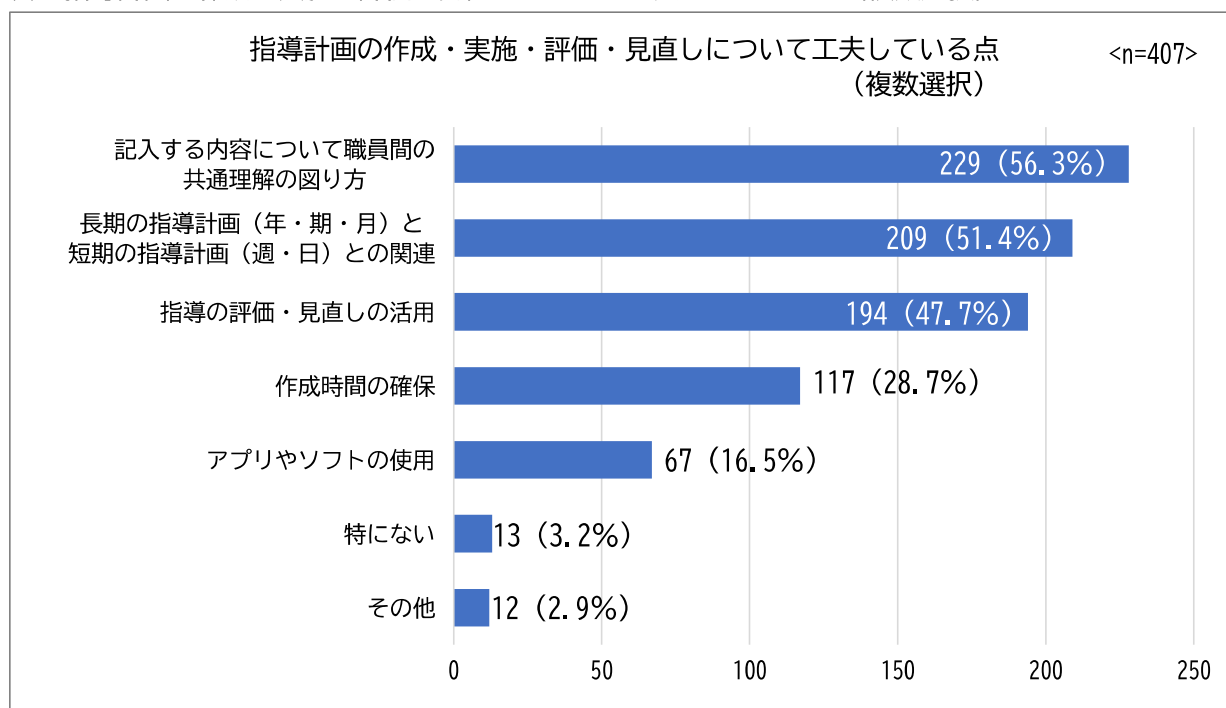
(6) 園内の環境条件に関する不具合（複数選択）



(7) 作成している指導計画（複数選択）



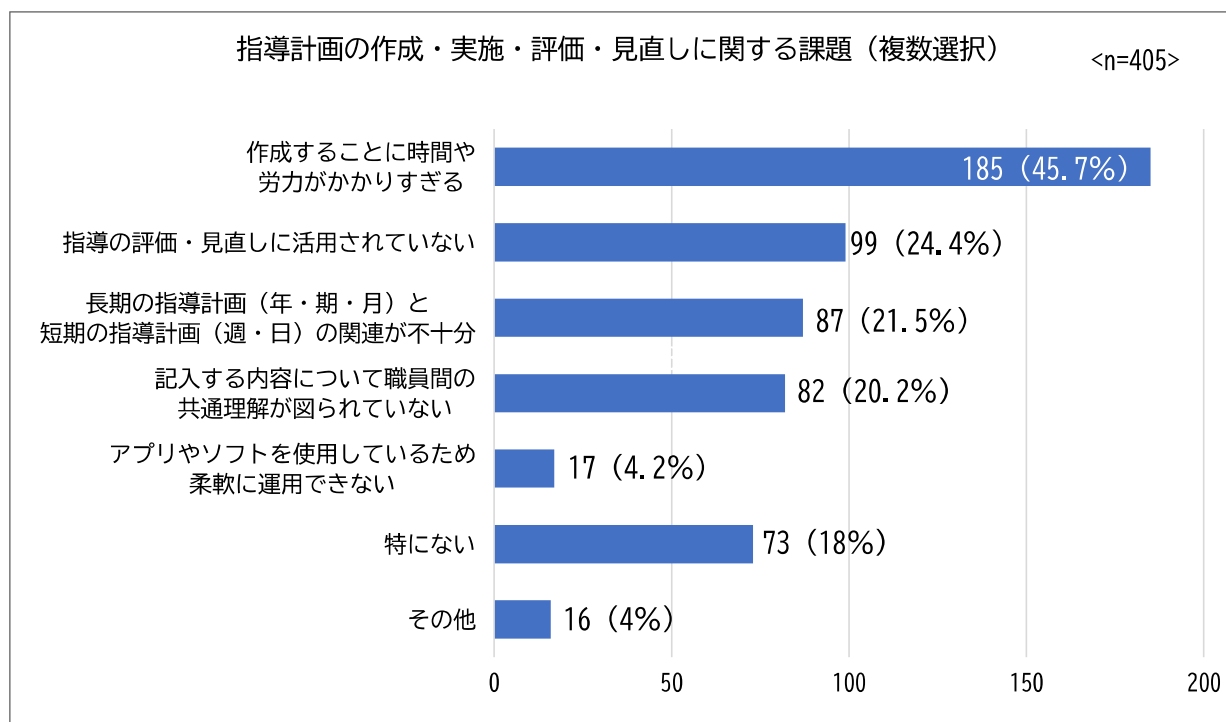
(8) 指導計画の作成・実施・評価・見直しについて工夫していること（複数選択）



<その他>

- ・ 年度ごとの学年の子どもたちの特色や育ちに合わせるように工夫
- ・ 年度末に様々な視点から内容の見直しを行う工夫
- ・ 幼児期の終わりまでに育てほしい姿の記入方法の工夫
- ・ 計画の見通しと達成具合をあらかじめ話し合っておく工夫
- ・ 前月の反省をもとにする工夫
- ・ 指導計画作成にかかる作業時間を減らすため、様式を簡素化する工夫 など

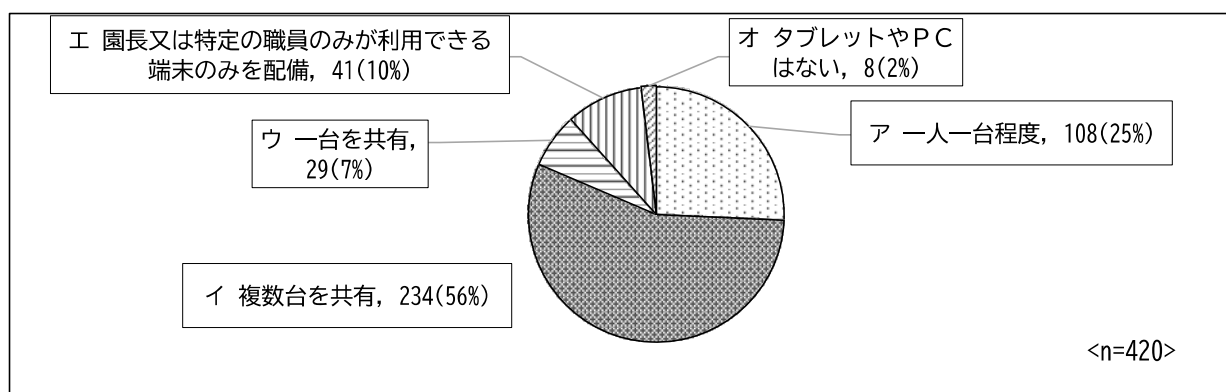
(9) 指導計画の作成・実施・評価・見直しに関する課題（複数選択）



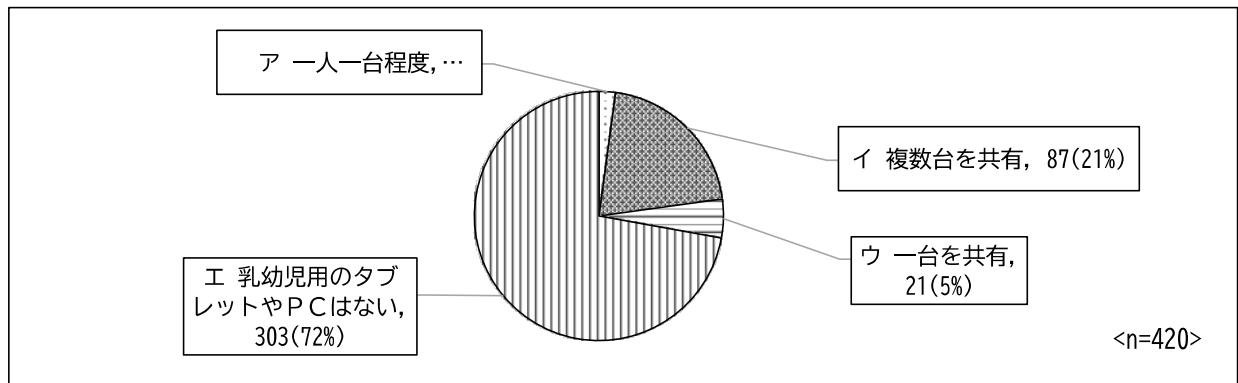
- <その他>
- ・ 担任以外の職員間でも指導の評価・改善ができる時間の確保
 - ・ ICT 機器の活用
 - ・ 複数担任での共通理解
 - ・ 新採用職員の理解の向上
 - ・ 次年度、担任が変更になった場合の引き継ぎの内容と方法（指導計画には多少なりとも担任の個性が反映されるため）など

(10) ICT機器やネットワーク環境について

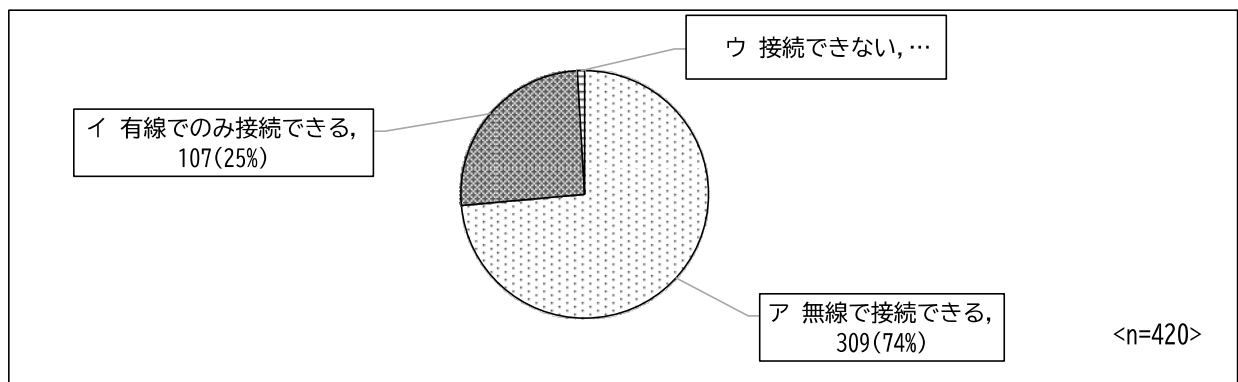
① 保育者用のタブレットまたはPCの配備状況



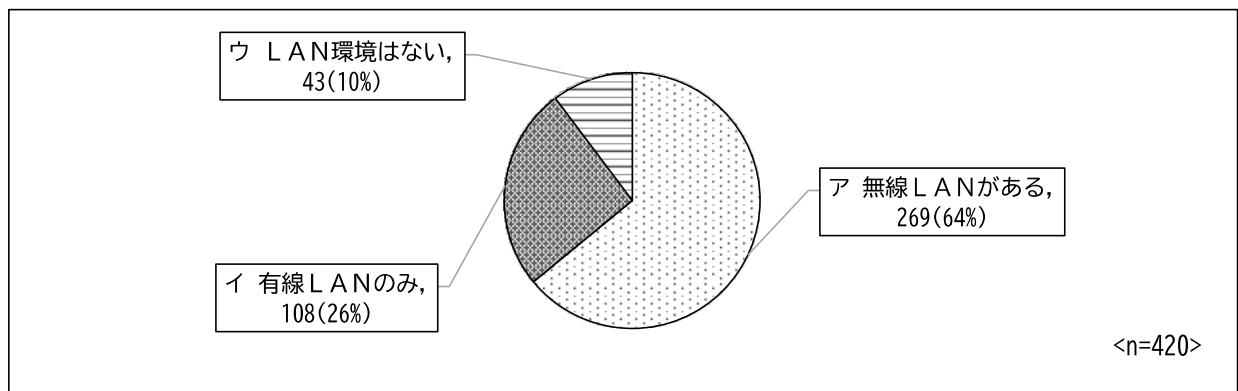
② 乳幼児用のタブレットまたはPCの配備状況



③ 園のインターネット環境

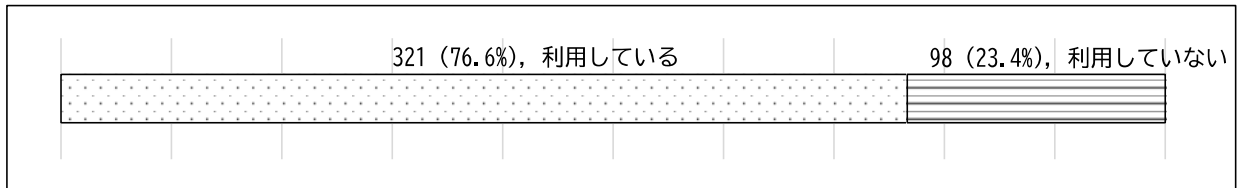


④ 園のLAN環境

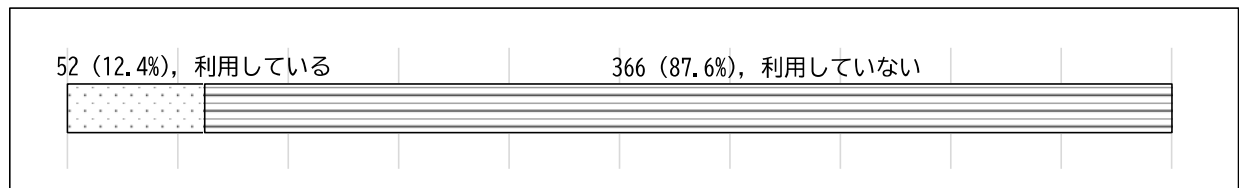


(1) ICT機器の利用状況

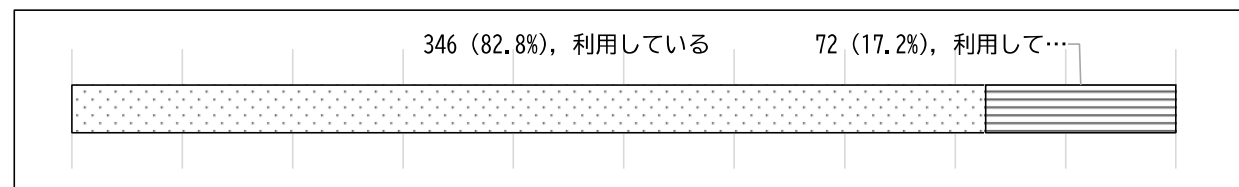
① 幼児教育において保育者が使用（記録・園内研修等を含む）



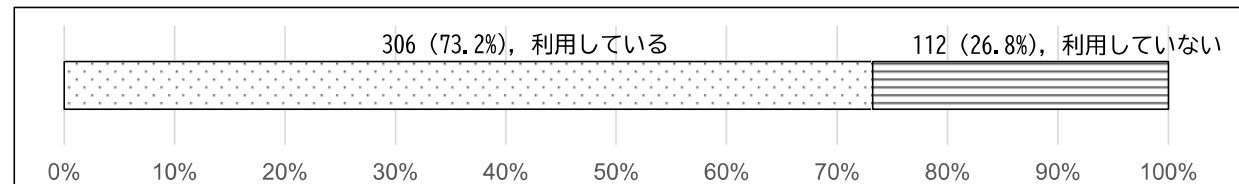
② 幼児教育で乳幼児が使用



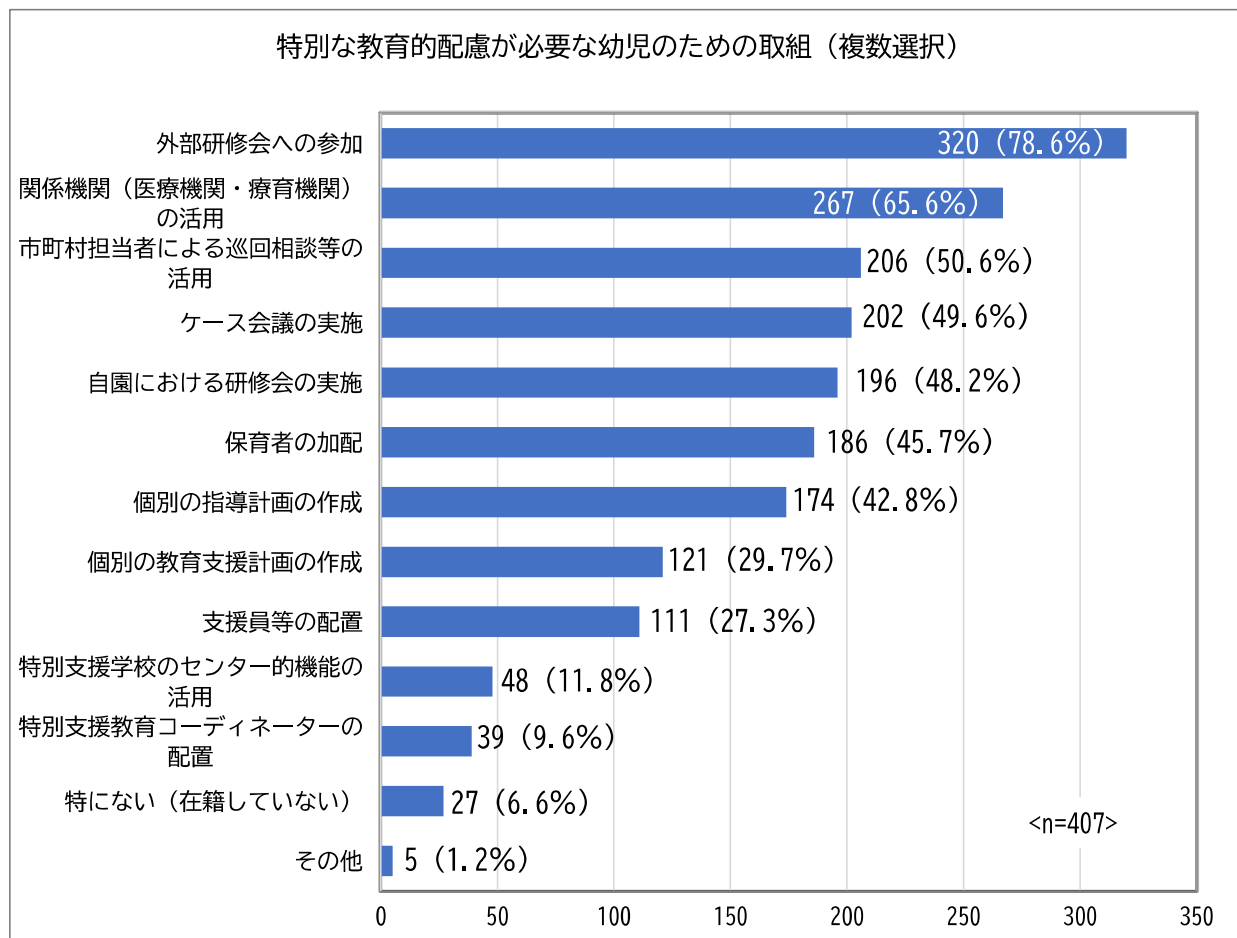
③ 外部との打合せ・研修で使用



④ 保護者との連絡・情報提供で使用（活動の様子の配信、教材等の配信・配付、子育て相談等）

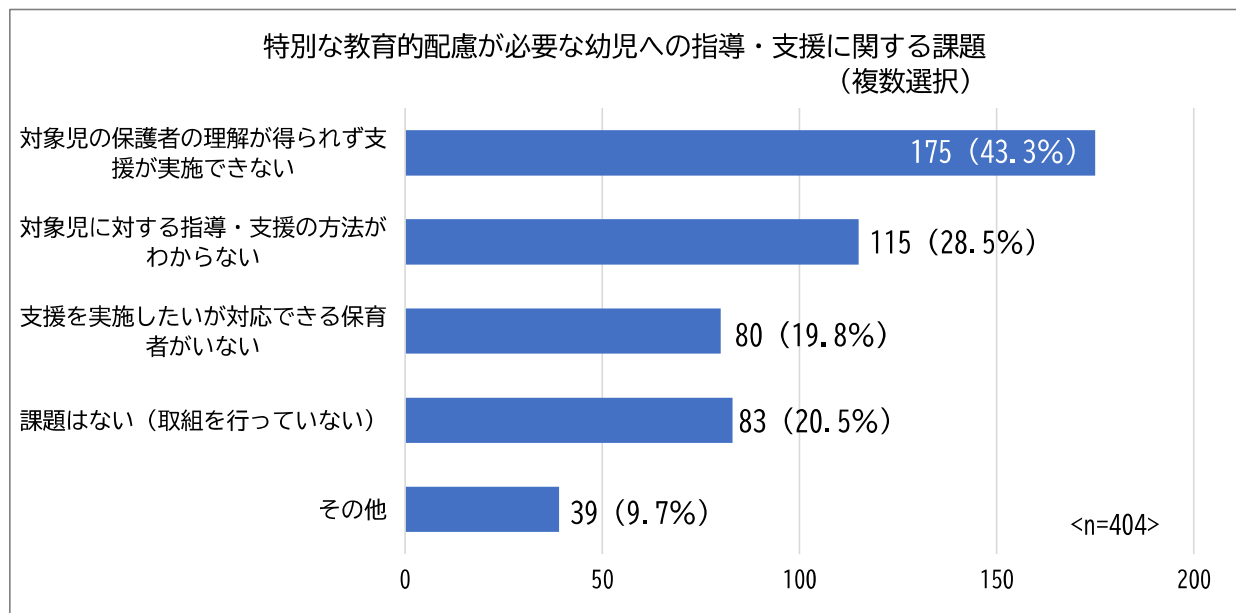


(12) 特別な教育的配慮が必要な乳幼児のための取組（複数選択）



<その他>
 ・保護者、保健師との連携 ・支援員の配置、教育相談 ・視覚的な情報伝達 など

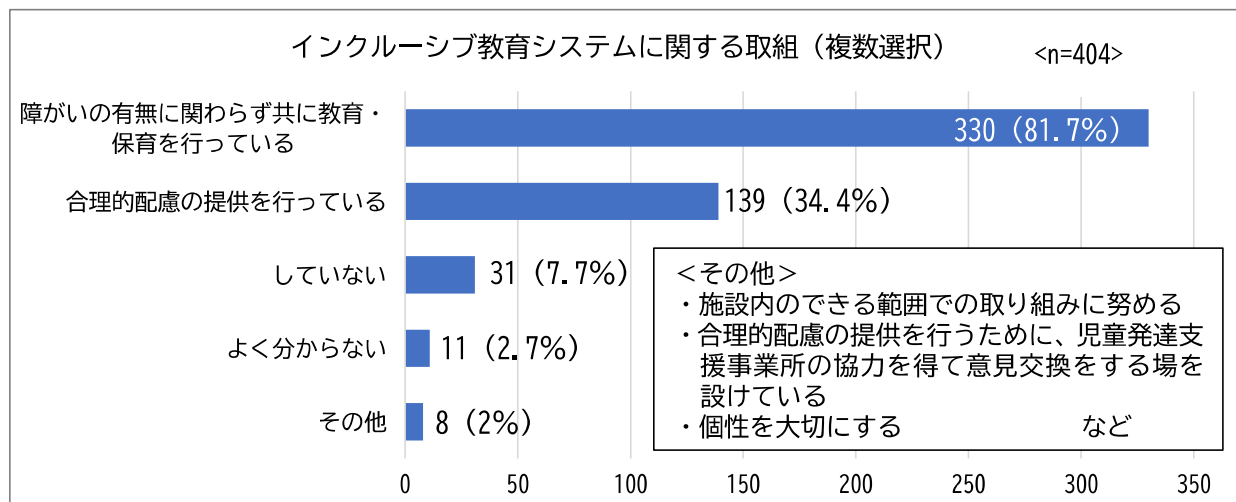
(13) 特別な教育的配慮が必要な乳幼児への指導・支援に関する課題（複数選択）



<その他>

- ・保育者の経験や力量不足
- ・クラス運営をする中での見通し
- ・担任以外に保育者や支援員を配置したいがいつもできるとは限らない
- ・保護者との信頼関係構築
- ・職員間の共通理解
- ・クラス内に支援を要する子どもが多数おり支援が行き届かない
- ・関係機関との連携
- ・保護者側の理解の促進
- ・自治体の体制整備

(14) インクルーシブ教育システムに関する取組（複数選択）

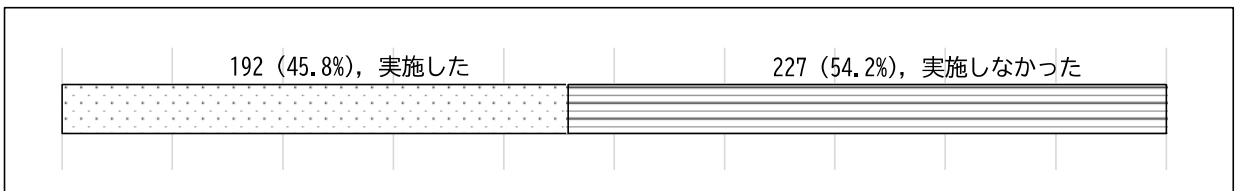


(15) 令和4年度の園評価について

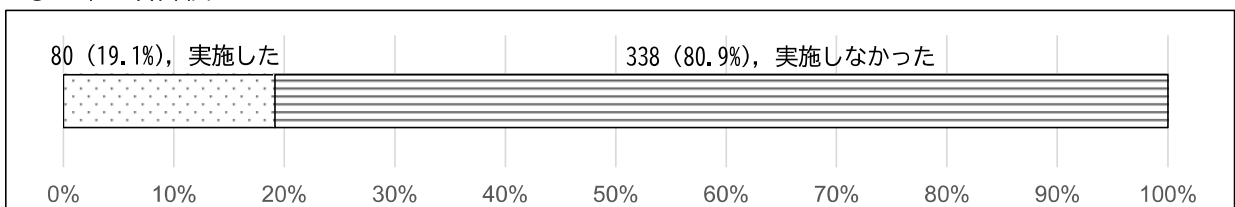
① 自己評価



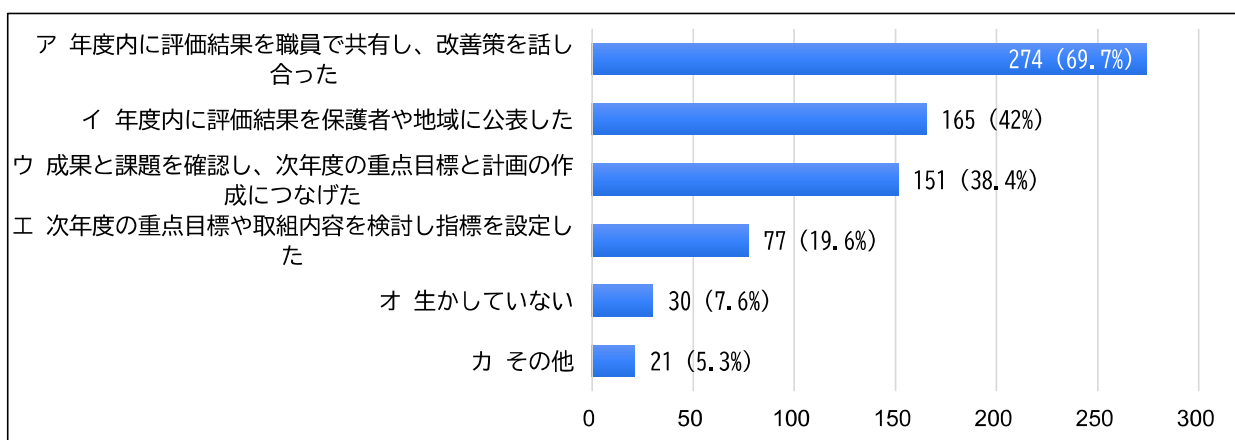
② 関係者評価



③ 第三者評価



④ 園評価の結果を園の保育改善にどのように生かしたか（複数選択）



<その他>

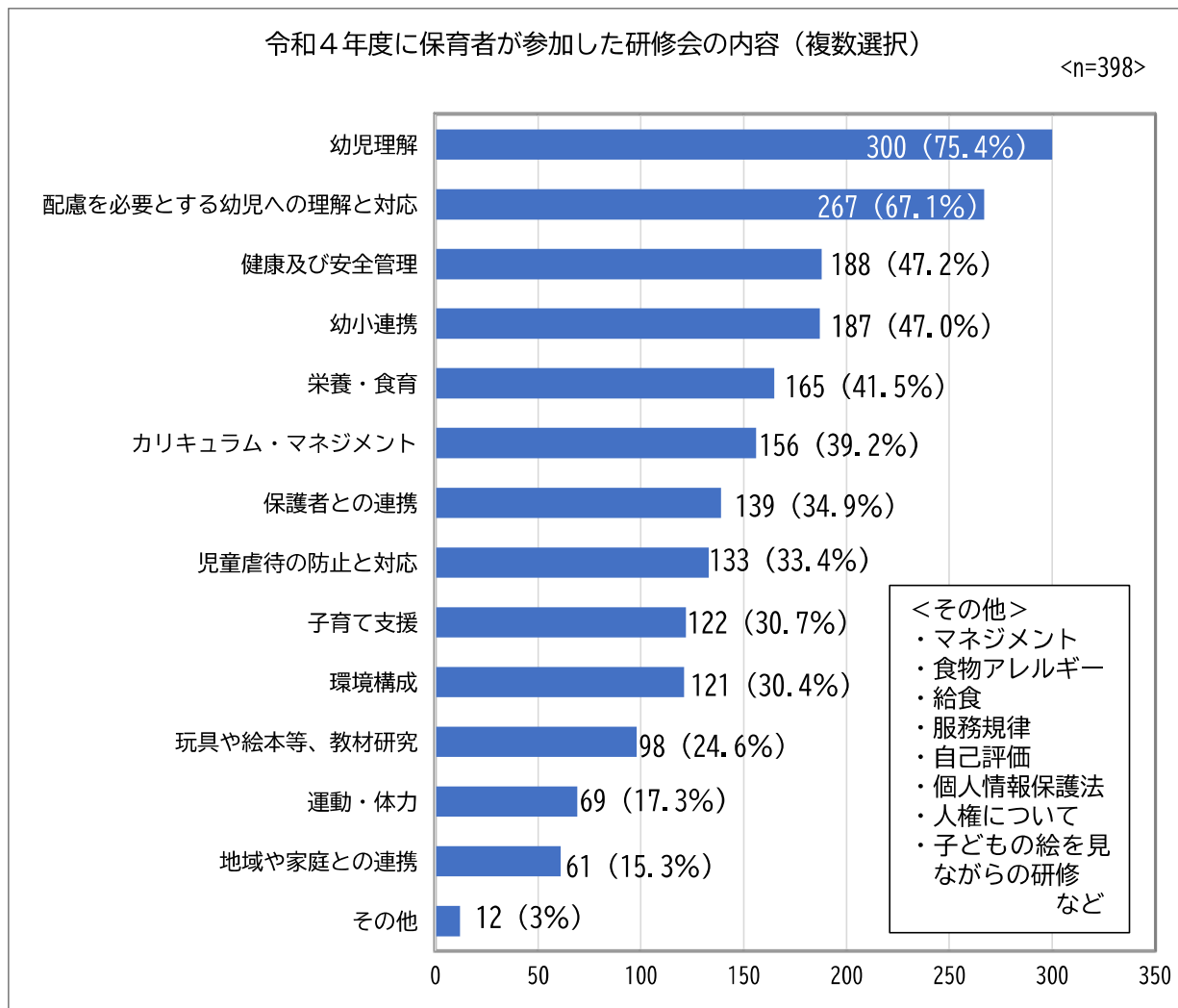
- ・年度初めに、評価結果を職員で共有し、改善策を話し合った
- ・自園でできそうな所から見直し、職員と共通理解を図った
- ・自己評価結果を確認し、次年度の目標等について設定した
- ・振り返りや気づきをミーティング時に共有した
- ・保育内容や保護者支援の見直しをした
- ・目標を立てて実践反省をし次の目標につなげた

(16) 貴園の保育者が令和4年度に受けた研修について

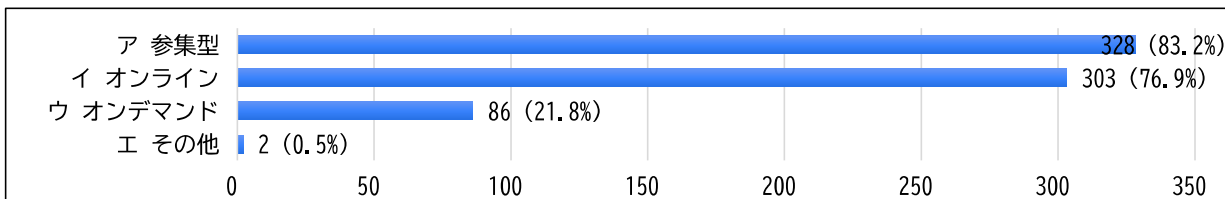
① 園外研修に参加した延べ人数（初任者研修、中堅教員等資質向上研修は除く）

全園合計	1園あたり平均（年間延べ人数）
7,494人	17.8人

② 保育者が参加した研修会の内容（複数選択）

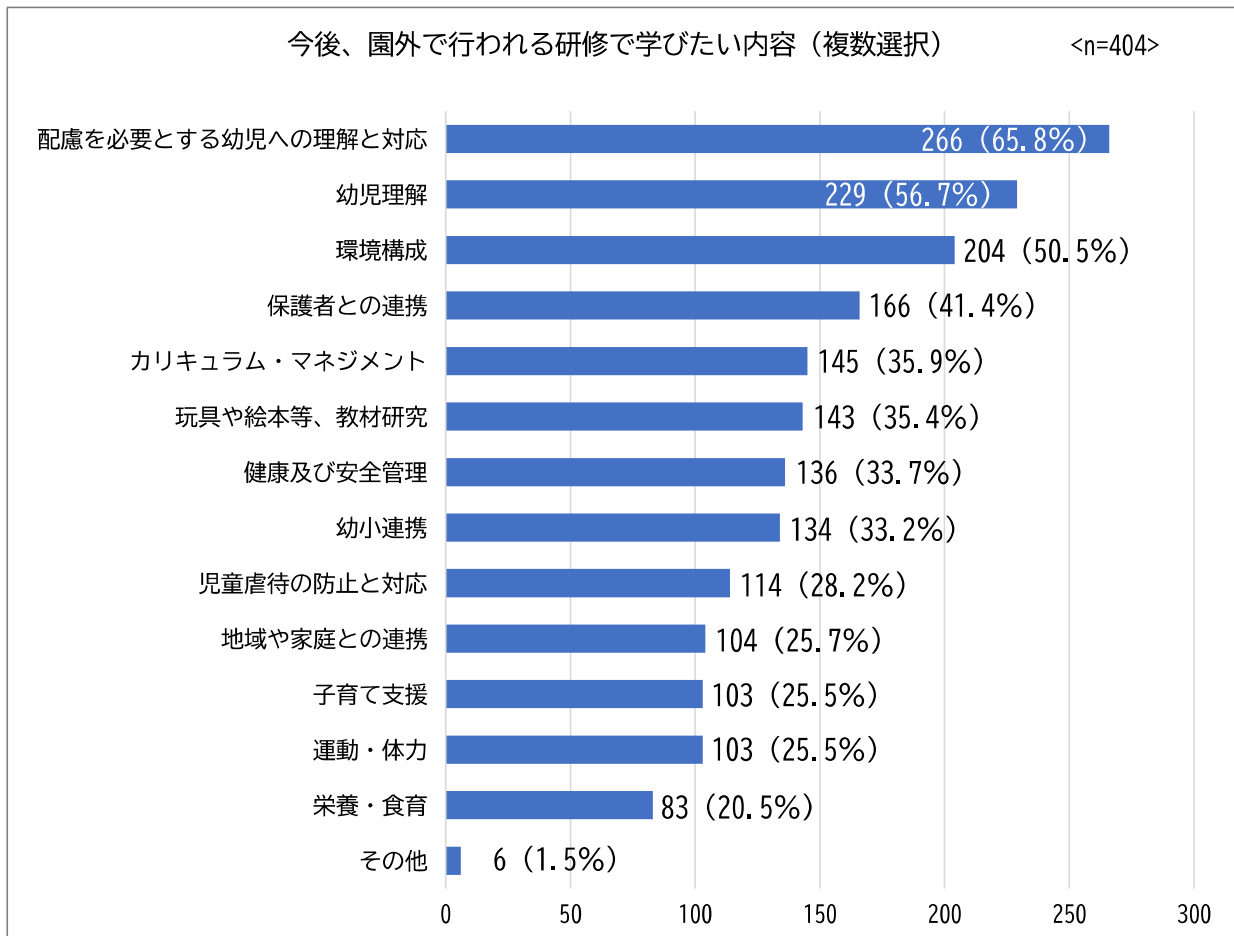


③ 保育者が参加した研修会の方法（複数選択）



④ 今後、園外で行われる研修で学びたい内容（複数選択）

幼児教育振興指針 P.32 【図10】

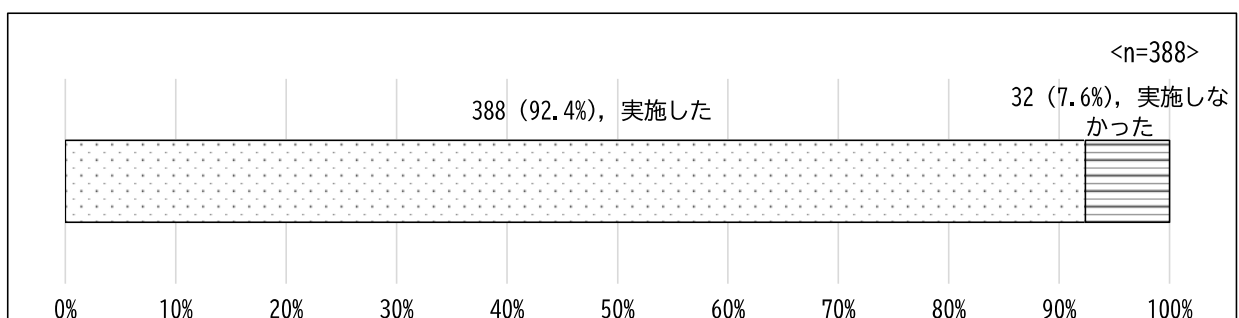


<その他>

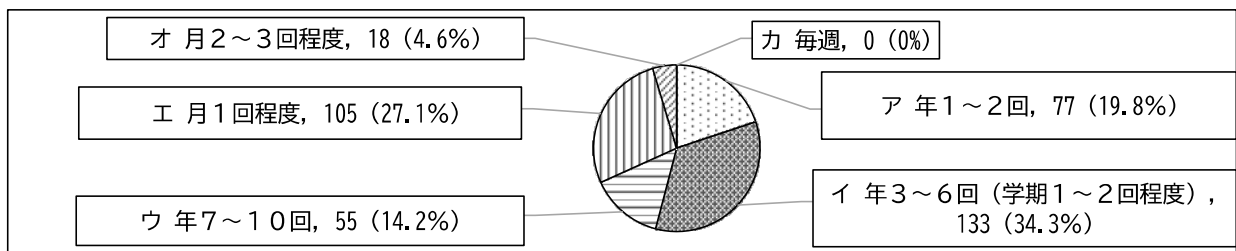
- ・ 幼児の遊び・学び
- ・ 指導計画等の捉え方、記入方法
- ・ スマホと脳の発達について
- ・ 業務改善や運営マネジメント
- ・ 人材育成
- ・ 乳児保育
- など

(17) 貴園で令和4年度に実施した園内研修について

① 園内研修の実施の有無

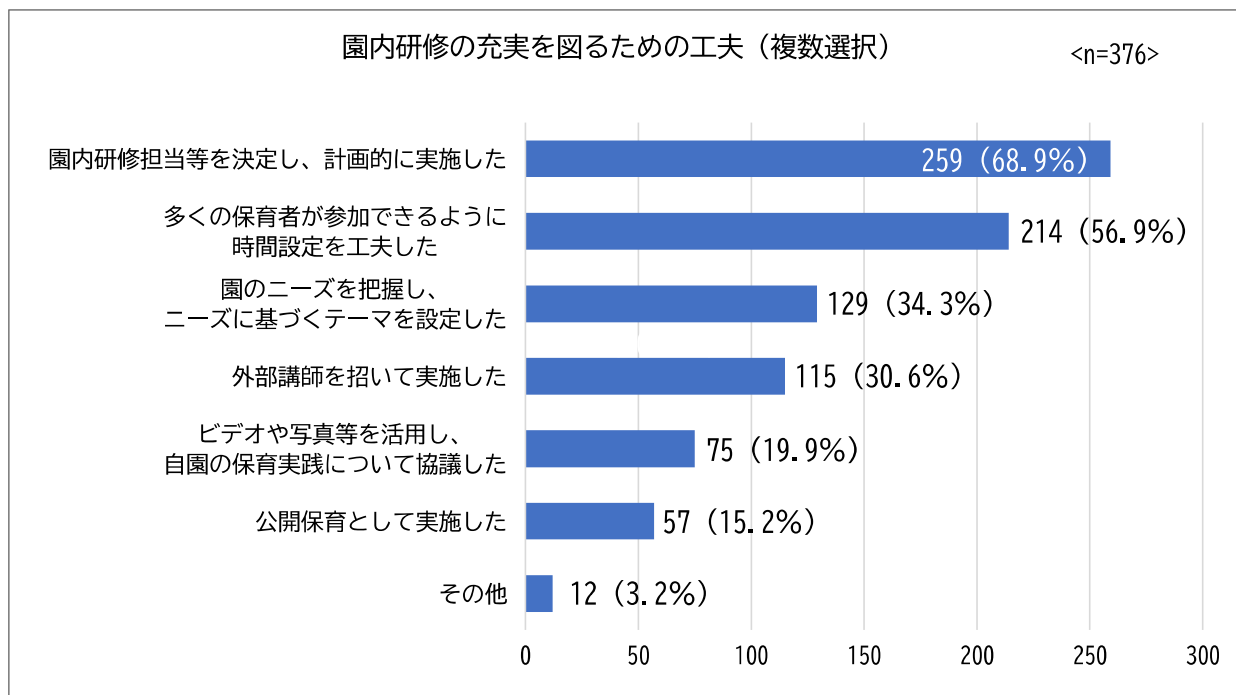


② 園内研修の実施回数



③ 園内研修の充実を図るためにどのような工夫をしたか
(複数選択)

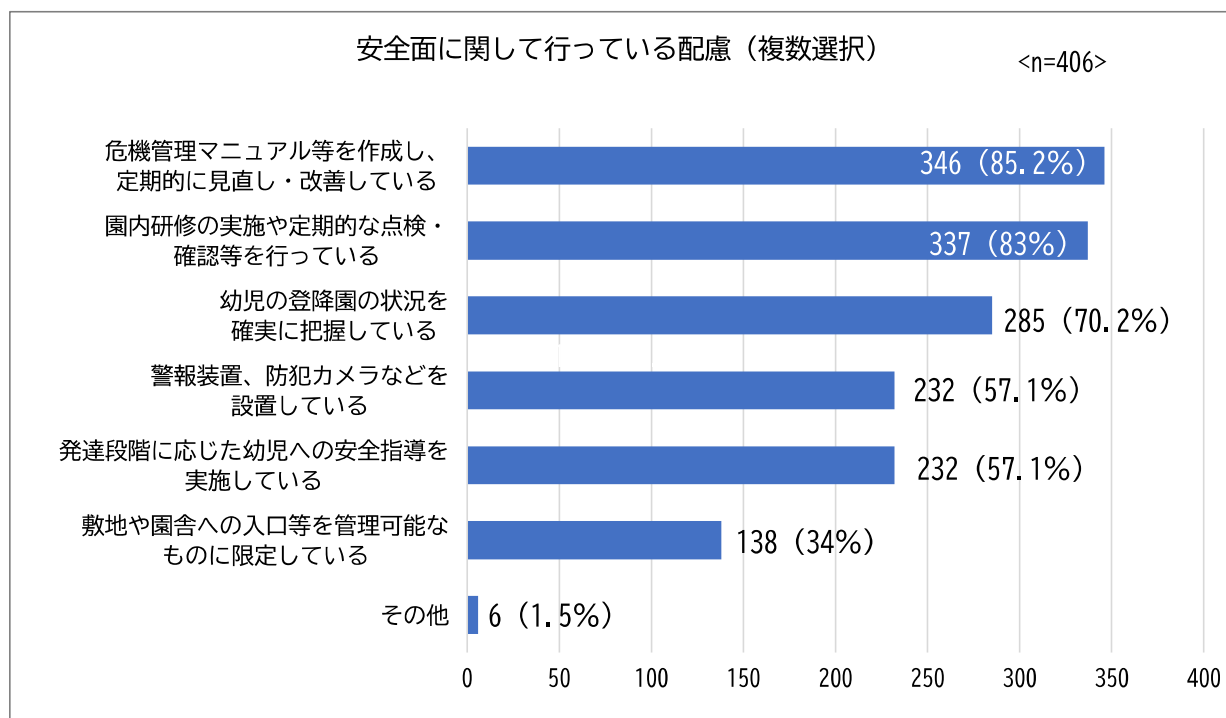
幼児教育振興指針 P.31 【図9】



<その他>

- ・外部研修を受講した職員からの伝達研修を行い共通理解を図った
- ・職員の見解を付箋を使って自由に貼れるようにした
- ・園内のケース会議を開催
- ・安全管理などの基本的な研修に加え、その時期、その時点で必要となる「研修」を事前に実施など
- ・課題を絞り取らせた

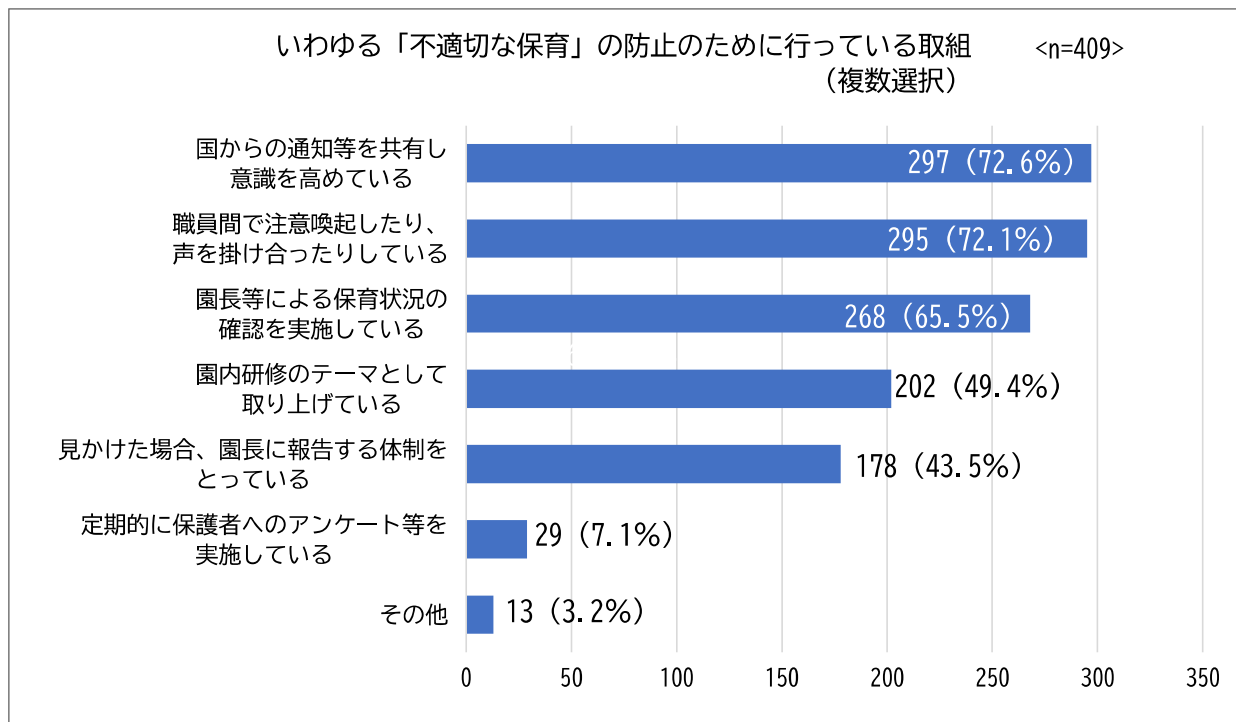
(18) 安全面に関して行っている配慮（複数選択）



<その他>

- ・ AED 操作訓練
- ・ 毎月の避難訓練時に園内外の点検
- ・ 玩具の消毒時に安全性の点検
- ・ 職員主体でのヒヤリハットの洗い出しと改善
- など

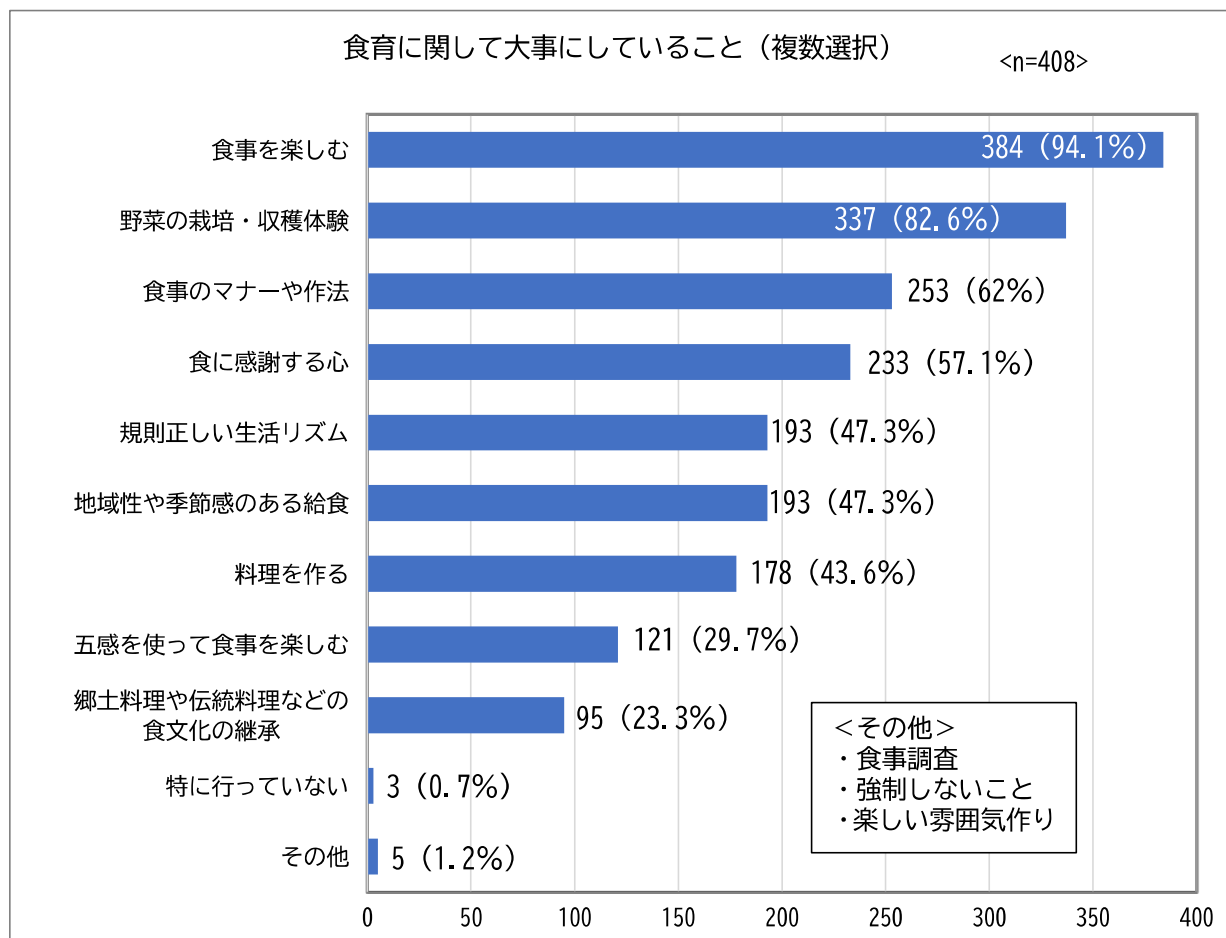
(19) いわゆる「不適切な保育」の防止のためにどのような取組をしていますか。(複数選択)



<その他>

- ・主任が個別面談を行い注意喚起
 - ・子どもへの言葉のかけ方への注意喚起
 - ・ゆとりのある保育
 - ・セルフチェックの実施やセミナーの視聴
 - ・いつでもだれでも園内外を視察できる体制を整えている
 - ・子どもの人権や人格を尊重する意識の向上
 - ・子どもへの接し方の共有
 - ・ニュースから流れる情報について、自分の考えを出し話し合える場を作る
- など

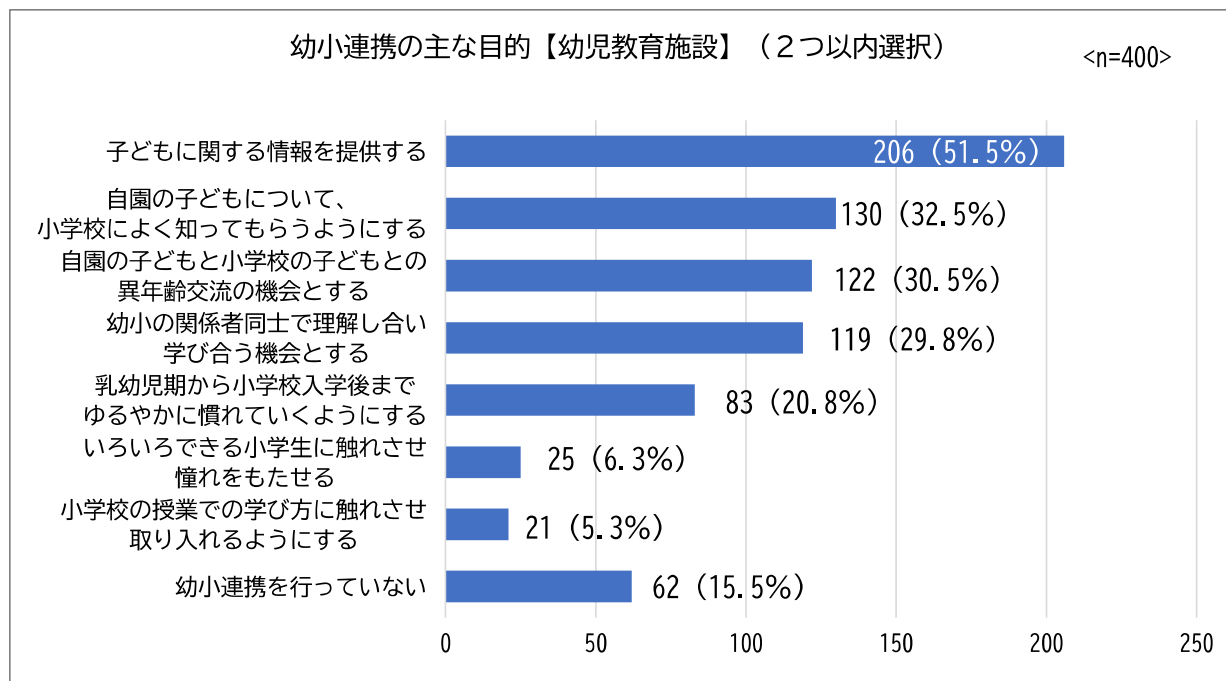
(20) 食育に関して大事にしていること（複数選択）



V 幼小連携（乳幼児教育と小学校教育との連携）について

・・・幼児教育施設からの回答結果 (1)～(9)

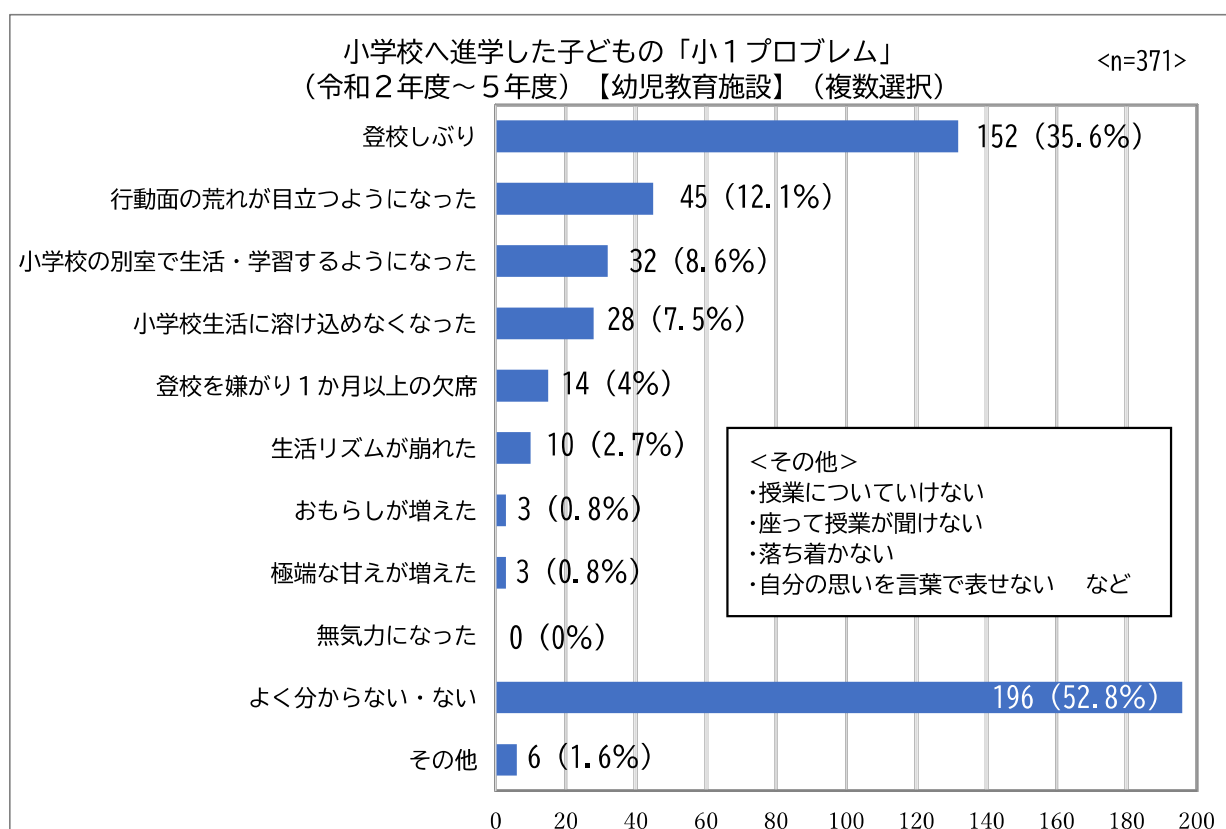
(1) 幼小連携の主な目的（二つ以内）



<幼小連携を行わない理由>

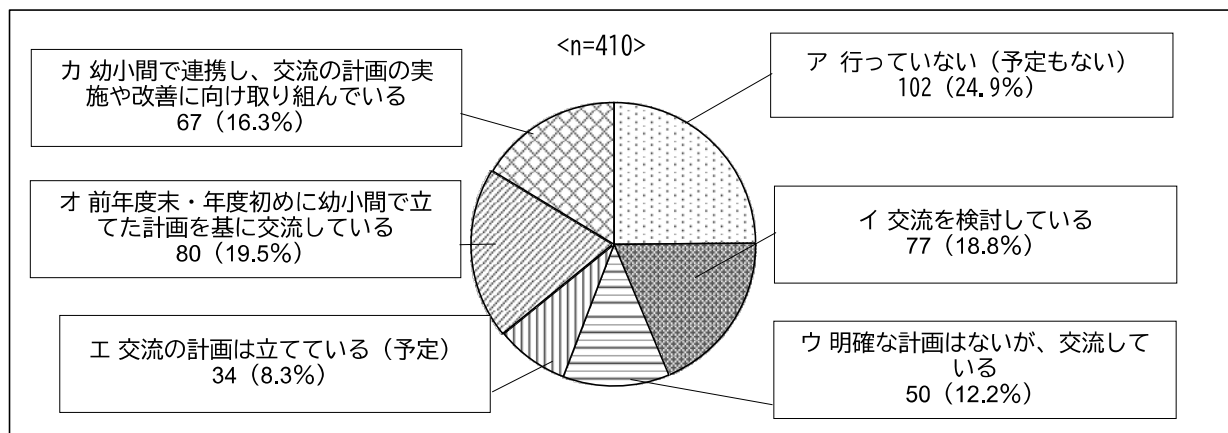
- ・未満児施設のため(0～2歳児施設)
- ・以前は行っていたが、コロナ以降様子を見ている
- ・小学校との接点の構築不足
- ・連携の体制整備が不十分
- など

(2) 小学校へ進学した子どもの「小1プロブレム」(令和2年度～5年度)(複数選択)



(3) 幼小連携の現状・段階

①子ども同士の交流（一つ選択）



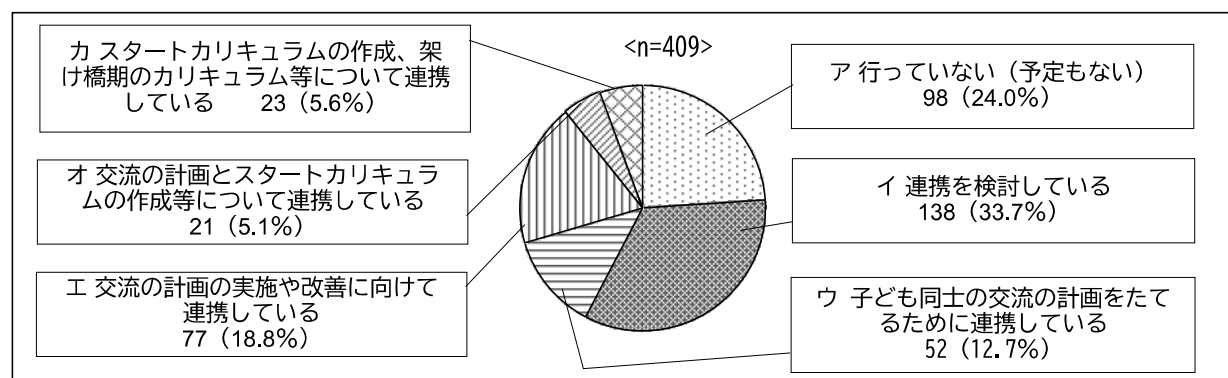
<交流を行わない理由>

- ・小学校が近くにないため
- ・未満児施設であるため
- ・小学校との時間や日程調整が難しい
- ・入学する小学校が複数あるため
- ・コロナ、インフルエンザなど感染症予防のため
- ・小学校からの要請がない

など

②先生同士の連携（一つ選択）

幼児教育振興指針 P. 23 【図4】



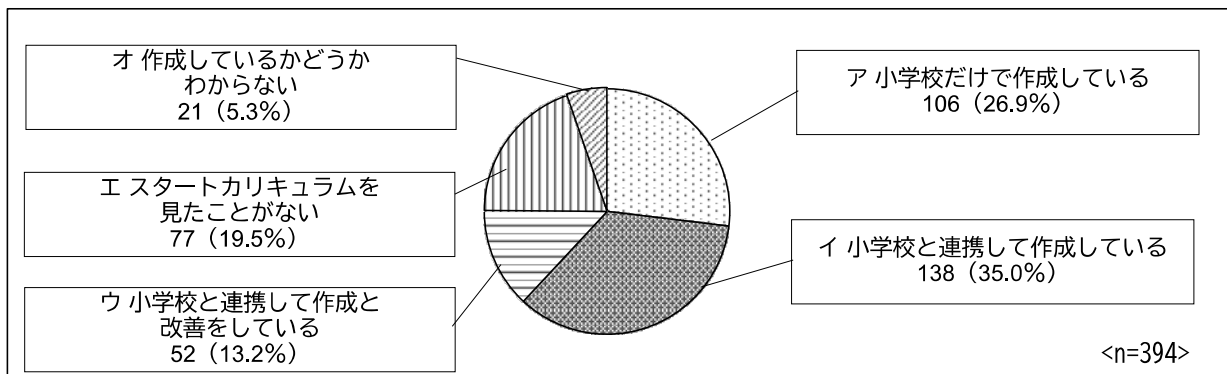
<連携を行わない理由>

- ・いつ、どの小学校とどのような内容で行うかについてなかなか決められない
- ・時間が取れない
- ・互いに時間的余裕がない
- ・未満児の施設のため
- ・コロナでできなくなった交流を復活することが難しい
- ・多数の小学校へ入学しているため
- ・コロナ等感染症対策

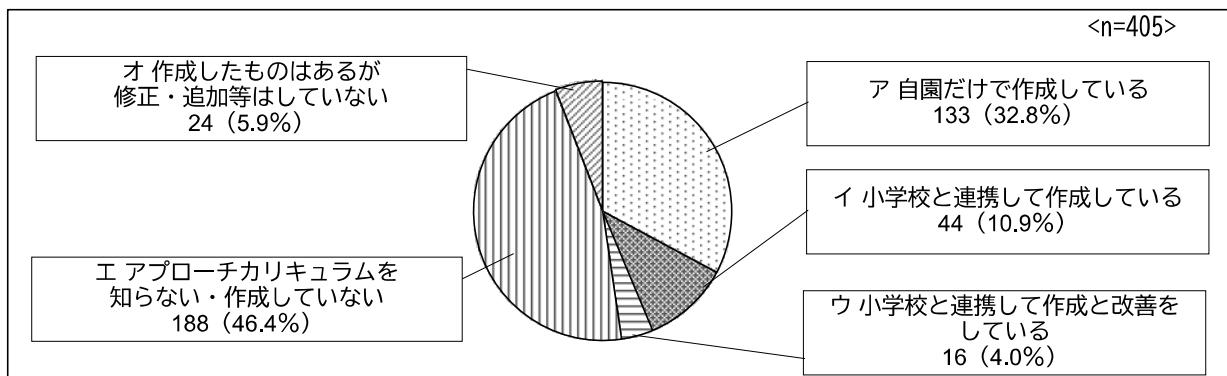
など

(4) スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの段階

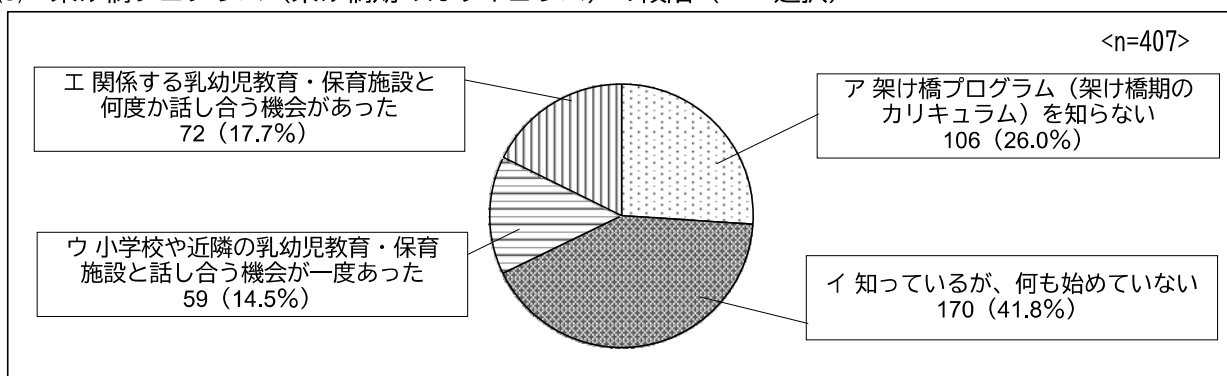
① スタートカリキュラム（一つ選択）



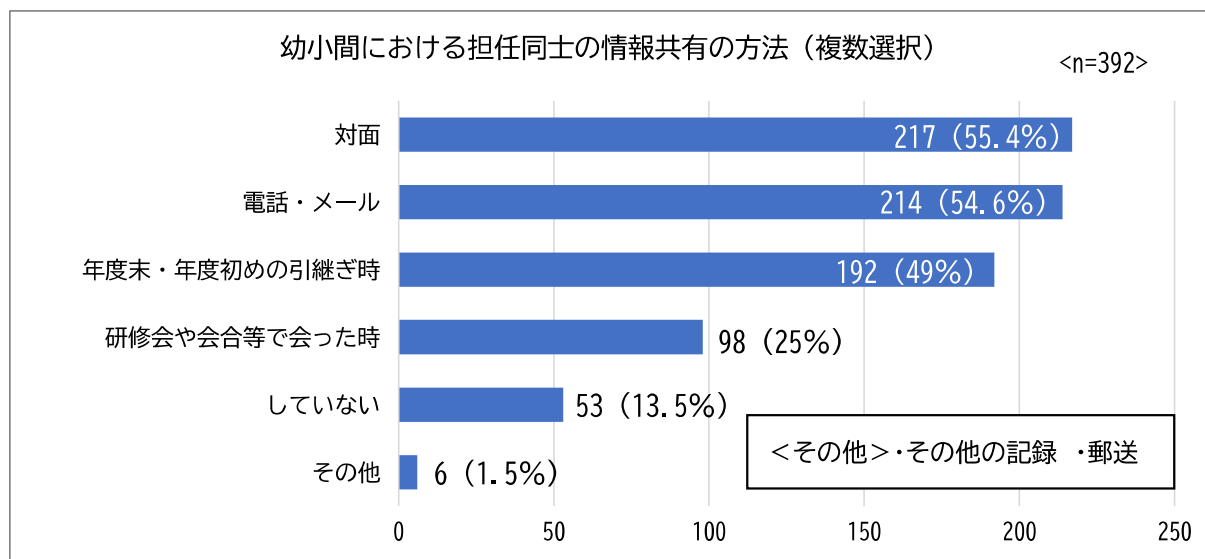
② アプローチカリキュラム（一つ選択）



(5) 架け橋プログラム（架け橋期のカリキュラム）の段階（一つ選択）

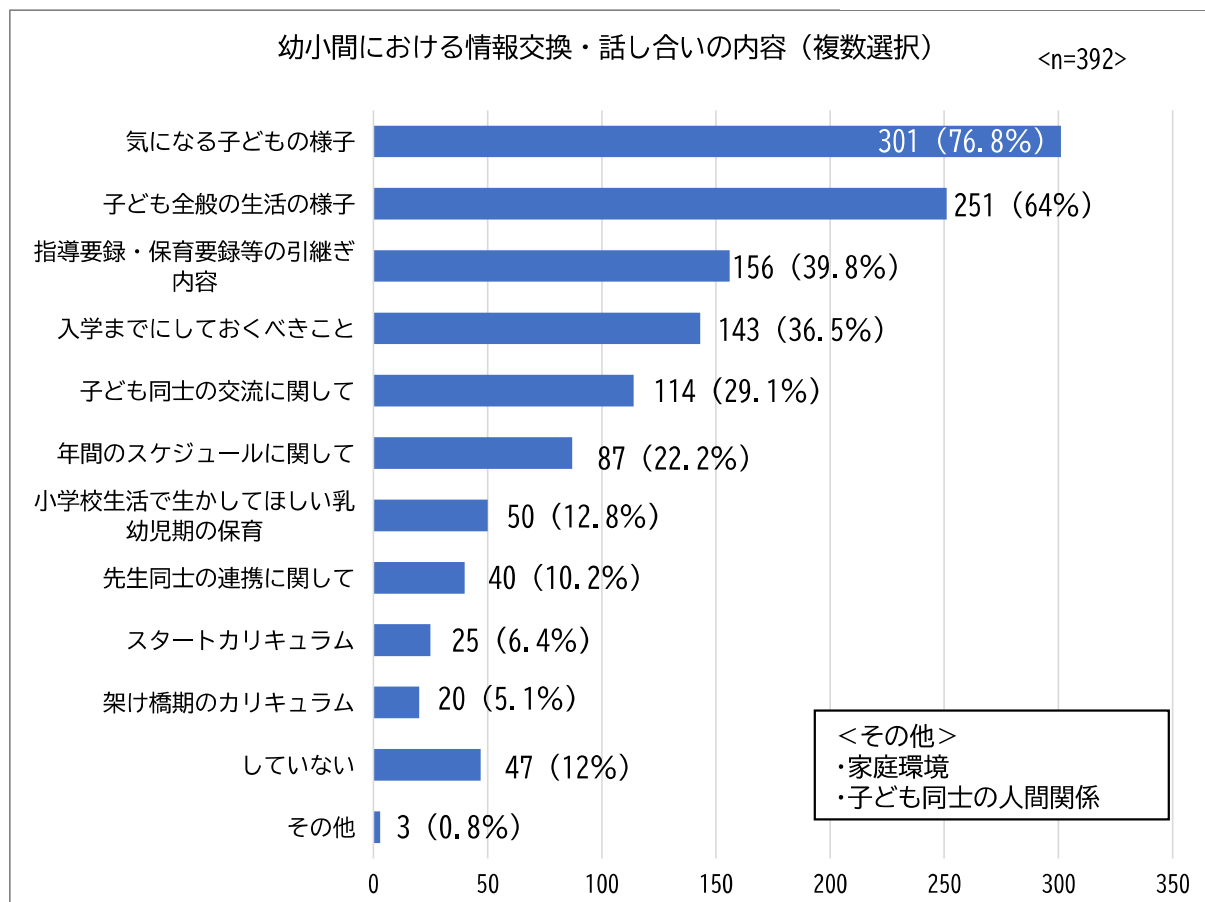


(6) 幼小間における担任同士の情報共有の方法（複数選択）

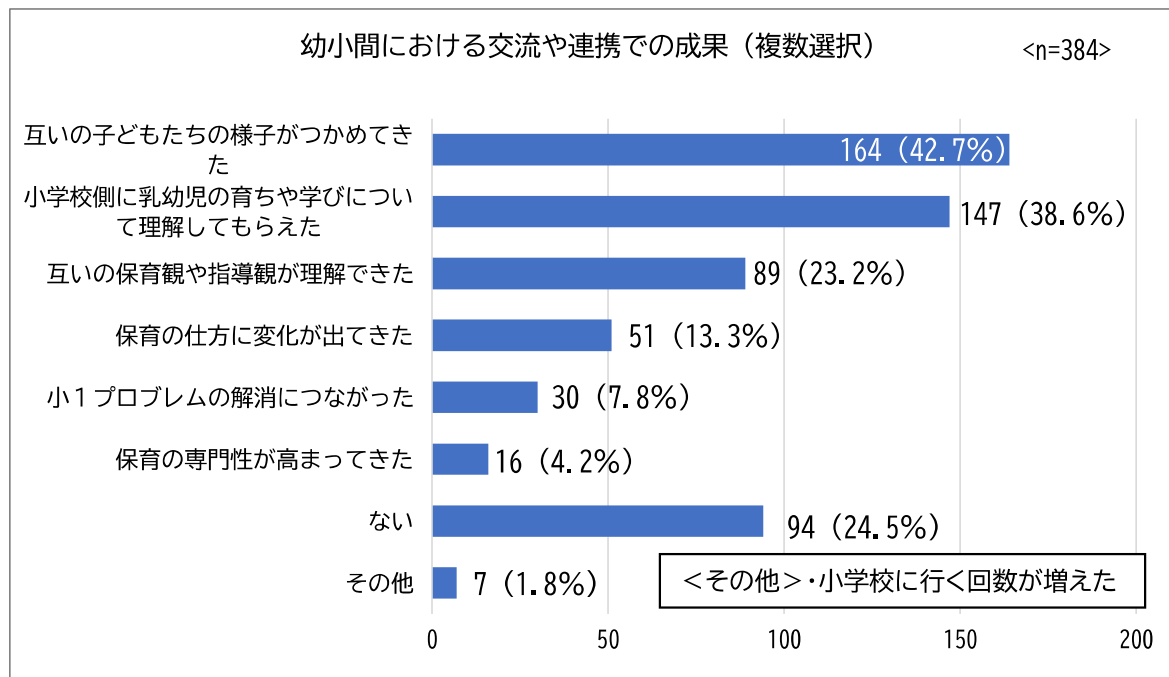


(7) 幼小間における情報交換・話し合いの内容（複数回答）

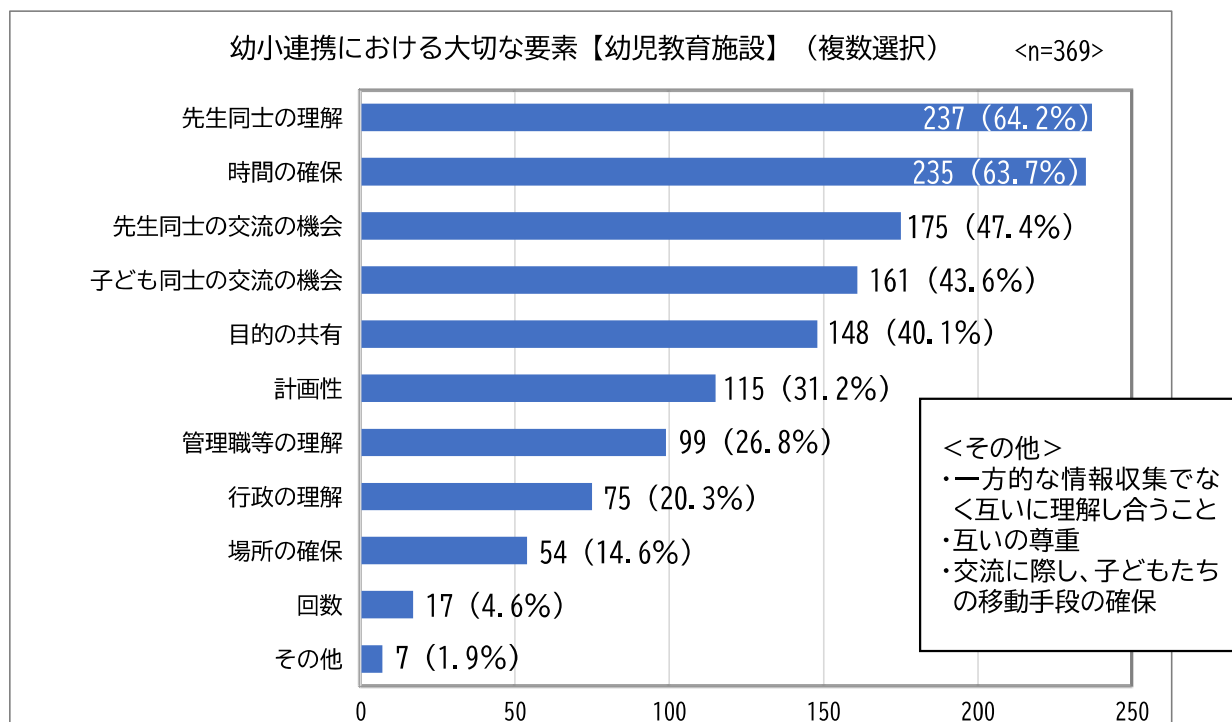
幼児教育振興指針 P.24 【図5】



(8) 幼小間における交流や連携での成果（複数選択）



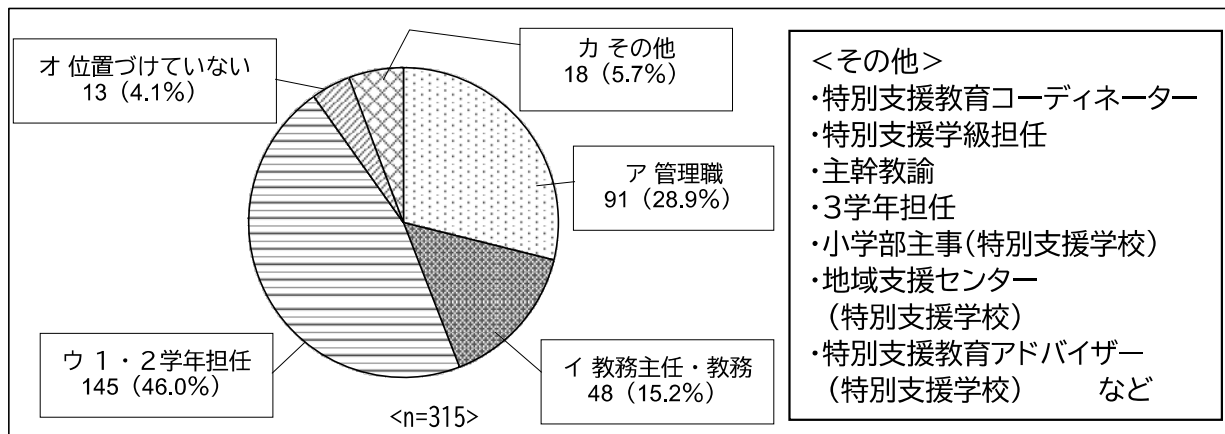
(9) 幼小連携における大切な要素（複数選択）



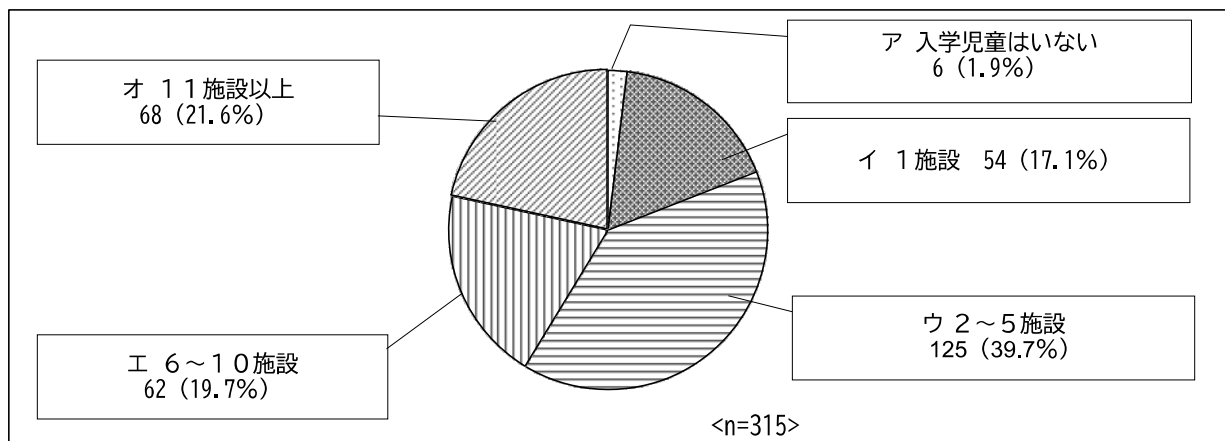
V 幼小連携（乳幼児教育と小学校教育との連携）について

・・・小学校からの回答結果 (1)~(13)

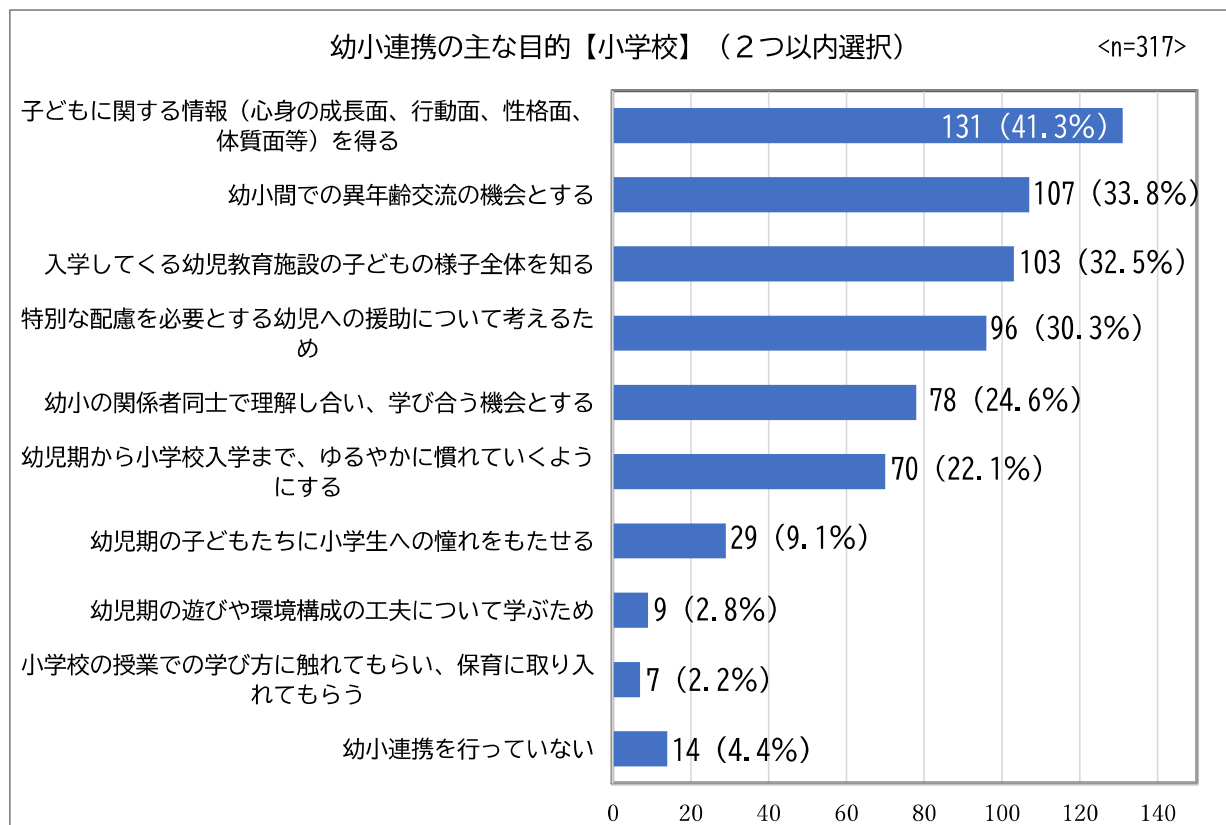
(1) 校内における、幼小連携を担当する職員



(2) 入学した子どもの入学元の施設数（令和5年度）

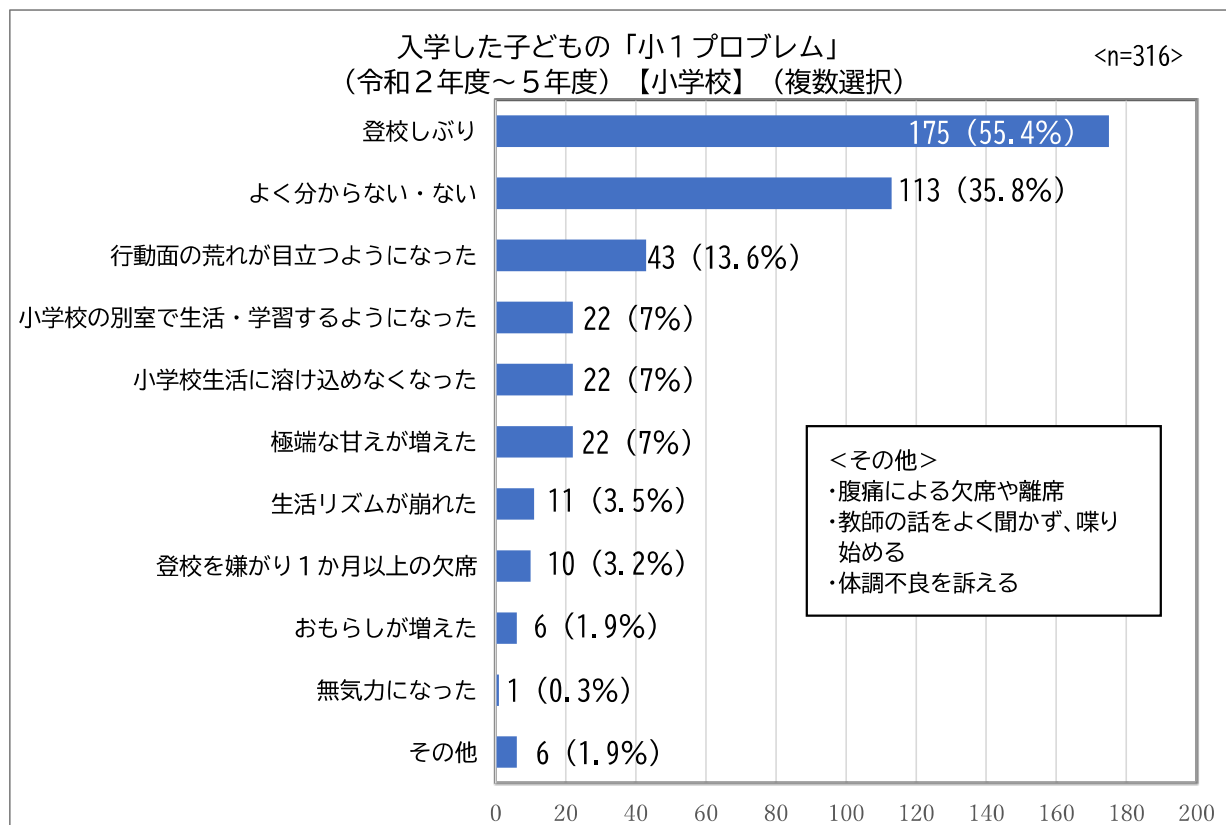


(3) 幼小連携の主な目的（二つ以内）



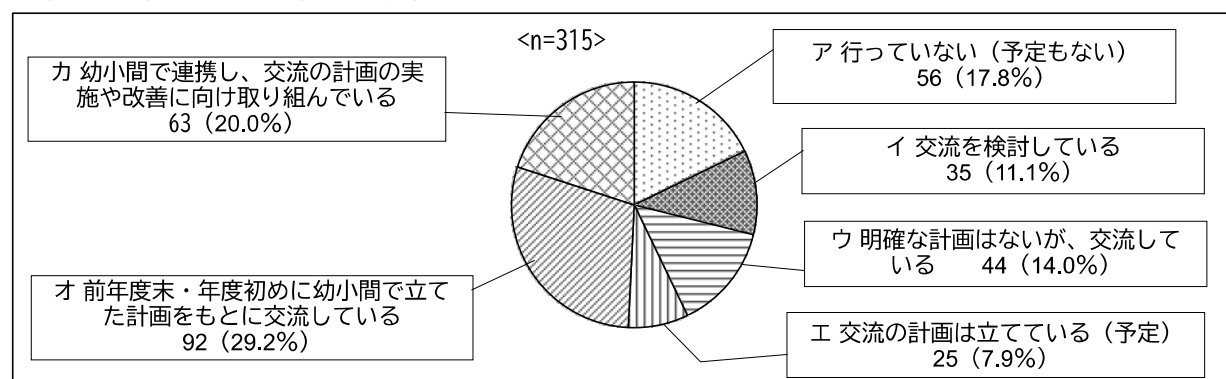
- <幼小連携を行わない理由>
- ・コロナの影響
 - ・入学予定者がいない
 - ・近隣に施設がない
 - ・色々な幼児教育施設から入学があるため
 - ・どの幼児教育施設から入学してくるか事前に分からないため(特別支援学校)
 - ・今年度より隣接していた幼稚園が休園となったため
 - など

(4) 入学した子どもの「小1プロブレム」(令和2年度～5年度)(複数選択)



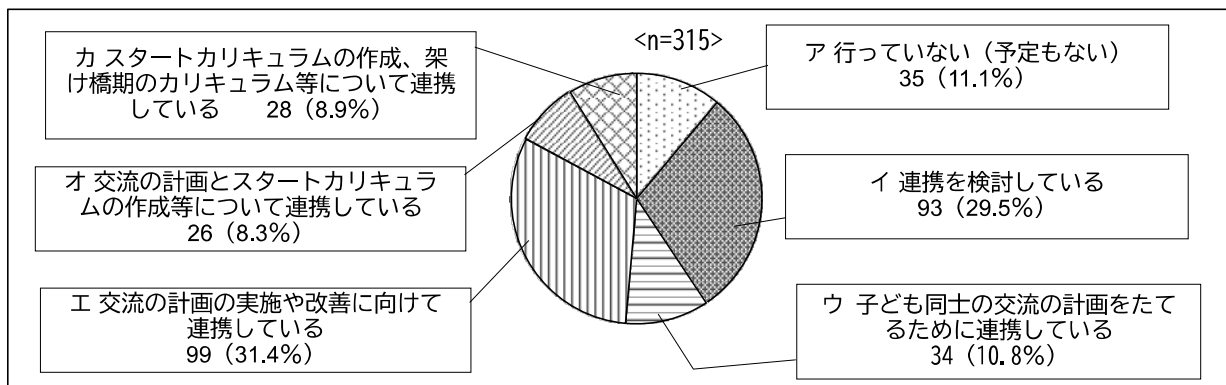
(5) 幼小連携の現状

①子ども同士の交流(一つ選択)



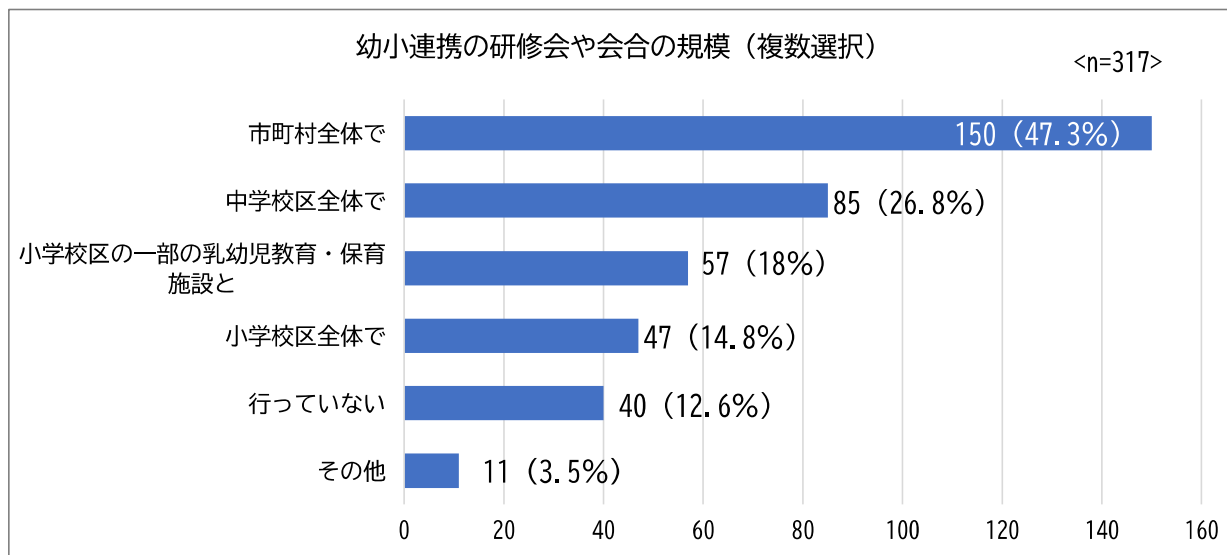
- <交流を行わない理由>
- ・入学してくる幼児教育施設が多岐にわたるため
 - ・日程・行事調整の難しさ
 - ・近隣に幼児教育施設がない
 - ・新型コロナウイルス感染症流行時に感染防止のため交流が途絶えてしまった
 - ・同じ幼児教育施設から入学する子どもが少ないため
 - ・移動手段の確保の難しさ
 - ・幼児教育施設から交流の要請がない
 - など

②先生同士の連携（一つ選択）



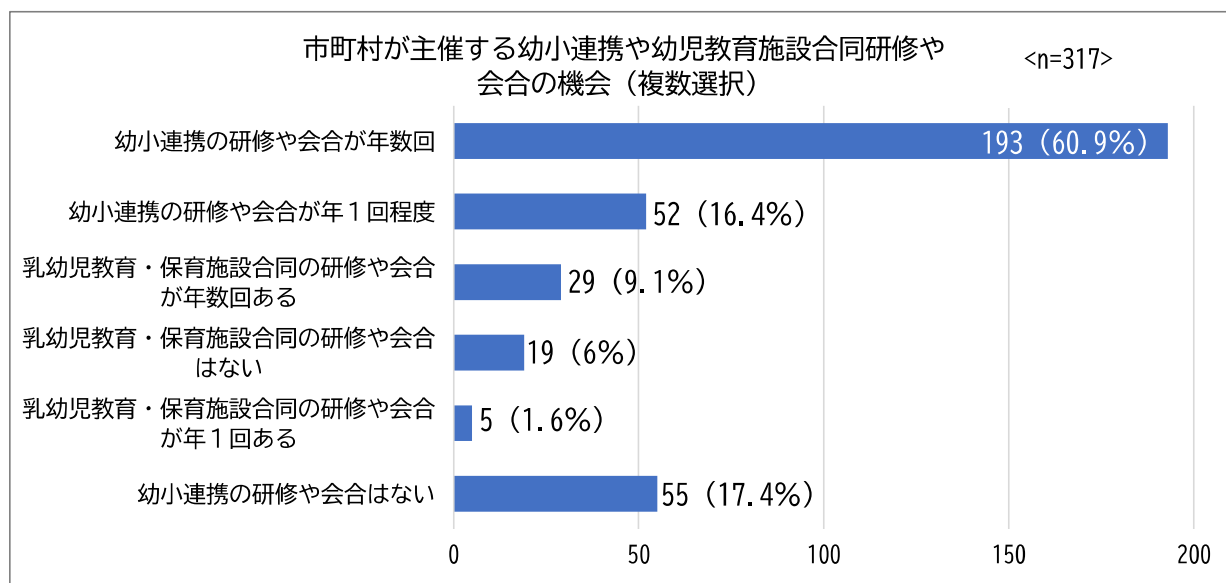
- <連携を行わない理由>
- ・時間の確保が難しい
 - ・多くの幼児教育施設から入学してくるため実施が難しい
 - ・同じ幼児教育施設から入学する子どもが少ないため
 - ・年度末の小学校への引き継ぎの際に、幼児教育施設の職員の他に、幼少期からの情報を持っている町の保健師も参加し十分な小学校への引き継ぎができていないため
 - ・小学校からの園訪問はあるが、園からの情報は書面にて伝えられている
 - ・必要な配慮や支援が異なるため、個に応じた相談を受けている（特別支援学校）
- など

(6) 幼小連携の研修会や会合の規模（複数選択）



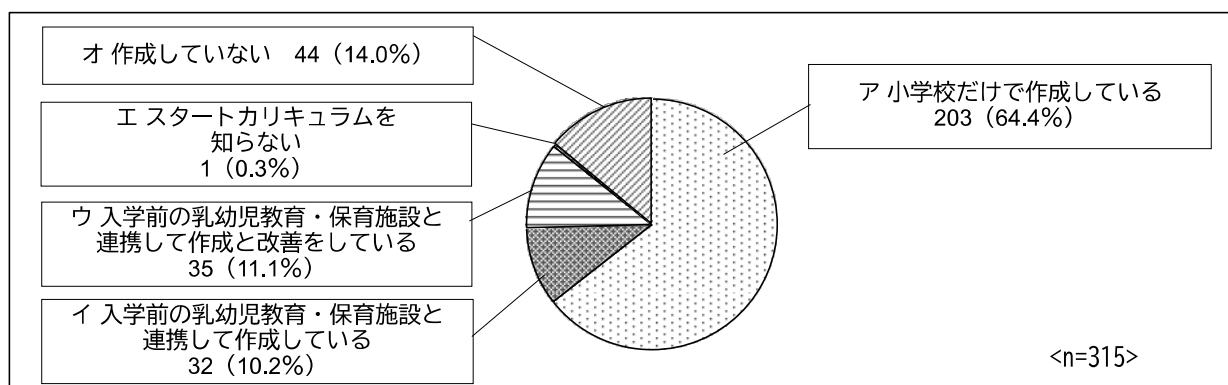
- <その他>
- ・本校主催の研修会の折りに、各施設に案内を出している
 - ・小学校の学区において幼児教育施設毎に実施
 - ・校内で行っている（特別支援学校）
 - ・地域支援センターに依頼があった場合に対応（特別支援学校）
- など

(7) 市町村が主催する幼小連携や乳幼児教育・保育施設合同の研修や会合の機会（複数選択可）

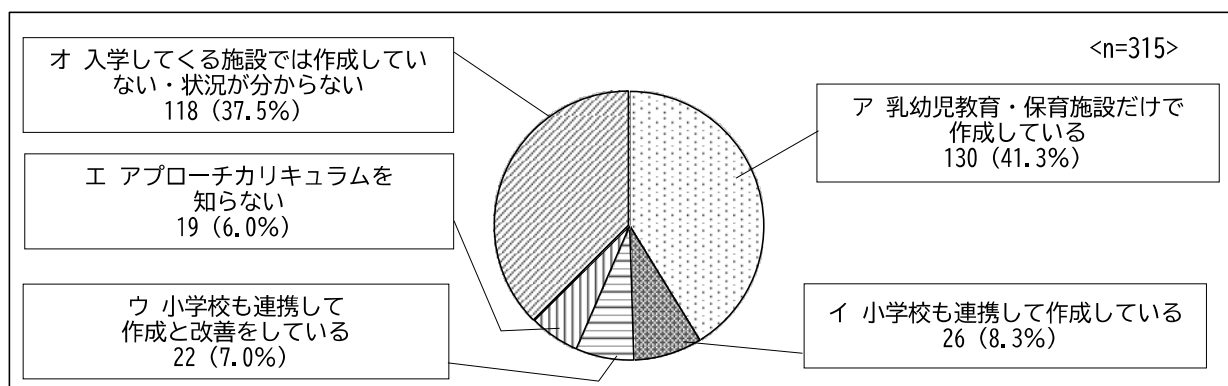


(8) スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの段階

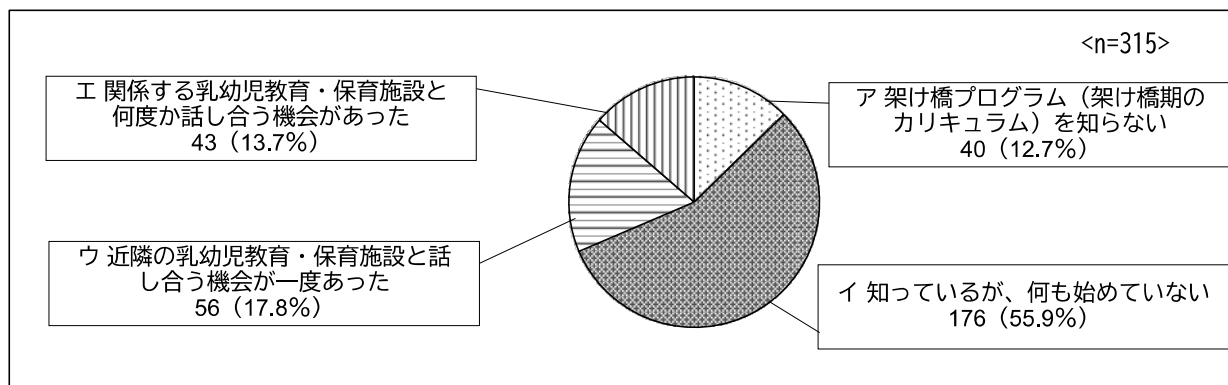
① スタートカリキュラム（一つ選択）



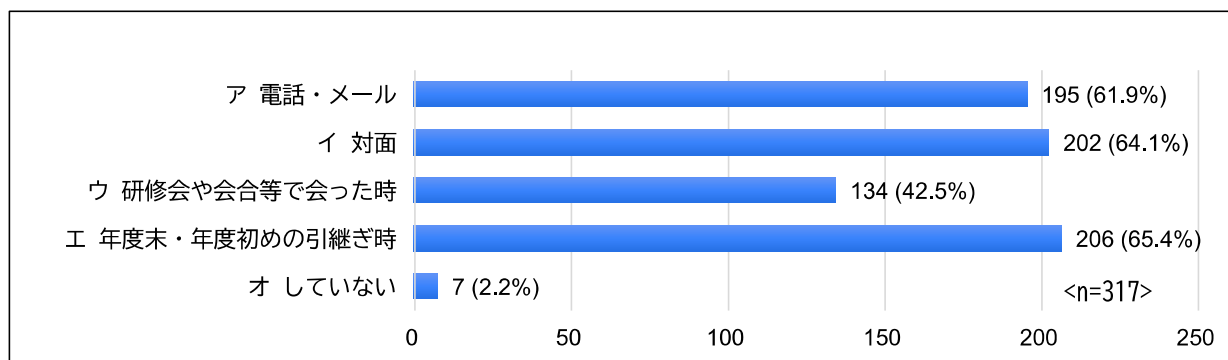
② アプローチカリキュラム（一つ選択）



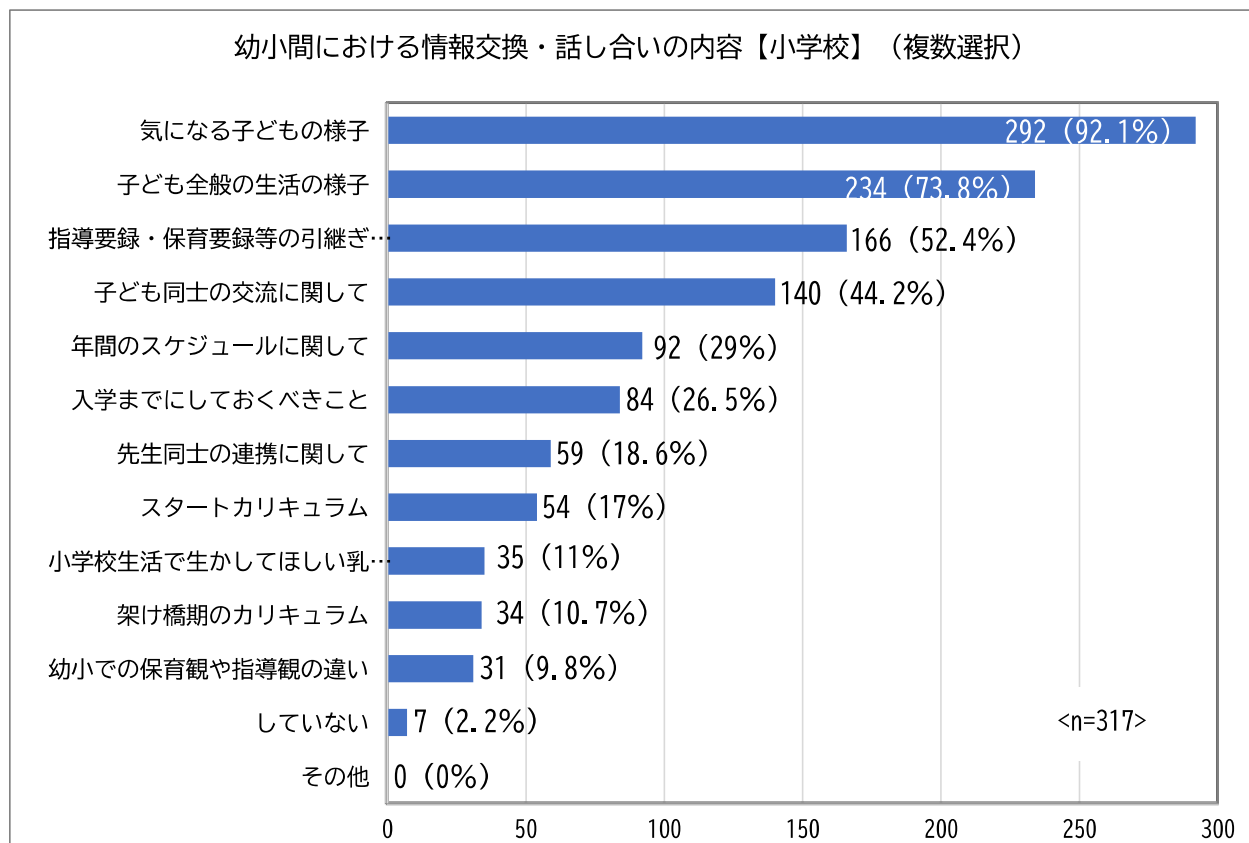
(9) 架け橋プログラム（架け橋期のカリキュラム）の段階（一つ選択）



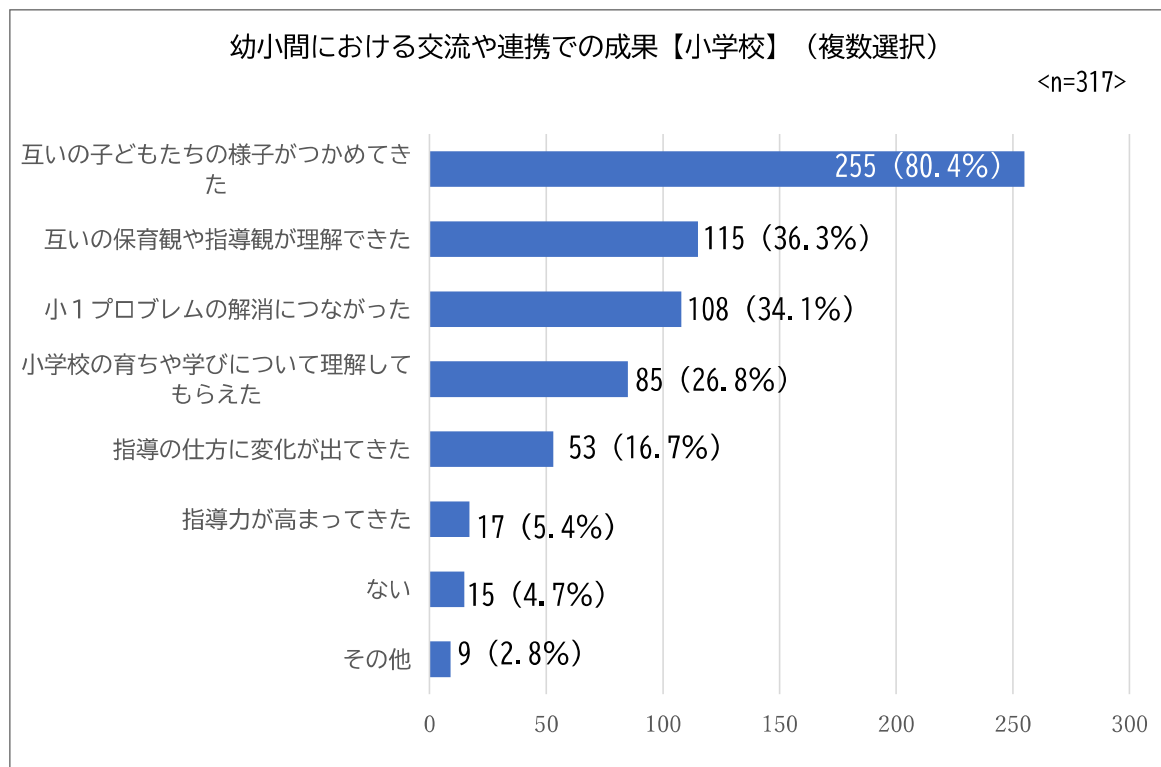
(10) 幼小間における担任同士の情報共有の方法（複数選択）



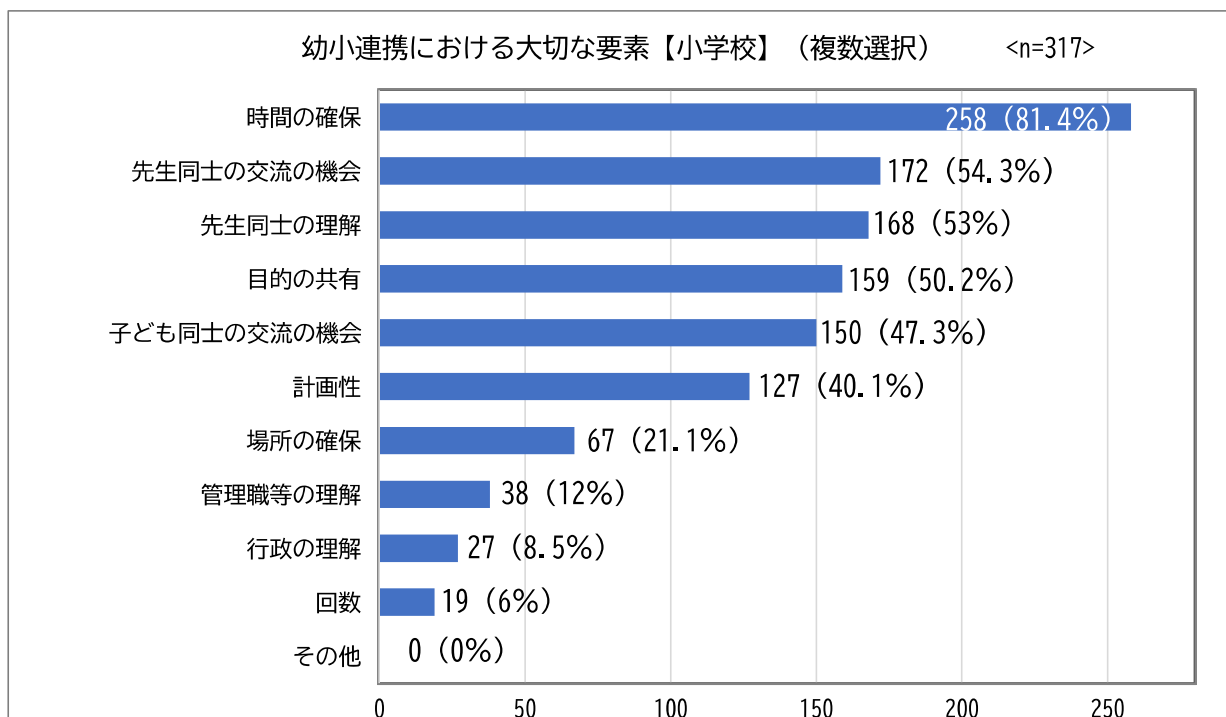
(11) 幼小間における情報交換・話し合いの内容（複数選択）



(12) 幼小間における交流や連携での成果（複数選択）

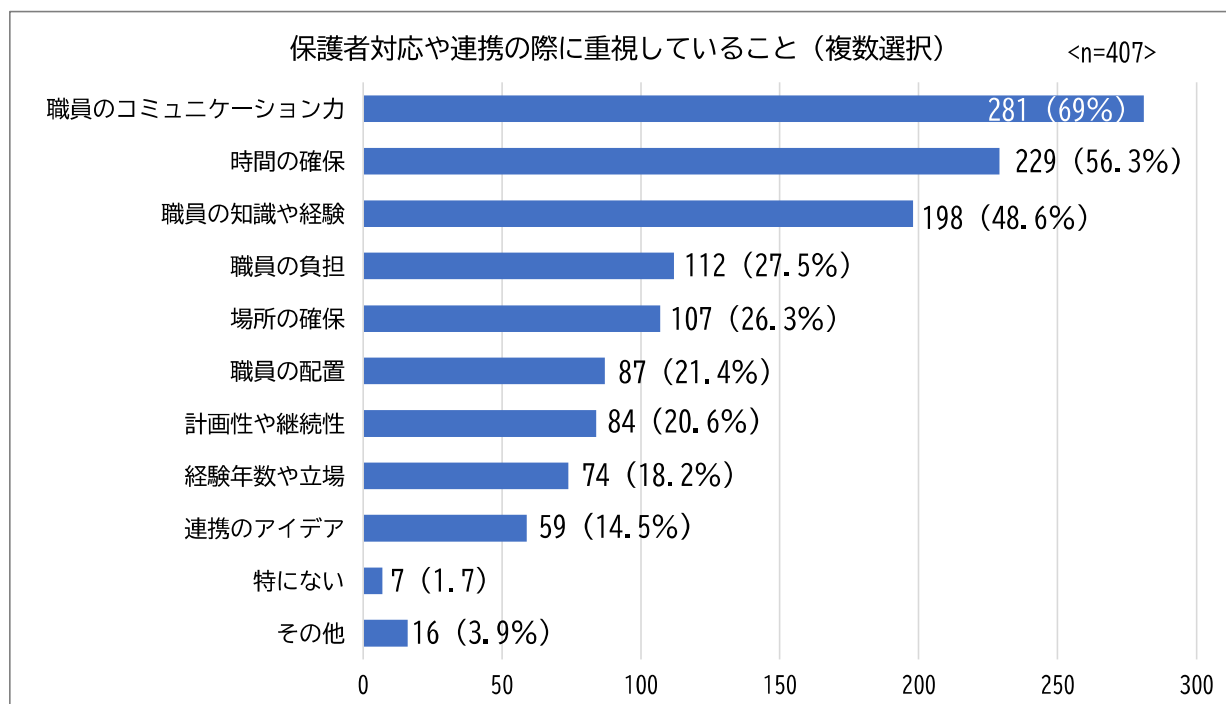


(13) 幼小連携における大切な要素（複数選択）



VI 家庭・地域との連携について

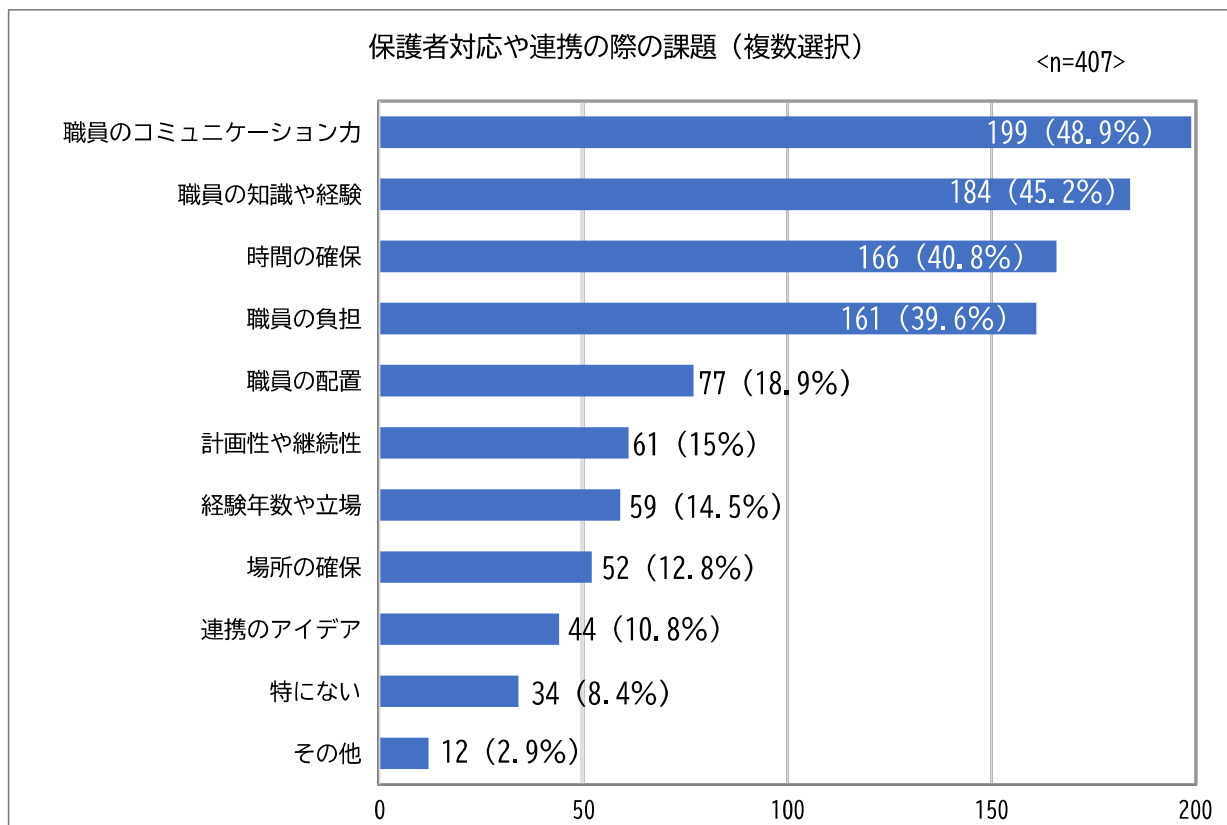
(1) 保護者対応や連携の際重視していること



【その他】

- ・保護者の意識、保護者への寄り添い
- ・情報の提供
- ・保護者に対するあいさつやふるまい
- ・保護者との信頼関係の構築
- ・それぞれの家庭の状況を知ること
- ・保護者への共感・共有
- ・保護者の主体的参画
- ・保護者の負担軽減
- ・園での子どもの様子を伝えること
- ・円滑なコミュニケーション
- ・職員間の連携
- ・個別計画の作成、個別の配慮、専門知識の向上 など

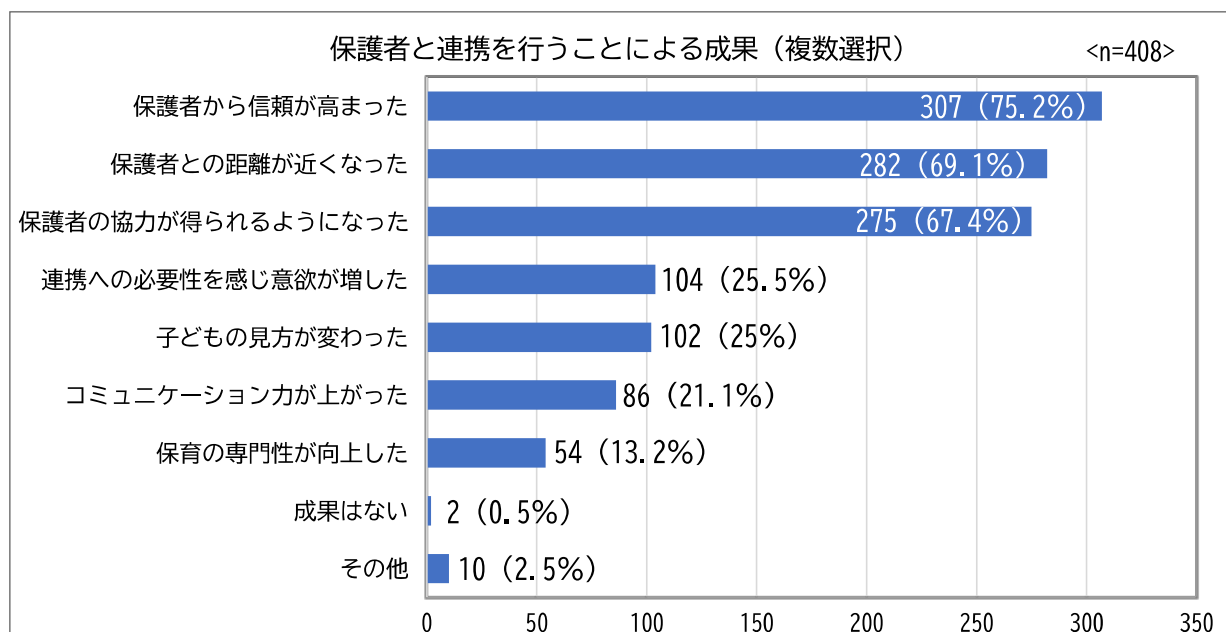
(2) 保護者対応や連携の際の課題



【その他】

- ・保護者との信頼関係を築き、保護者の思いを受け取る
 - ・子育てに対する考えや価値観の違いへの対応
 - ・こちらの意図や思いがうまく伝わらない
 - ・ニーズを読み取る
 - ・課題に対しての対応の在り方
- ・常日頃からの声かけ、コミュニケーションスキル
など

(3) 保護者と連携を行うことによる成果

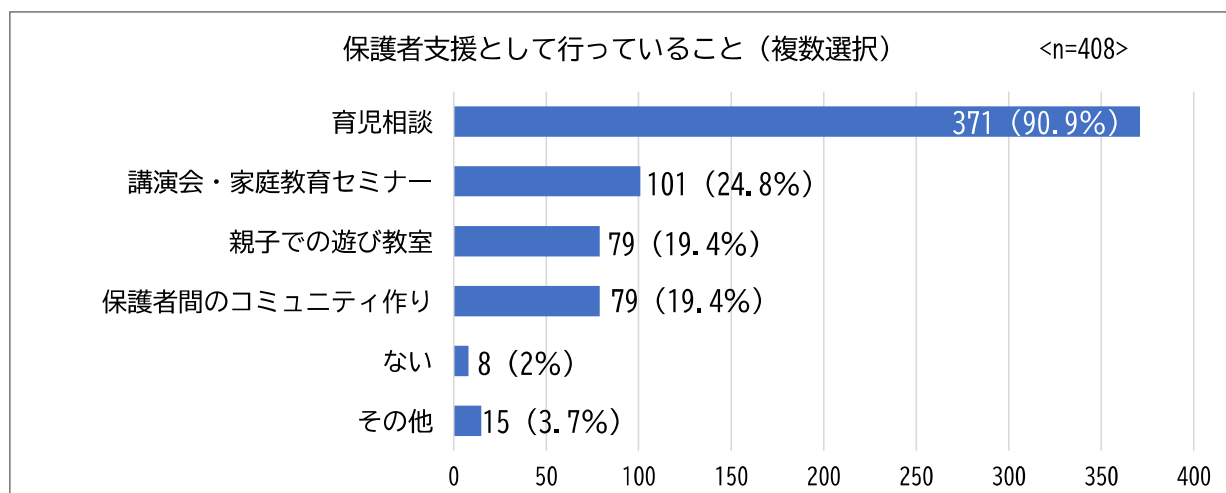


【その他】

- ・子どもにあった学びの環境を整えることができる
- ・よりよい関係づくり、園教育の充実を図ることができる
- ・子どもの成長や安定につながる
- ・保護者の心情を知ることができる など

(4) 保護者支援として行っていること

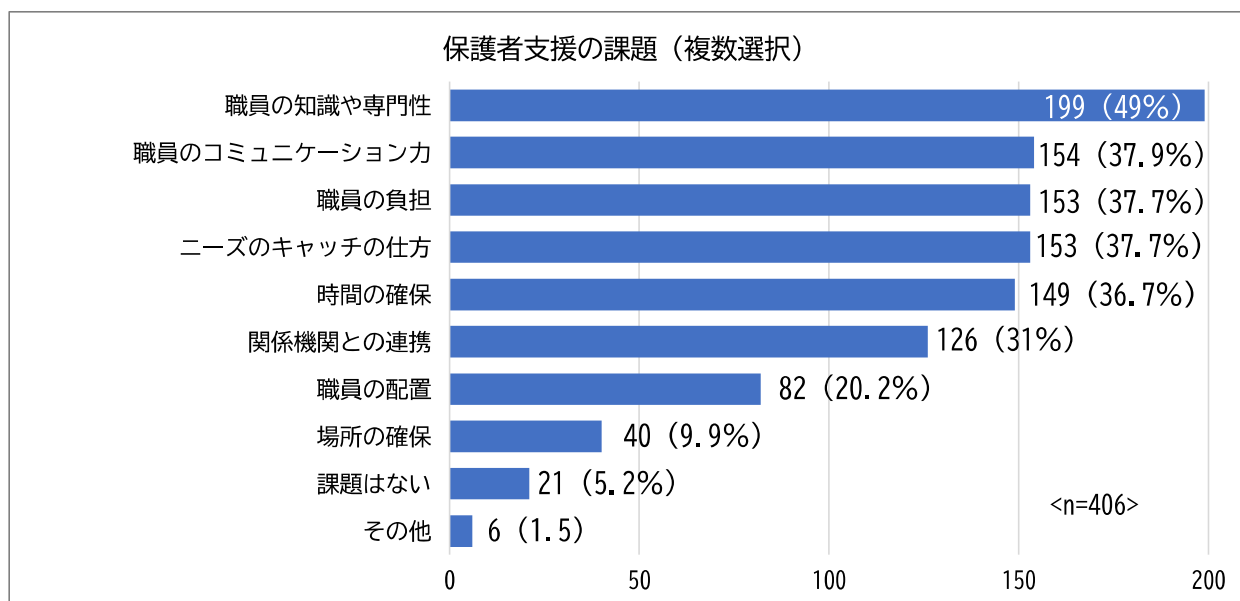
幼児教育振興指針 P.27 【図6】



【その他】

- ・カウンセリング
- ・自宅で体験できないプログラムの実施
- ・入園の準備物を必要最小限
- ・親子行事
- ・登校園時のコミュニケーション
- ・大きな行事や日常における個別計画の作成、個別の配慮、専門知識のスキルアップ など
- ・哺乳瓶・乳首・ミルク・おむつの準備
- ・おむつの持ち帰りなし
- ・保育システムや連絡帳による情報の発信
- ・個人面談

(5) 保護者支援の課題

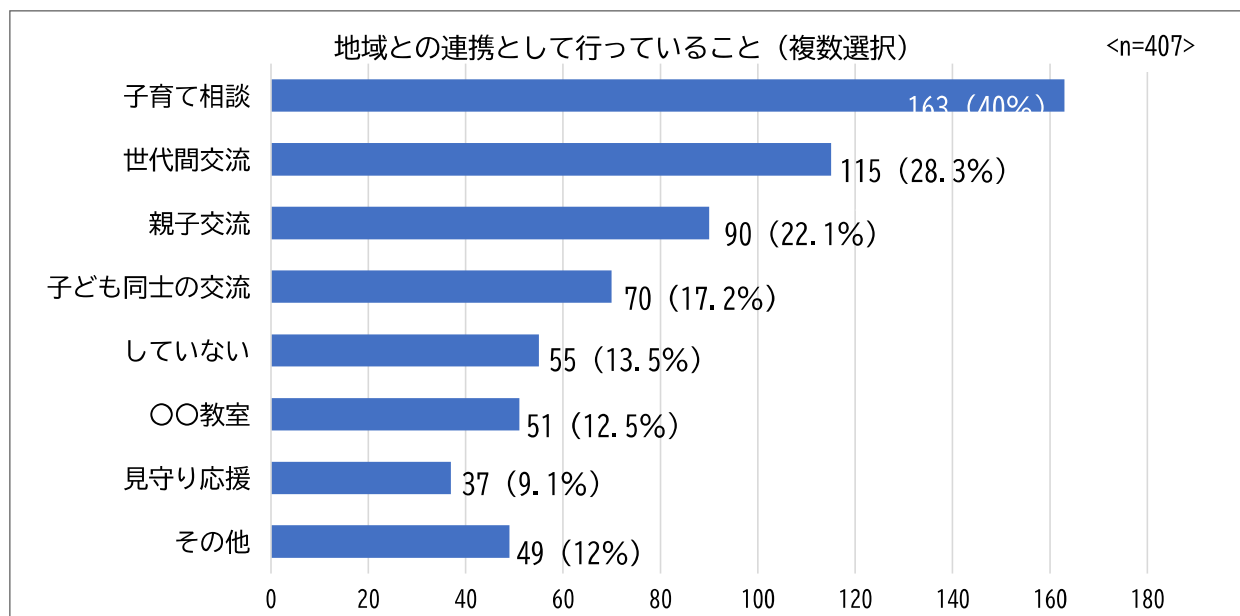


【その他】

- ・保護者との距離、子育て参画意識の減少
- ・家庭の保育・教育環境を整えること
- ・乳幼児の個々の発達の違いを前提にしながらも、できるころ合いを園任せにせず家庭での取り組みを促すこと
- ・保護者との信頼関係構築

(6) 地域との連携

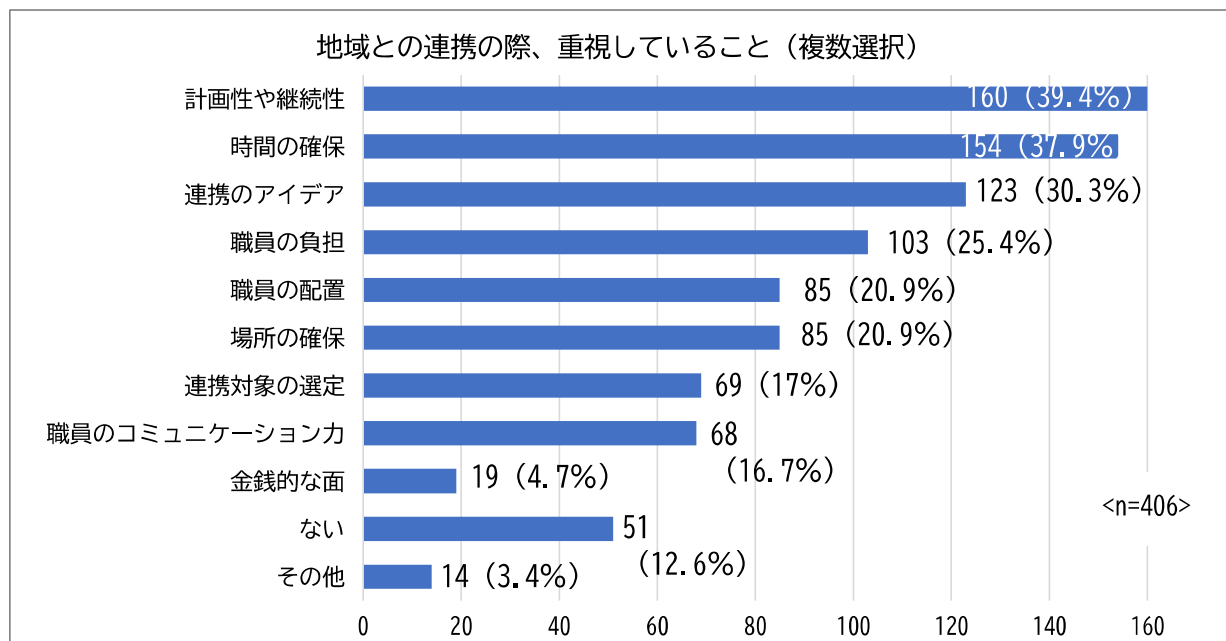
幼児教育振興指針 P.27【図7】



【その他】

- ・地域企業との交流（JR 駅員・コミュニティーセンター行事への参加）
- ・行事参加
- ・果樹園での収穫体験
- ・学校支援ボランティアの活用
- ・ボランティアとの交流（絵本の読み聞かせ・栽培活動・行事など）
- ・地域ふれあい事業
- ・地域の人を活用しての保育活動
- ・一時保育
- ・地域の協力委員会や大学生との交流
- ・子育て支援センター
- ・コミュニティスクール、地域学校協働活動、体験入園
- ・保健師、専門施設職員巡回を利用
- ・町内会と連携を図り様々な「社会貢献活動」を実施（防災訓練含む）
- ・災害発生時の避難先、行事時の駐車場として協力
- ・公共施設への訪問、神社へのお参り（七五三） など

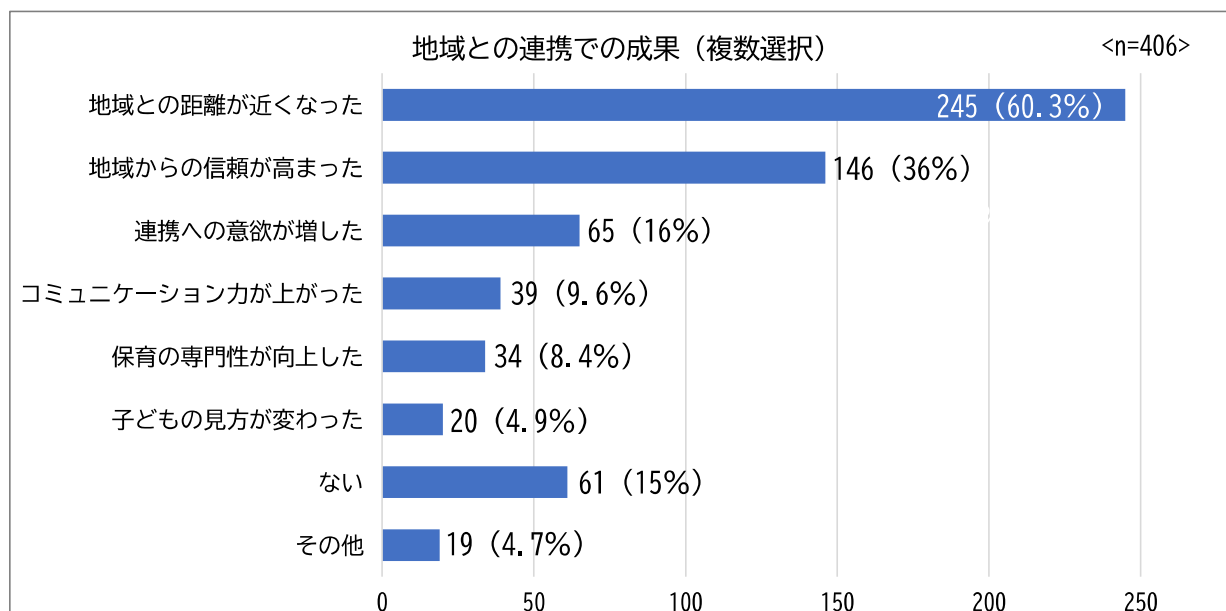
(7) 地域との連携の際、重視していること



【その他】

- ・互いの意見を尊重（連携）
- ・感染症予防対策
- ・地域に必要とされる園づくり
- ・学校支援ボランティアの活用
- ・地域行事への参加
- ・日ごろからの挨拶
- ・園の理解につながるような活動への参加 など

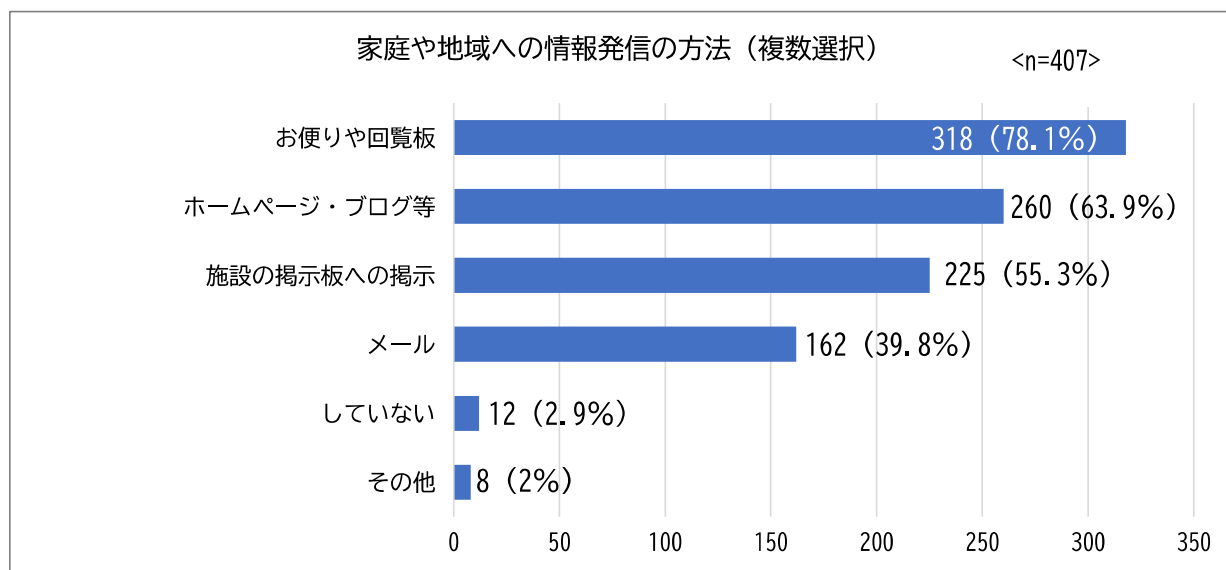
(8) 地域との連携での成果



【その他】

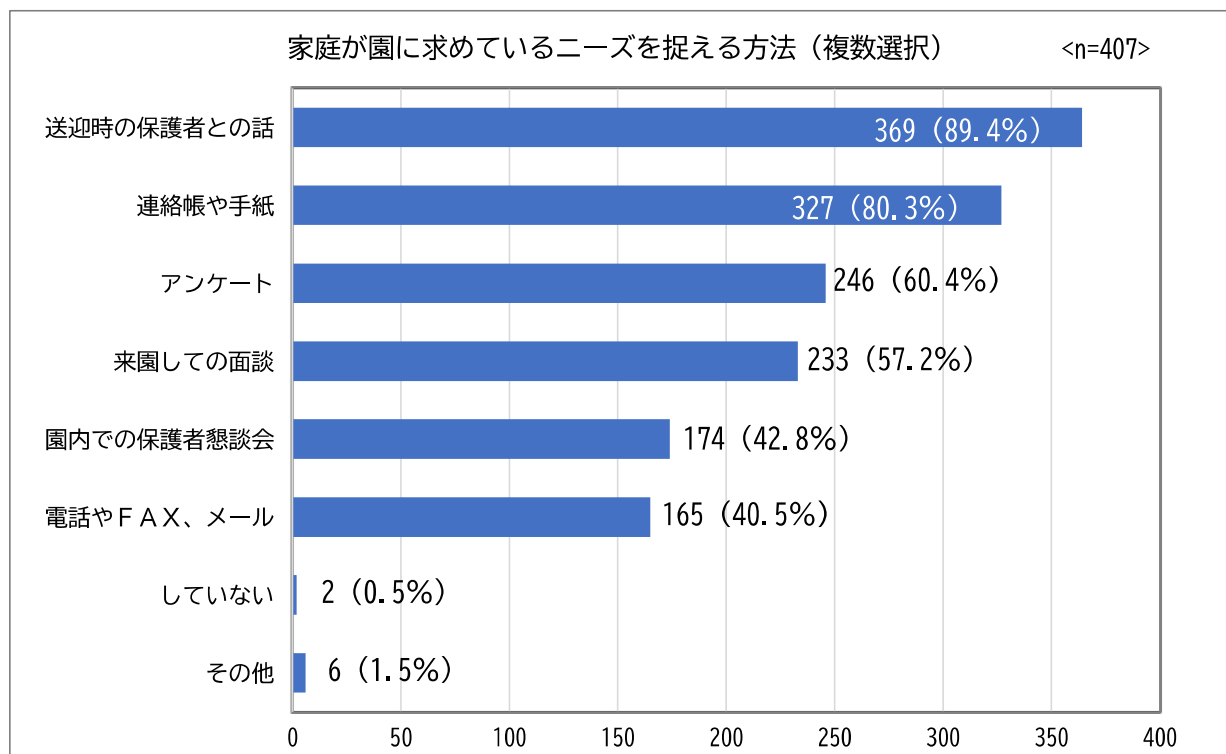
- ・園の行事に対して関心をもっといただける
- ・園への理解が深まった
- ・散歩時の挨拶が積極的にできるようになっている
- ・地域住民から喜びの声が得られている
- ・地域の人とのつながりが生まれた
- ・園の存在感のアピールになっている
- ・学生が職場体験や実習で保育者の仕事に興味を持った など

(9) 家庭や地域への情報発信の方法



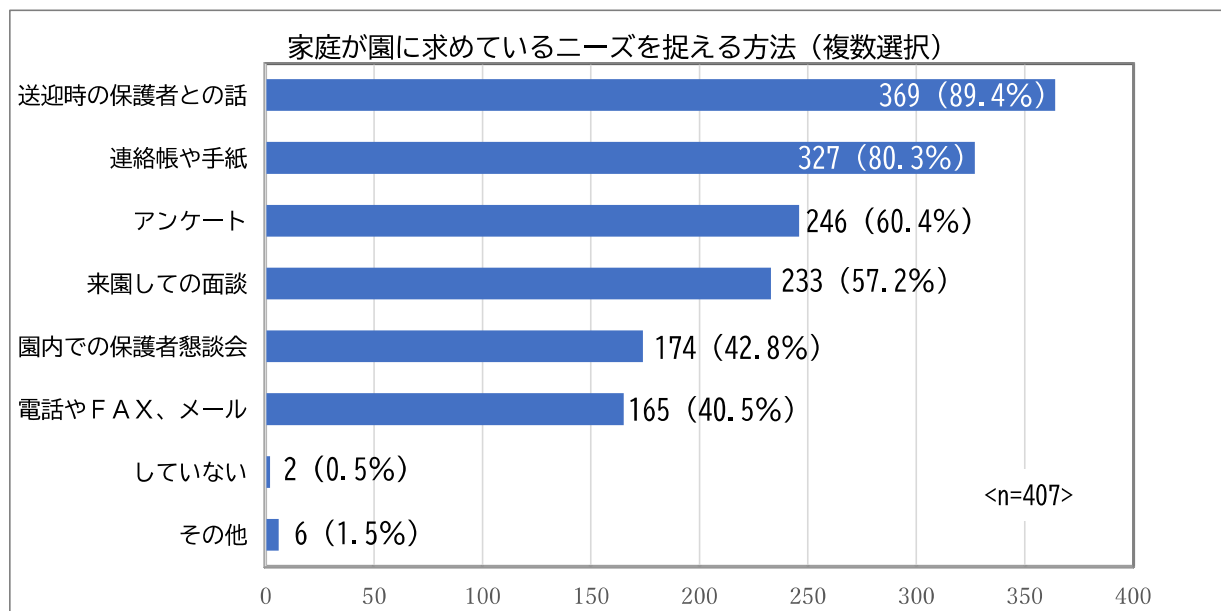
【その他】
 ・地域広報誌、市政だより ・学校運営協議会 ・新聞
 ・連絡アプリ ・おたより、チラシ配り、ポスター貼り、地域訪問 など

(10) 家庭が園に求めているニーズを捉える方法



【その他】
 ・役員会 ・学校運営協議会 ・連絡アプリ ・学校評価 など

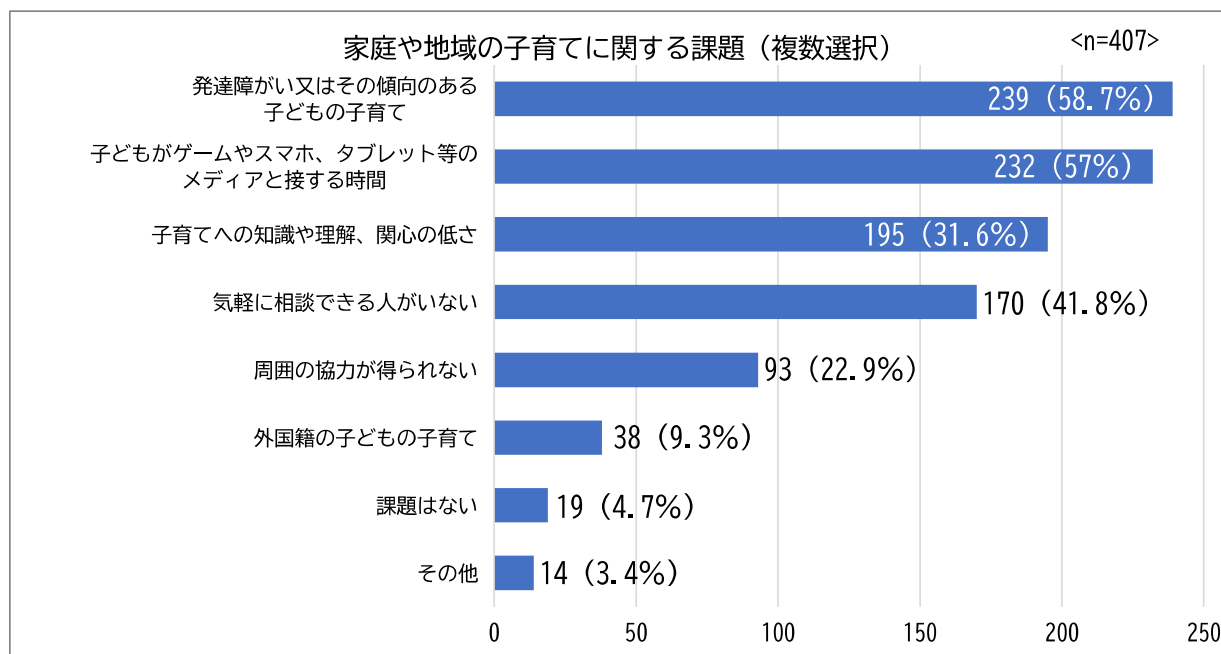
(11) 地域が園に求めているニーズを捉える方法



- 【その他】
- ・学校運営協議会
 - ・地域の協力委員会
 - ・第三者委員からの話
 - ・行事への招待時
 - ・評議員
 - ・地域の方との交流（運営アドバイザー）時
 - ・普段のコミュニケーション
 - ・児童民生委員
 - ・園評価
 - ・社会福祉協議会
 - ・子育て支援や地域での集まり、子育て研修への参加時
 - など

(12) 家庭や地域の子育てに関する課題

幼児教育振興指針 P.28 【図8】



- 【その他】
- ・持続的で開かれた子育て支援
 - ・現状の把握の困難さ
 - ・時間の確保
 - ・少子高齢化
 - ・屋外に出向くことが困難な家庭への支援
 - ・決まりやルールを守る、社会性を育てること
 - ・しっかりした朝食の摂取が不十分であること
 - ・触れ合いの場が少ない
 - ・保護者の忙しさ
 - ・早朝から夕方までの保育の上、通園時間が長く子どもの生活リズムへの不安
 - ・家庭毎の教育観の違い
 - ・子育て困難家庭への支援（就労、経済的困難、家庭の状況、社会からの孤立、子どもの障がい、虐待）
 - など